

第 10 回
豊川市市民意識調査報告書

【概要版】

平成25年8月

豊 川 市

はじめに

豊川市では、第5次総合計画に基づき「光と緑に映え、ゆたかで、住みよい、夢のあるまち」の実現を目指して、都市機能や産業基盤の整備、教育・文化・福祉の充実に努めています。合併により拡大した市域の一体感を醸成し、個性的で魅力あるまちづくりを進めていくには、皆様のご意見を積極的にお伺いすることが重要であると考えています。

そこで、市民の皆様に、市のこれまでの取り組みに対する評価をいただき、現在の生活環境や今後のまちづくりについてのご意見、ご要望等をお聴きするために、3分野36項目からなる「第10回豊川市市民意識調査」を実施しました。

このたび、調査結果がまとまりましたのでここに公表するとともに、いただいた貴重なご意見については、市民の皆様に満足していただける市政の実現に向けて活用してまいります。

最後に、ご多用の中、本調査にご協力いただきました多くの市民の皆様に心から御礼申し上げます。

平成25年8月

豊川市長 山 脇 実

I 調査概要

1 調査対象及び調査方法

- | | |
|---------|-------------------|
| ①調査地域 | ・豊川市全域 |
| ②調査対象者 | ・豊川市に在住する20歳以上の男女 |
| ③標本数 | ・5,000人 |
| ④標本抽出方法 | ・住民基本台帳等による無作為抽出 |
| ⑤調査期間 | ・平成25年5月1日から14日まで |
| ⑥調査方法 | ・郵送配布、郵送回収 |

2 調査票の回収状況

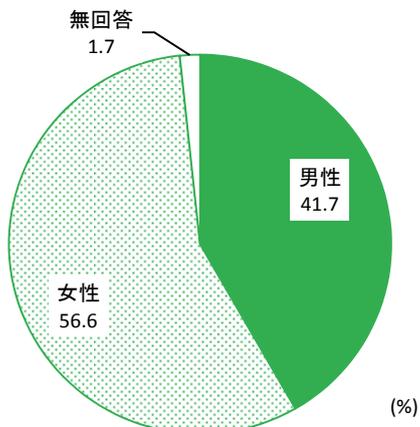
有効配布数	回収数	回収率
4,977件	2,781件	55.9%

3 報告書の見方

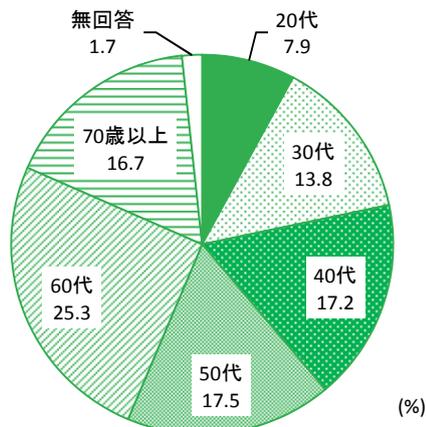
- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回収数を示している。
- ・比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100.0%にならない場合もある。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合がある。
- ・グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略している。また、選択肢の文章を簡略化してある場合もある。

Ⅱ 回答者の属性

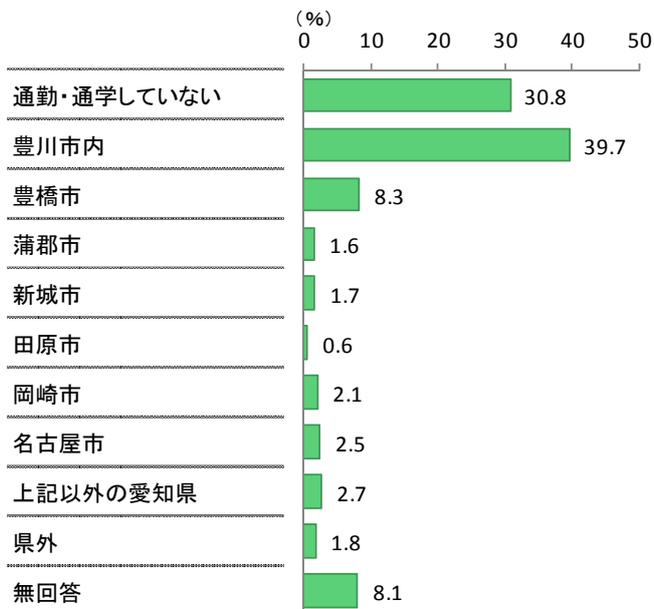
図表 1 性別



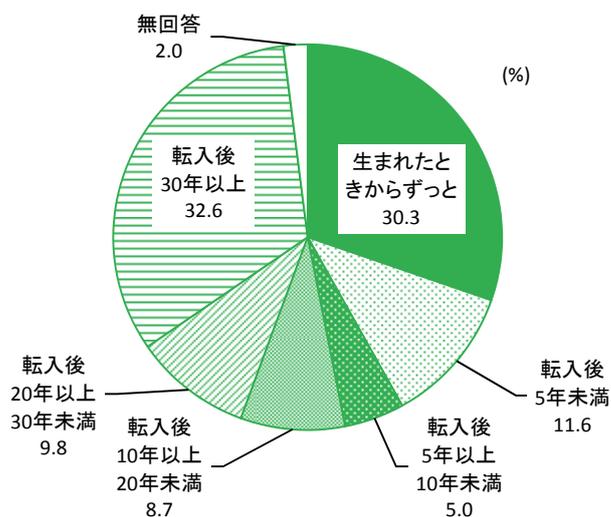
図表 2 年齢



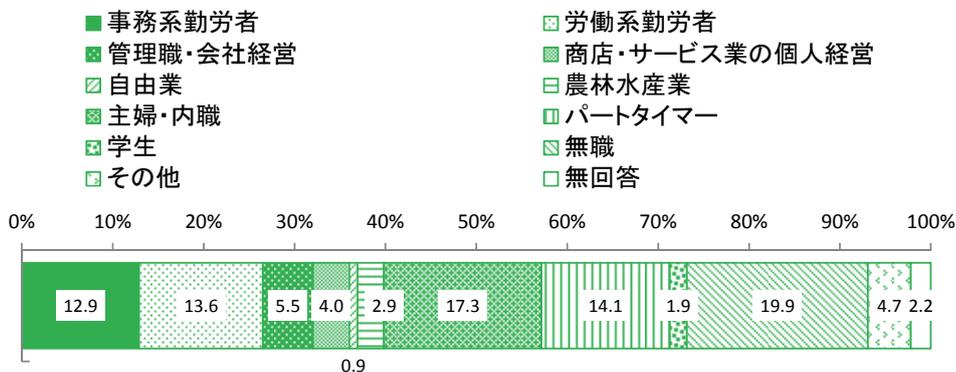
図表 3 通勤・通学先



図表 4 居住年数



図表 5 職業



Ⅲ 調査の分析

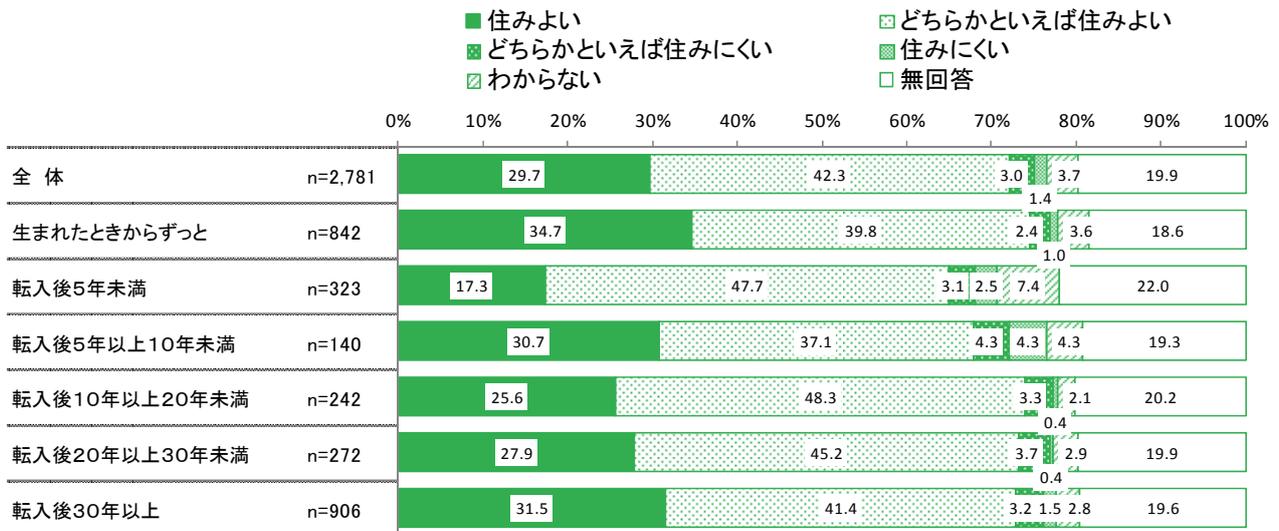
1 市全体の生活環境

1-1 豊川市の住みよさ

◆ “住みよい” が 72.0%、“住みにくい” が 4.4%

豊川市の住みよさについて「どちらかといえば住みよい」(42.3%) が最も高く、次いで「住みよい」(29.7%) となっており、この2つをあわせた“住みよい”は 72.0%となっている。一方、「どちらかといえば住みにくい」(3.0%)、と「住みにくい」(1.4%) をあわせた“住みにくい”は 4.4%となっている。【図表 6】

図表 6 豊川市の住みよさ

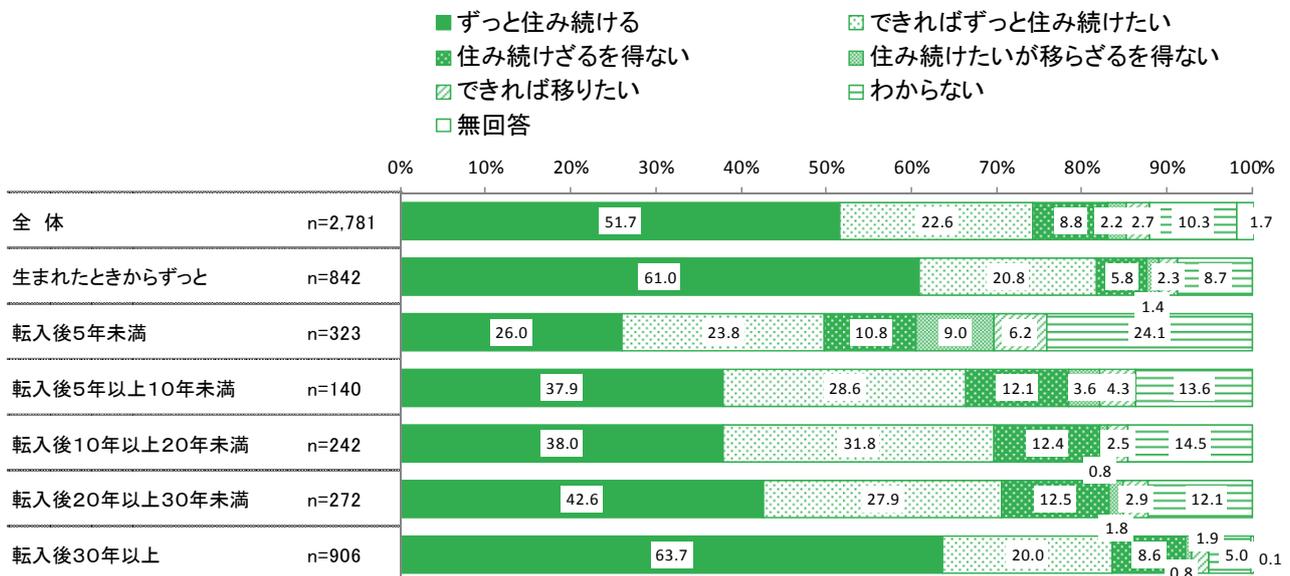


1-2 定住意向

◆ 「ずっと住み続ける」が 51.7%、「できれば住み続けたい」が 22.6%

定住意向について、「ずっと住み続ける」(51.7%) が最も高く、次いで「できればずっと住み続けたい」(22.6%)、「できれば移りたい」(10.3%) の順となっている。【図表 7】

図表 7 定住意向



2 豊川市の市政の評価

1 満足度の評価

(1) 全体評価

豊川市の市政における現状の満足度について、「安全・安心」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・交流」「行政・協働」の6分野42項目に対して、「満足」を+2点、「まあ満足」を+1点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点、「わからない」を0点として項目ごとに評価点を算出した。その結果、豊川市全体では、市政の満足度の平均値は0.18となっており、前回の0.13から0.05ポイント増加している。【図表8】

◆ 満足度がプラス評価の項目が31項目、マイナス評価の項目が11項目。

項目別にみると、満足度がプラスになっている項目は合計31項目あり、満足度の高い項目から順に「水道水の安全・安定供給」(1.01)、「緑・自然の豊かさ」(0.80)、「ごみ処理対策」(0.70)、「消防体制」(0.62)、「生活における衛生環境」(0.61)などとなっている。

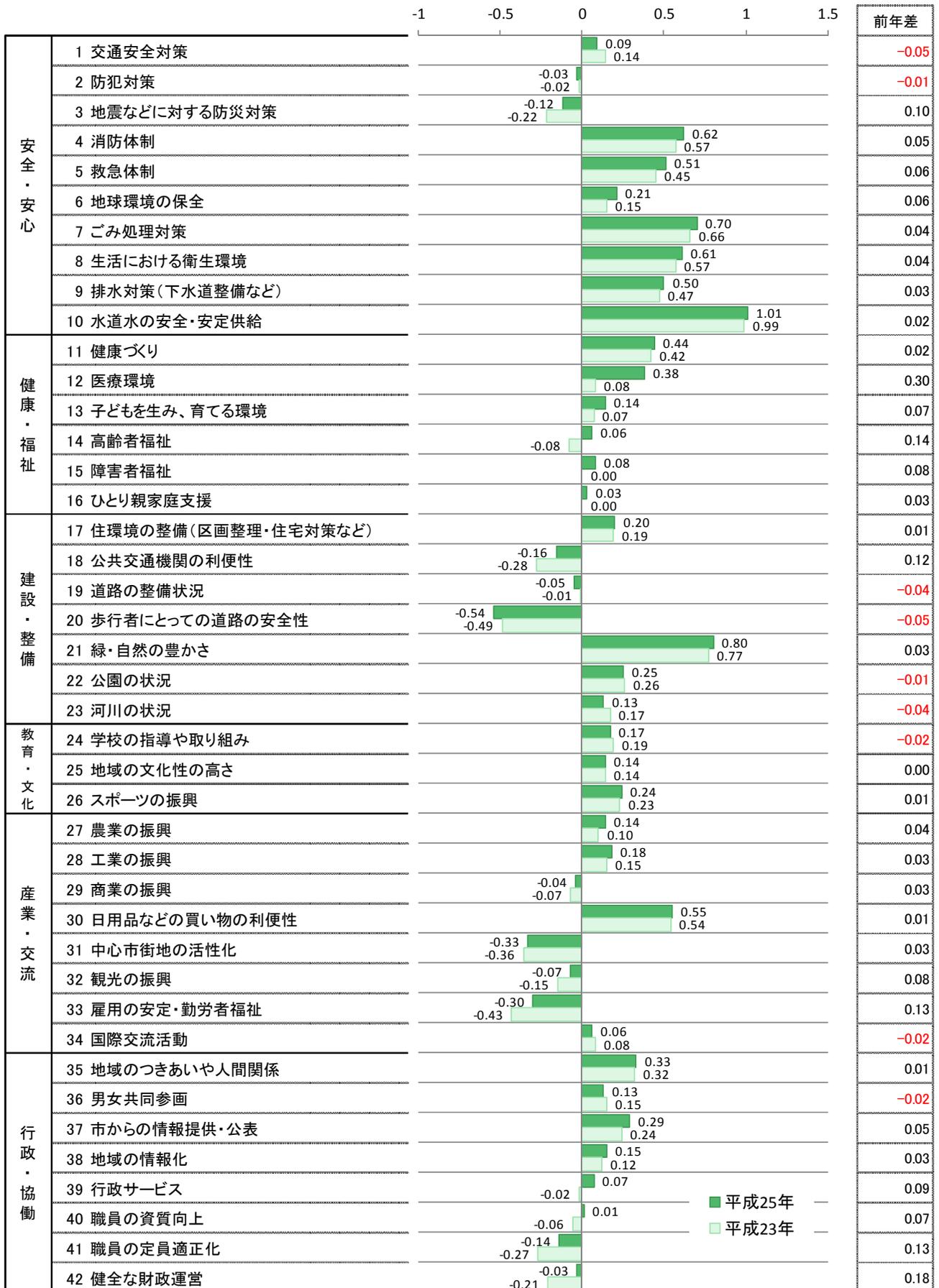
一方、満足度がマイナスになっている項目は、合計11項目あり、満足度の低い項目から順に「歩行者にとっての道路の安全性」(-0.54)、「中心市街地の活性化」(-0.33)、「雇用の安定・勤労者福祉」(-0.30)、「公共交通機関の利便性」(-0.16)、「職員の定員適正化」(-0.14)などとなっている。【図表8】

◆ 前回より評価点が高くなった項目が32項目、低くなった項目が9項目。

前回調査より満足度の評価点が高くなった項目は32項目となっている。特に「医療環境」が0.30ポイント高くなっており、次いで「健全な財政運営」が0.18ポイント、「高齢者福祉」が0.14ポイント、「雇用の安定・勤労者福祉」が0.13ポイント、「職員の定員適正化」が0.13ポイント高くなっている。

一方、前回調査より満足度の評価点が低くなった項目は9項目で、「交通安全対策」で-0.05ポイント、「歩行者にとって道路の安全性」が-0.05ポイント、「道路の整備状況」が-0.04ポイント、「河川の状況」が-0.04ポイントなど、前回より低くなっている。【図表8】

図表 8 市政に対する満足度の評価点



2 重要度の評価

(1) 全体評価

豊川市の今後の市政を進めるにあたっての重要度を、「安全・安心」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・交流」「行政・協働」の6分野42項目に対して、「非常に重要」を+2点、「やや重要」を+1点、「さほど重要ではない」を-1点、「重要でない」を-2点、「わからない」を0点として項目ごとに評価点を算出した。その結果、豊川市全体では、市政の重要度の平均値は1.05となっており、最大値は1.64、最小値は0.21であった。【図表 10】

◆ **重要度の評価点が1.00以上の項目が22項目、1.00未満の項目が20項目。**

分野別にみると、「安全・安心」分野（1.43）、「健康・福祉」分野（1.22）での重要度が高くなっている。【図表 9】

項目別にみると、「地震などに対する防災対策」（1.64）で重要度が最も高くなっており、次いで「防犯対策」（1.63）、「救急体制」（1.63）、「交通安全対策」（1.62）、「医療環境」（1.56）の順となっており、上位4項目は安全・安心分野の項目となっているため、この分野の重要度は高い。【図表 10】

◆ **前回より評価点が高くなった項目が12項目、低くなった項目が26項目。**

前回調査より重要度が高くなった項目は12項目となっている。最も増加がみられた項目は「道路の整備状況」と「日用品などの買い物の利便性」でともに0.09ポイント増となっている。

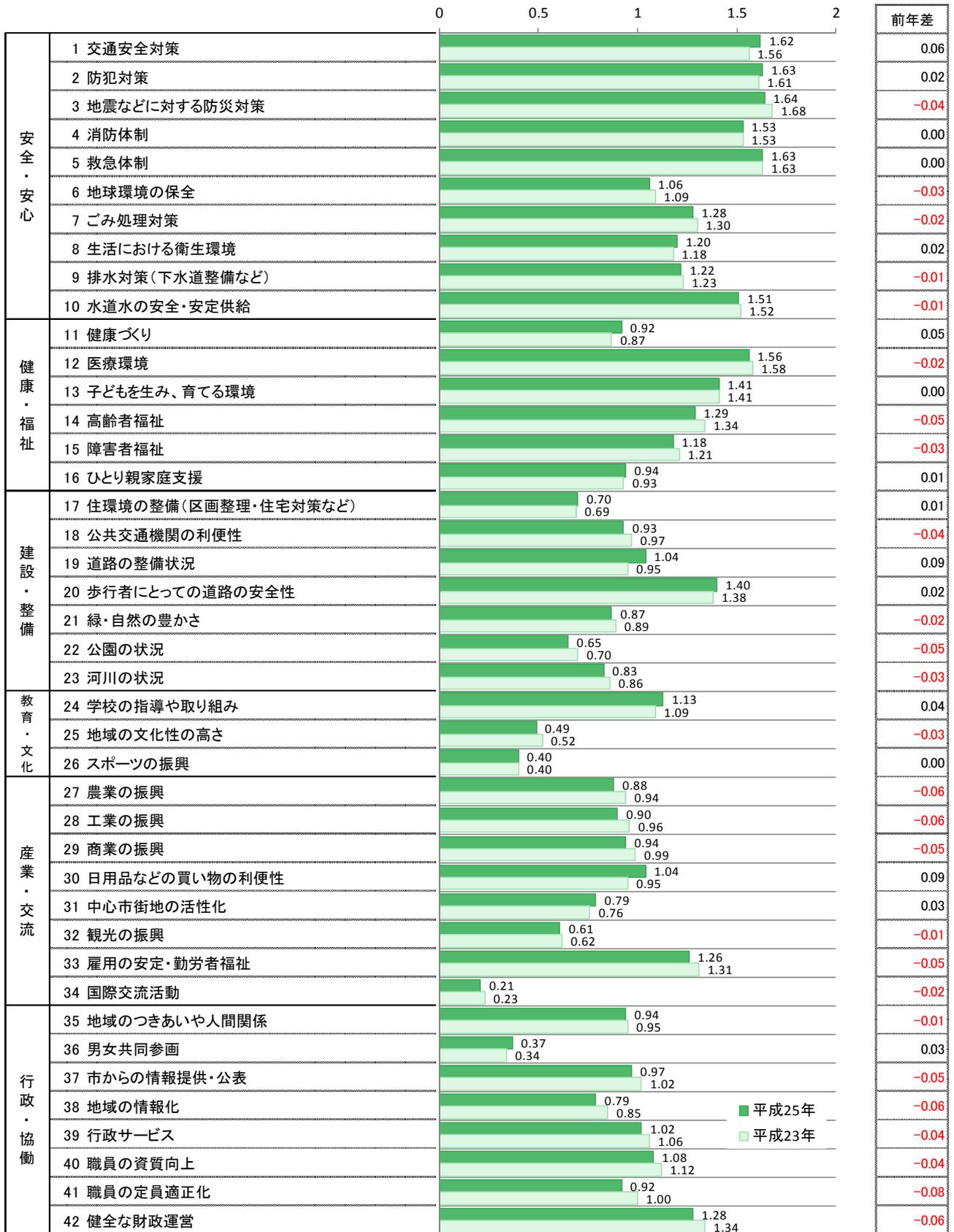
一方、前回調査より重要度が低くなった項目は26項目で、「職員の定員適正化」で-0.08ポイントの減少がみられた。

前回同様、安全・安心分野で全体的に重要度が高く、健康・福祉分野でも重要度の高い項目が多くみられる。【図表 10】

図表 9 分野別重要度平均値

	全体	安全・安心	健康・福祉	建設・整備	教育・文化	産業・交流	行政・協働
重要度平均値	1.05	1.43	1.22	0.92	0.67	0.83	0.92

図表 10 市政に対する重要度の評価点



3 満足度と重要度の評価

(1) 全体評価

- ◆ 全体では、「歩行者にとっての道路の安全性」、「地震などに対する防災対策」、「防犯対策」、などで満足度が低く、重要度が高くなっており、優先度が高い。

豊川市の市政における現在の満足度の評価点と重要度の評価点を「安全・安心」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・交流」「行政・協働」の6分野 42 項目について算出し、座標上に表した。横軸が満足度、縦軸が重要度となっており、それぞれの平均値は、満足度が 0.18、重要度が 1.05 となっている。

図の左上部分は、重要度が高く、満足度が低い項目であり、今後の施策の強化が望まれている優先度の高い項目であると言える。【図表 12】

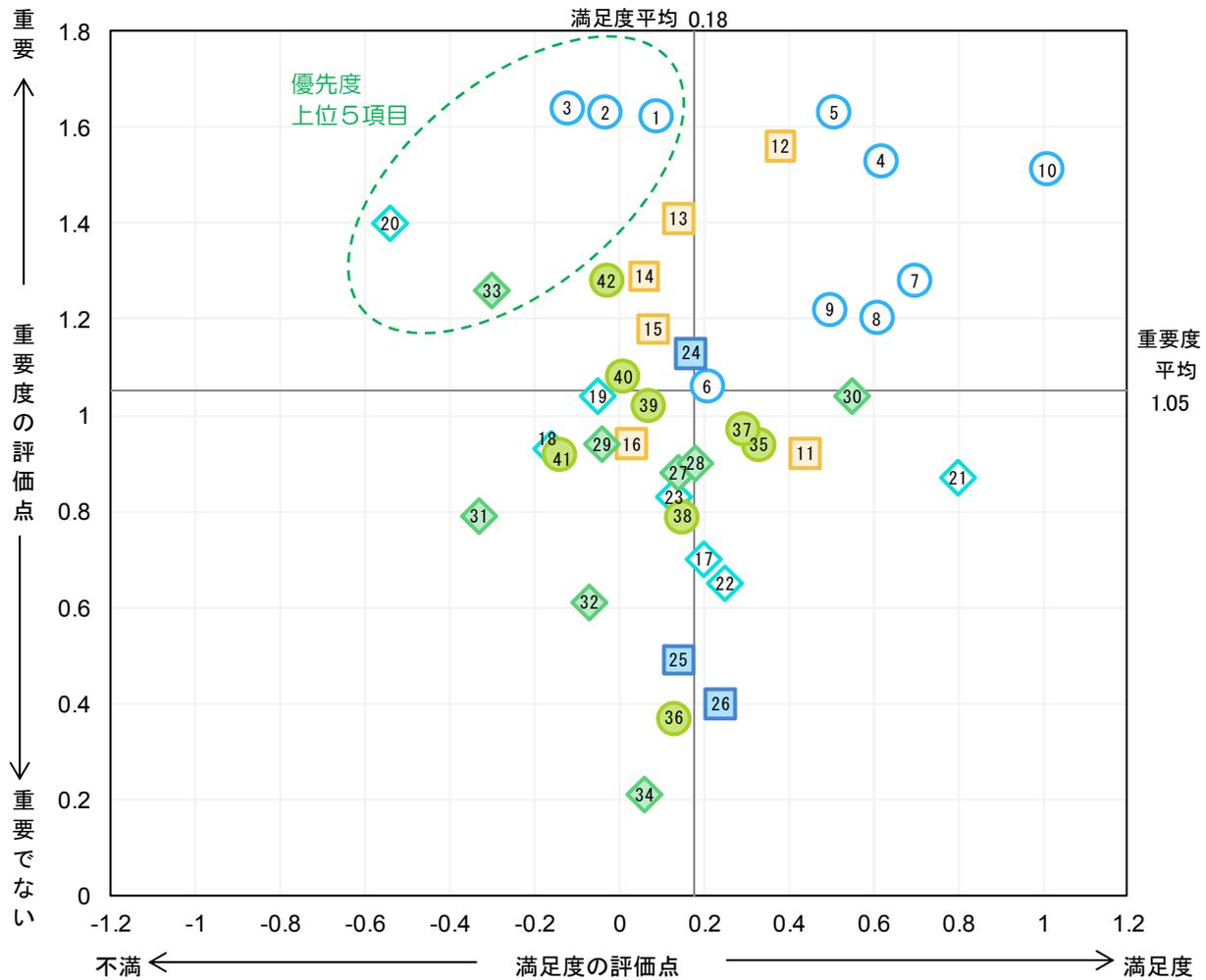
強化が望まれている優先度*の高い項目は、「歩行者にとっての道路の安全性」(1.94)、「地震などに対する防災対策」(1.76)、「防犯対策」(1.66)、「雇用の安定・勤労者福祉」(1.56)、「交通安全対策」(1.53) などとなっている。【図表 11】

※優先度は「重要度－満足度」で算出し、値が大きいものを優先度が高いと評価している。

図表 11 満足・重要・優先度 5 項目

順位	満足度 下位5項目		重要度 上位5項目		優先度 上位5項目	
1	歩行者にとっての道路の安全性	-0.54	地震などに対する防災対策	1.64	歩行者にとっての道路の安全性	1.94
2	中心市街地の活性化	-0.33	防犯対策	1.63	地震などに対する防災対策	1.76
3	雇用の安定・勤労者福祉	-0.30	救急体制	1.63	防犯対策	1.66
4	公共交通機関の利便性	-0.16	交通安全対策	1.62	雇用の安定・勤労者福祉	1.56
5	職員の定員適正化	-0.14	医療環境	1.56	交通安全対策	1.53

図表 12 市政に対する満足度と重要度の関係



凡 例								
○ 安全・安心	1	交通安全対策	◇ 建設・整備	17	住環境の整備(区画整理・住宅対策など)	● 行政・協働	35	地域のつきあいや人間関係
	2	防犯対策		18	公共交通機関の利便性		36	男女共同参画
	3	地震などに対する防災対策		19	道路の整備状況		37	市からの情報提供・公表
	4	消防体制		20	歩行者にとっての道路の安全性		38	地域の情報化
	5	救急体制		21	緑・自然の豊かさ		39	行政サービス
	6	地球環境の保全		22	公園の状況		40	職員の資質向上
	7	ごみ処理対策		23	河川の状況		41	職員の定員適正化
	8	生活における衛生環境		24	学校の指導や取り組み		42	健全な財政運営
	9	排水対策(下水道整備など)		25	地域の文化性の高さ			
	10	水道水の安全・安定供給		26	スポーツの振興			
□ 健康・福祉	11	健康づくり	◇ 産業・交流	27	農業の振興			
	12	医療環境		28	工業の振興			
	13	子どもを生き、育てる環境		29	商業の振興			
	14	高齢者福祉		30	日用品などの買い物の利便性			
	15	障害者福祉		31	中心市街地の活性化			
	16	ひとり親家庭支援		32	観光の振興			
			33	雇用の安定・勤労者福祉				
			34	国際交流活動				

3 安全・安心について

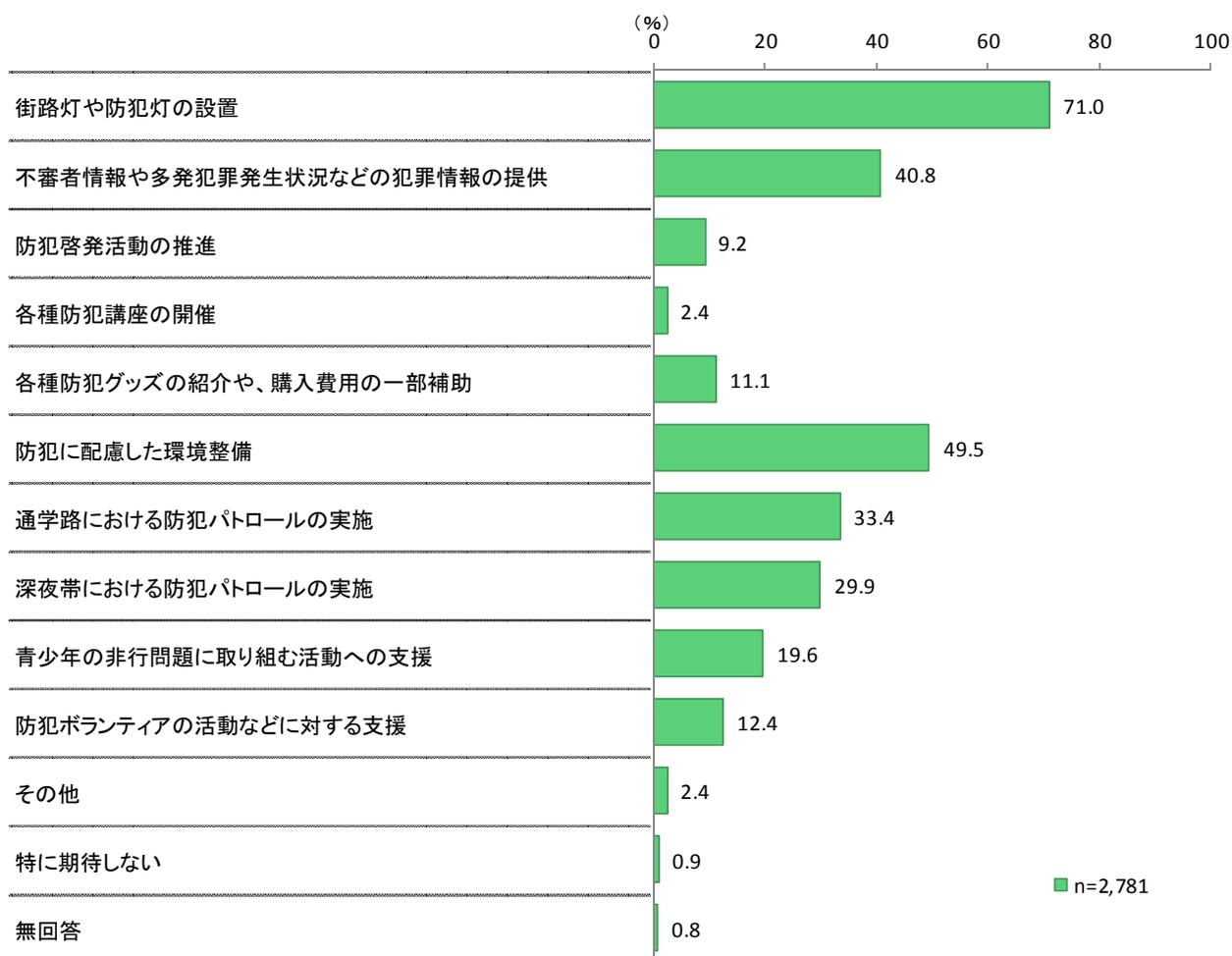
1 防犯対策の行政への期待

問3 あなたは、防犯対策について、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 防犯対策で行政に期待することは「街路灯や防犯灯の設置」が71.0%

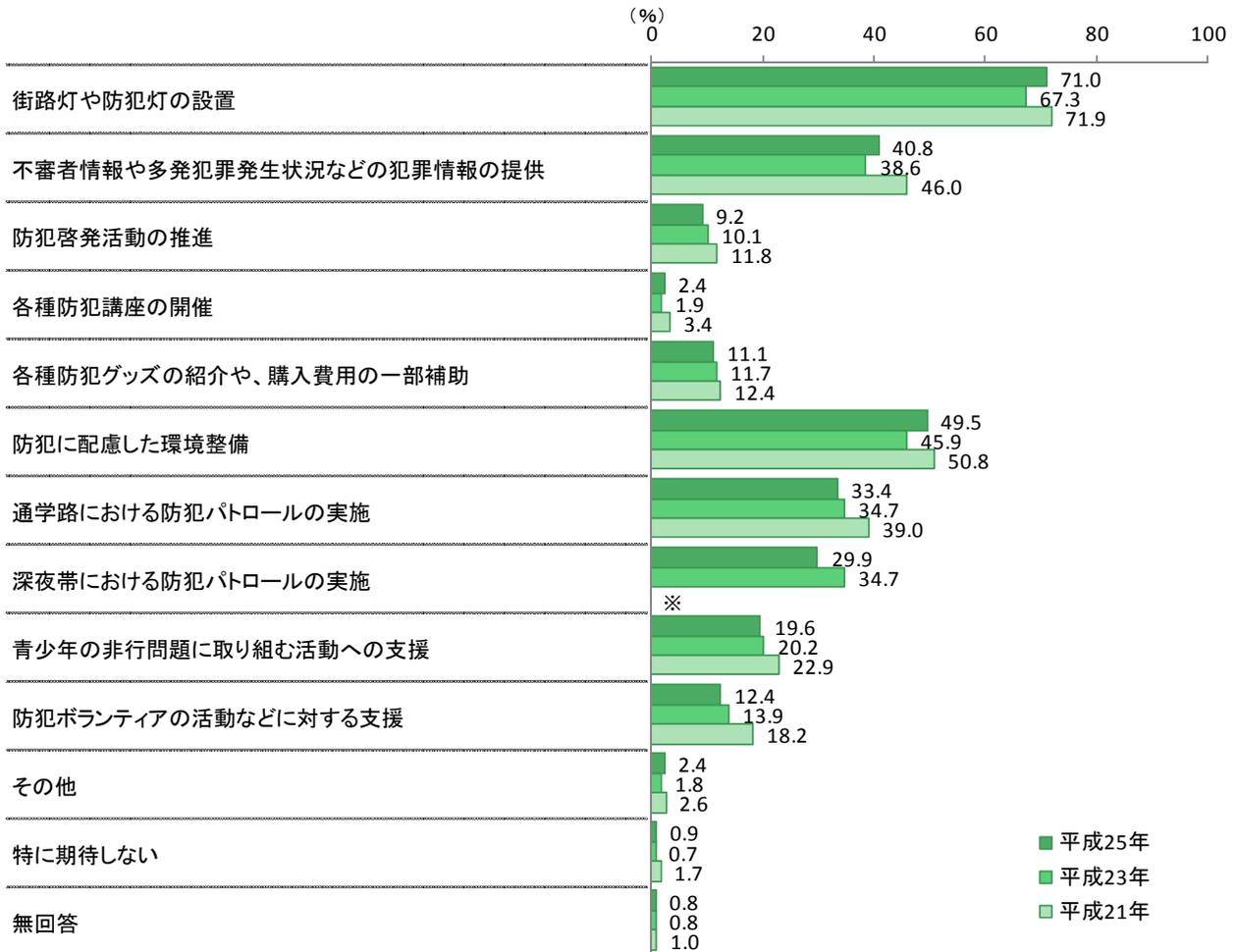
防犯対策への期待では、「街路灯や防犯灯の設置」(71.0%)が最も高く、次いで「防犯に配慮した環境整備」(49.5%)、「不審者情報や多発犯罪発生状況などの犯罪情報の提供」(40.8%)の順となっている。【図表 13】

図表 13 防犯対策の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「街路灯や防犯灯の設置」(3.7ポイント増)、「防犯に配慮した環境整備」(3.6ポイント増)などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「深夜帯における防犯パトロールの実施」(4.8ポイント減)などとなっている。【図表 14】

図表 14 防犯対策の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

2 日ごろの地震に備えた対策

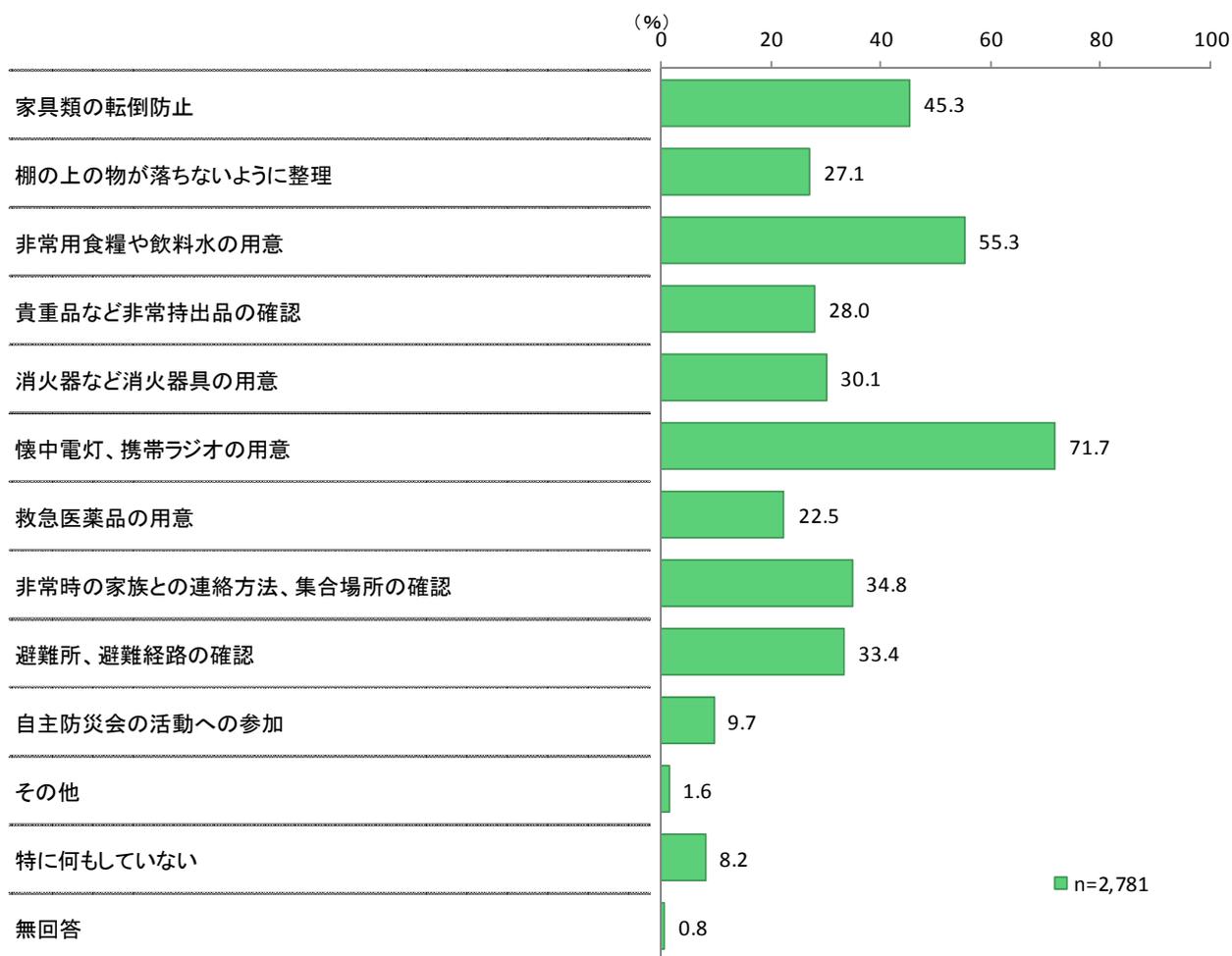
問4 あなたのご家庭では、日ごろ地震に備えてどのような対策をしていますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ 日ごろ地震に備えての対策は「懐中電灯、携帯ラジオの用意」が71.7%

日ごろ地震に備えた対策では、「懐中電灯、携帯ラジオの用意」(71.7%)が最も高く、次いで「非常用食糧や飲料水の用意」(55.3%)、「家具類の転倒防止」(45.3%)の順となっている。

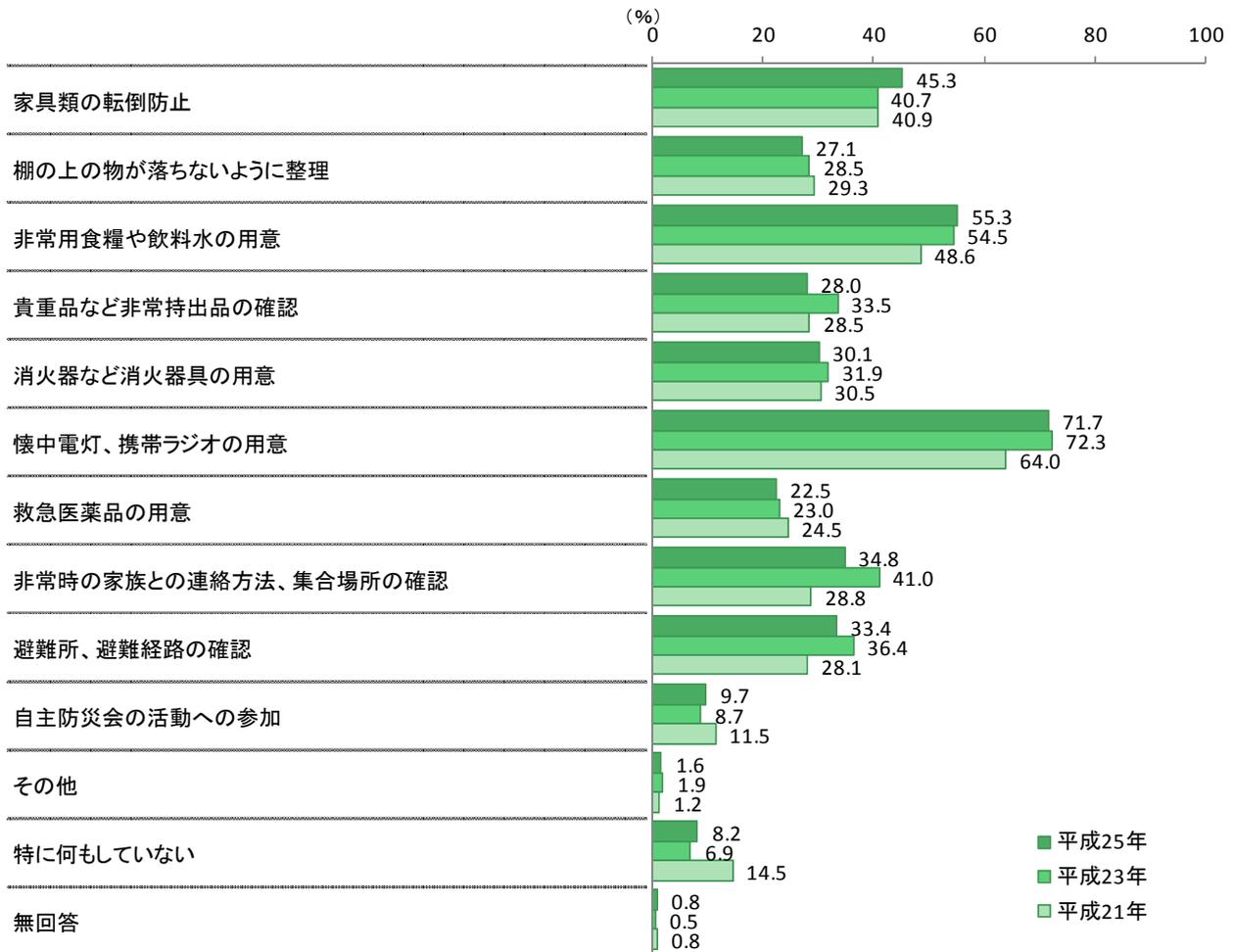
【図表 15】

図表 15 日ごろの地震に備えた対策



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「家具類の転倒防止」(4.6ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「非常時の家族との連絡方法、集合場所の確認」(6.2ポイント減)、「貴重品など非常持出品の確認」(5.5ポイント減)、「避難所、避難経路の確認」(3.0ポイント減)となっている。【図表 16】

図表 16 日ごろの地震に備えた対策（経年比較）



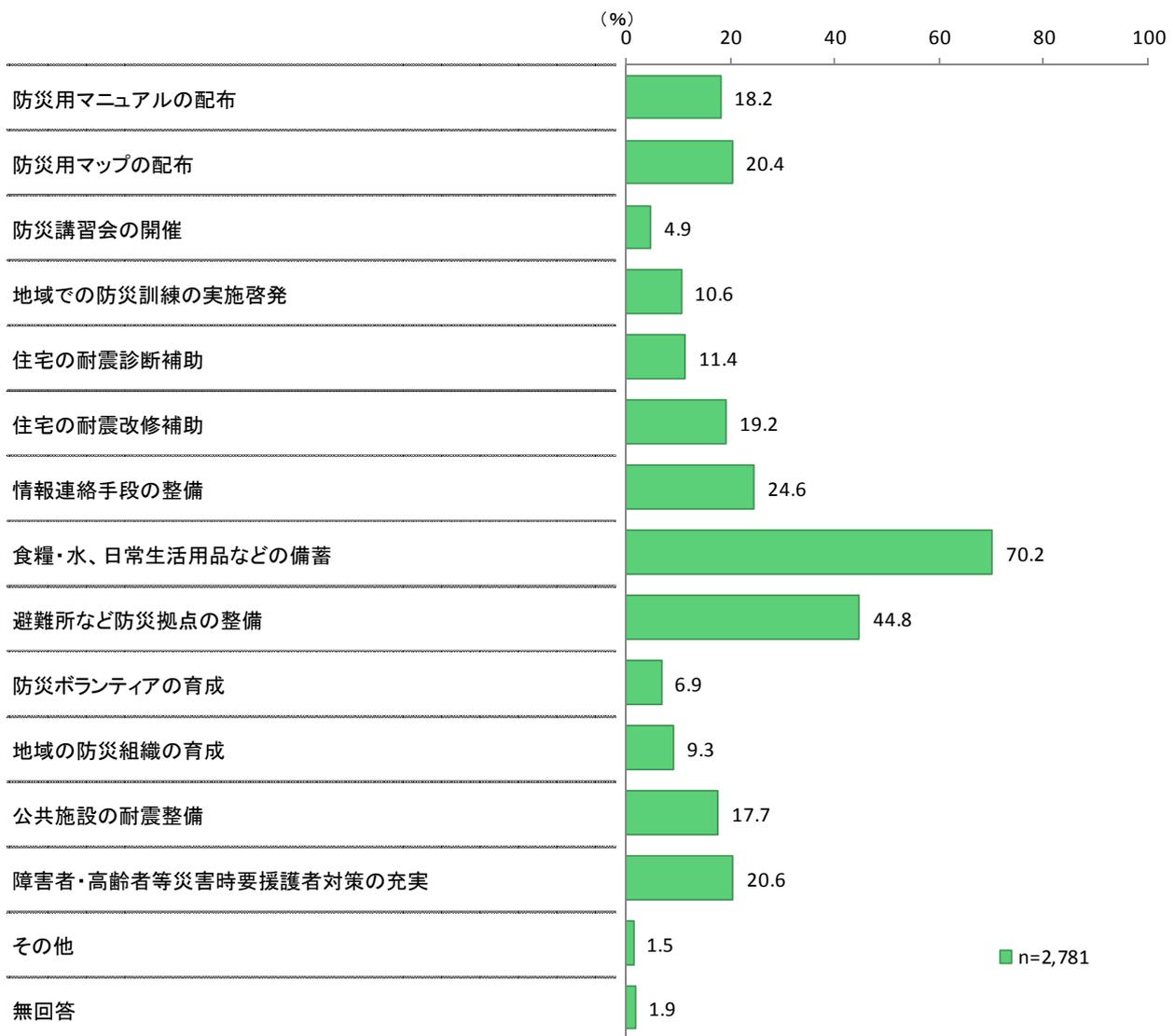
3 防災対策の行政への期待

問5 あなたは、防災対策として、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ **防災対策で行政に期待することは「食糧・水、日常生活用品などの備蓄」が70.2%**

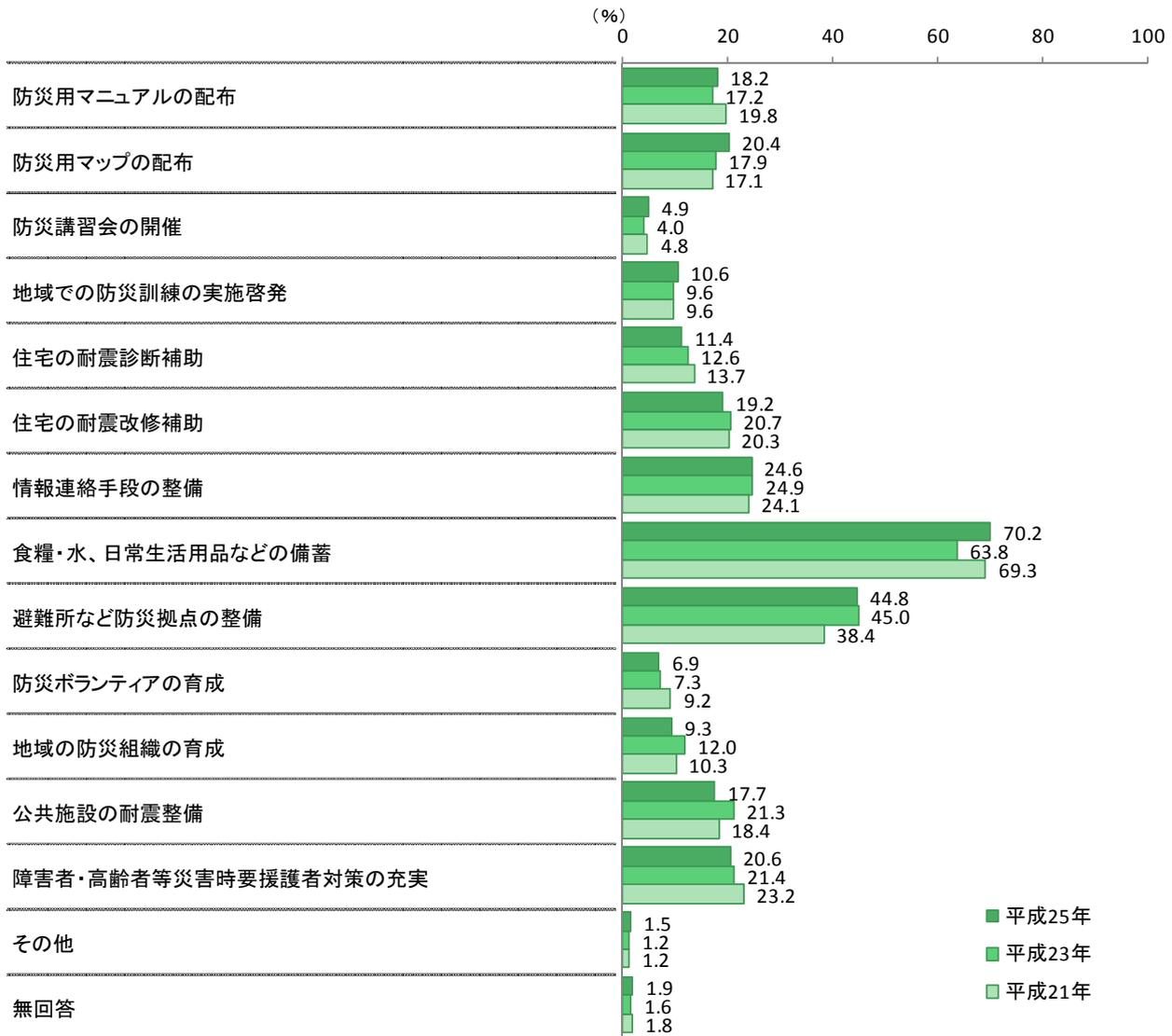
防災対策で行政に期待することは、「食糧・水、日常生活用品などの備蓄」(70.2%)が最も高く、次いで「避難所など防災拠点の整備」(44.8%)、「情報連絡手段の整備」(24.6%)の順となっている。【図表 17】

図表 17 防災対策の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「食糧・水、日常生活用品などの備蓄」(6.4ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「公共施設の耐震整備」(3.6ポイント減)となっている。【図表 18】

図表 18 防災対策の行政への期待（経年比較）



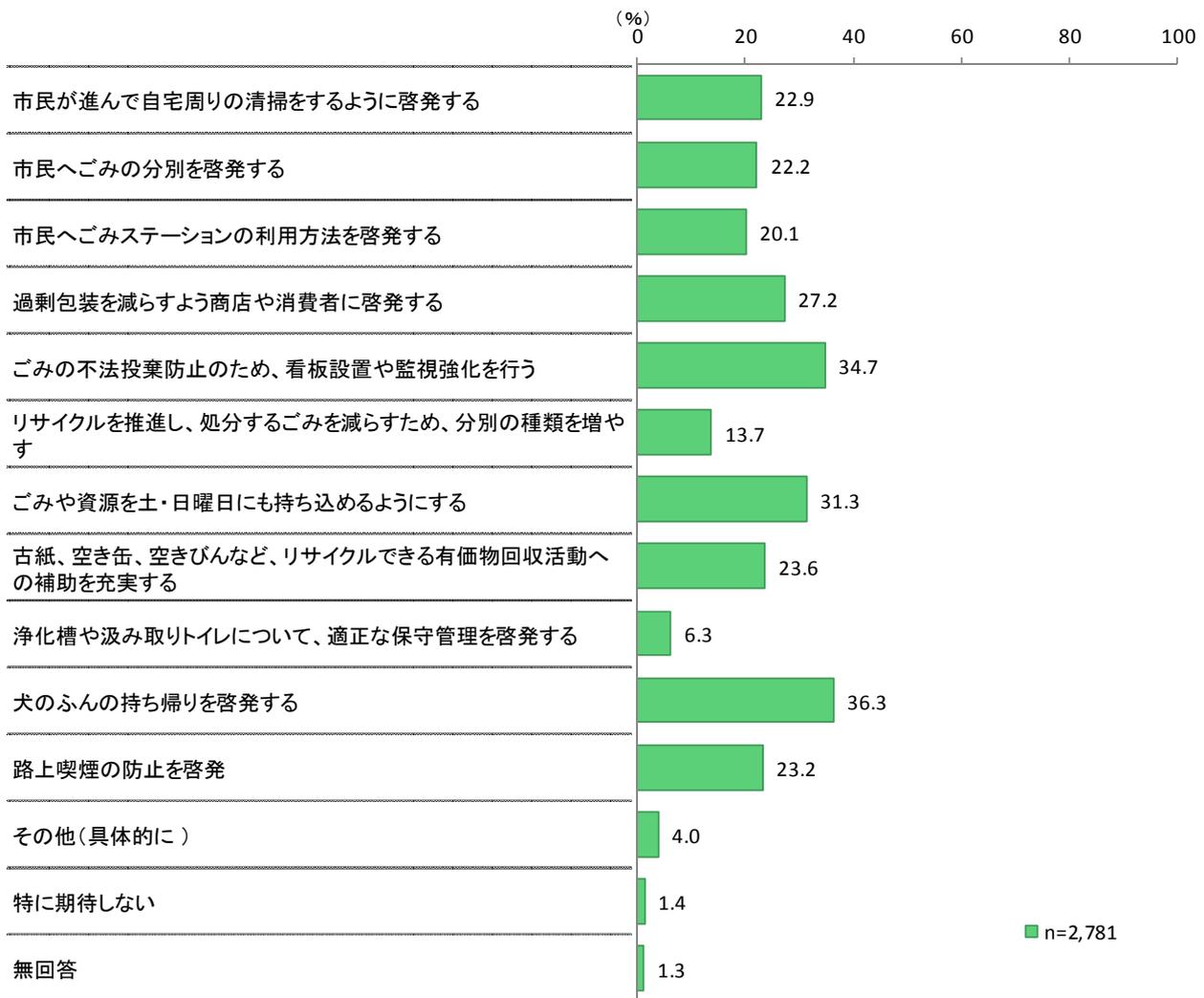
4 衛生環境の行政への期待

問6 あなたが生活するうえでの衛生環境について、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 衛生環境で行政に期待することは「犬のふんの持ち帰りを啓発する」が36.3%、「ごみの不法投棄防止のため、看板設置や監視強化を行う」が34.7%

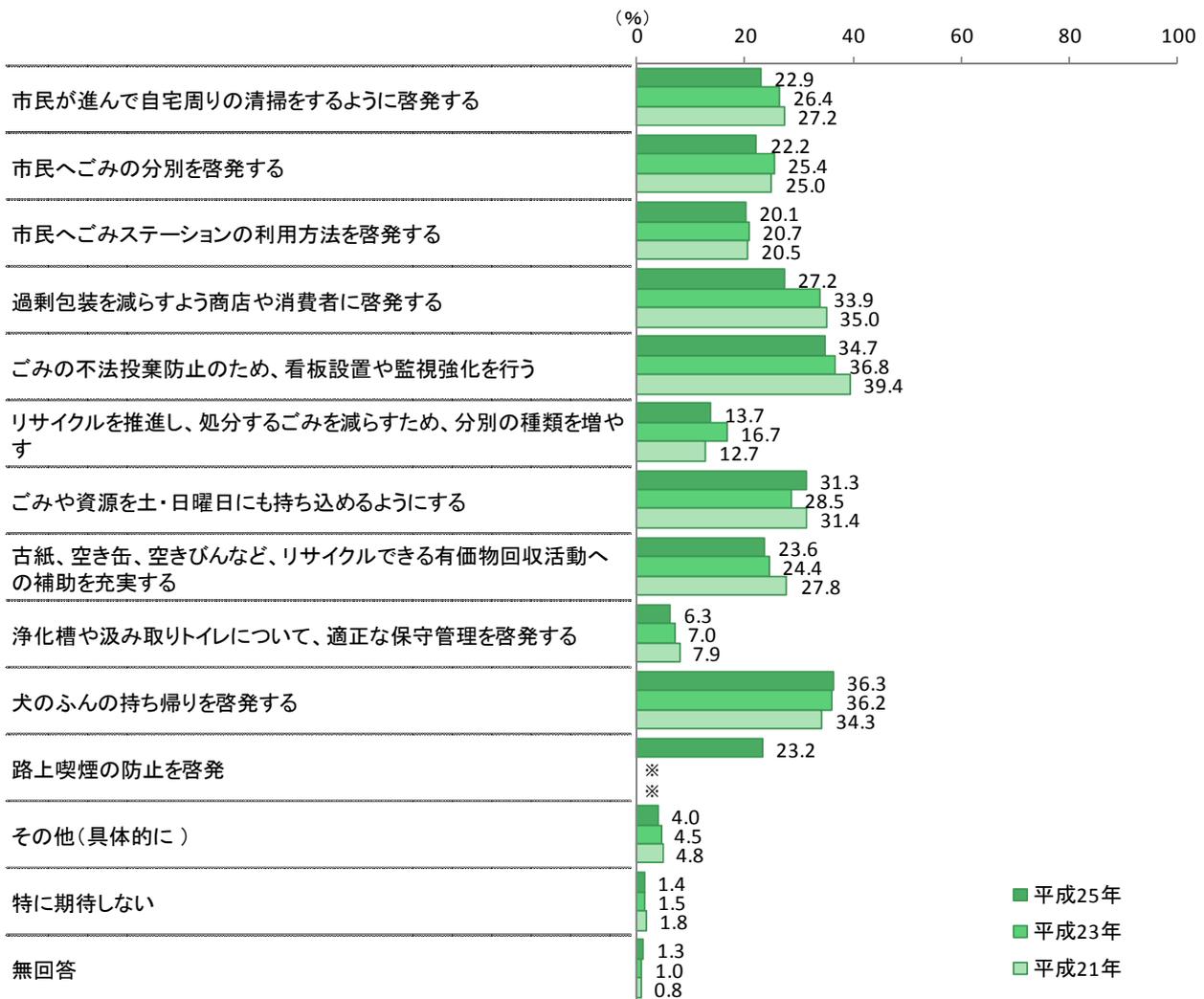
衛生環境で行政に期待することは、「犬のふんの持ち帰りを啓発する」(36.3%)が最も高く、次いで「ごみの不法投棄防止のため、看板設置や監視強化を行う」(34.7%)、「ごみや資源を土・日曜日にも持ち込めるようにする」(31.3%)の順となっている。【図表 19】

図表 19 衛生環境の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「過剰包装を減らすよう商店や消費者に啓発する」(6.7ポイント減)、「市民が進んで自宅周りの清掃をするように啓発する」(3.5ポイント減)、「市民へのごみの分別を啓発する」(3.2ポイント減)、「リサイクルを推進し、処分するごみを減らすため、分別の種類を増やす」(3.0ポイント減)となっている。一方、前回調査と比較し、大きく増加した項目ない。【図表 20】

図表 20 衛生環境の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

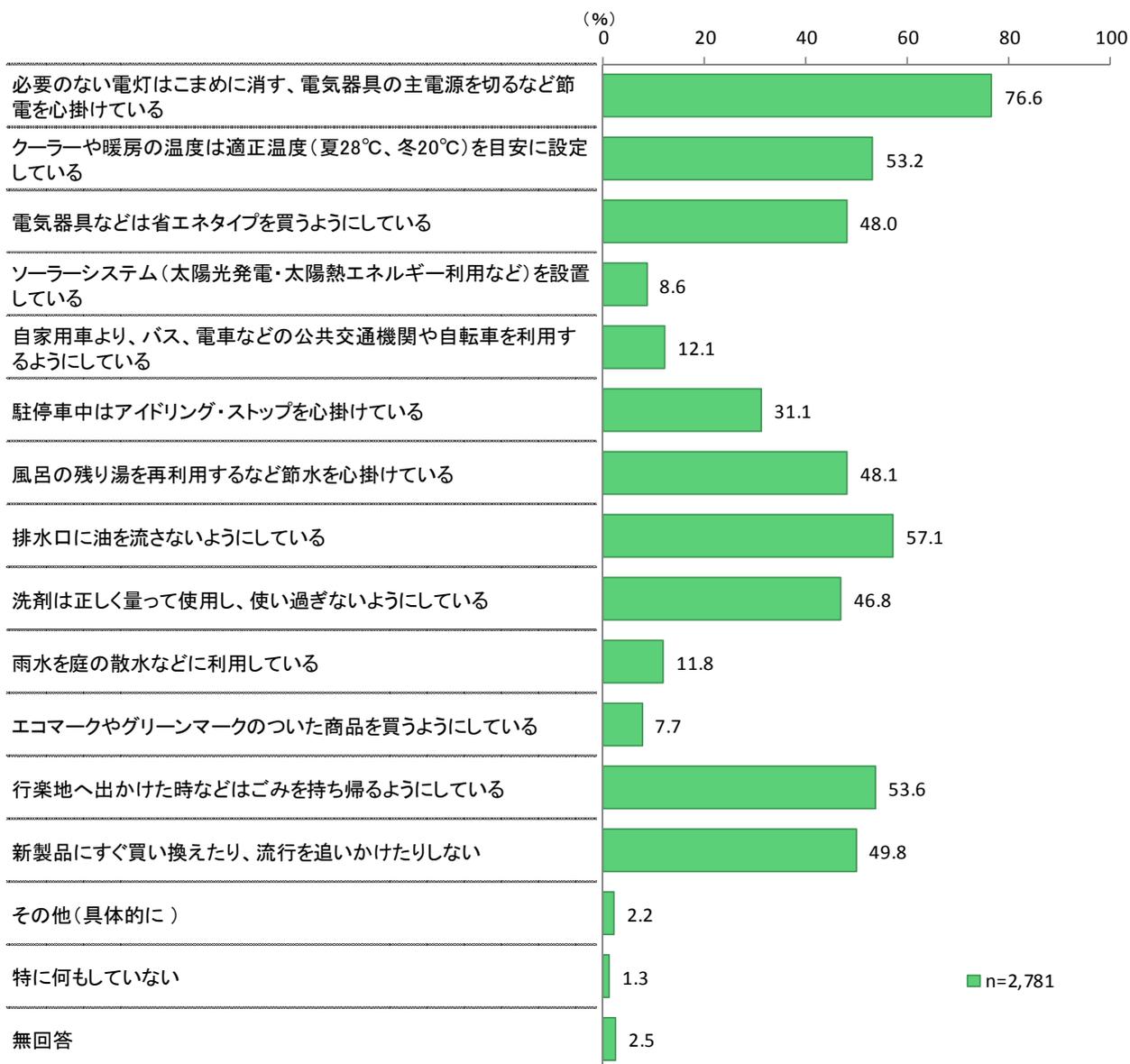
5 省エネや環境に負担をかけないための心掛け

問7 あなたは、日ごろ生活の中で省エネや環境に負担をかけないために、どのようなことを心掛けていますか。次の中から行っていることすべてに○印をつけてください。

- ◆ 日ごろ生活の中で省エネや環境に負担をかけないために心掛けていることは「必要のない電灯はこまめに消す、電気器具の主電源を切るなど節電を心掛けている」が76.6%

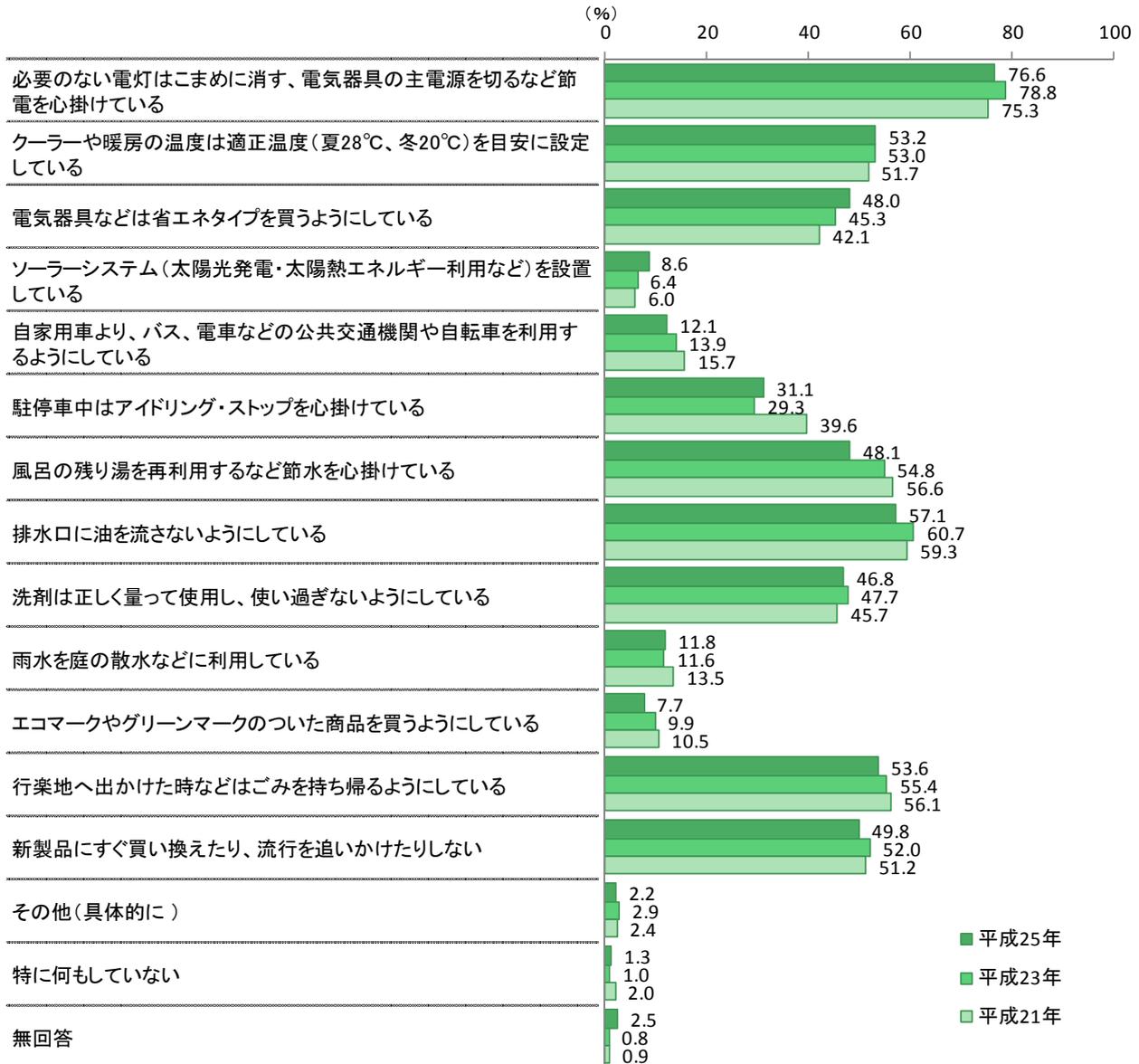
日ごろ生活の中で省エネや環境に負担をかけないために心掛けていることは、「必要のない電灯はこまめに消す、電気器具の主電源を切るなど節電を心掛けている」(76.6%)が最も高く、次いで「排水口に油を流さないようにしている」(57.1%)、「行楽地へ出かけた時などはごみを持ち帰るようにしている」(53.6%)、「クーラーや暖房の温度は適正温度(夏28℃、冬20℃)を目安に設定している」(53.2%)の順となっている。【図表 21】

図表 21 省エネや環境に負担をかけないための心掛け



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は「風呂の残り湯を再利用するなど節水を心掛けている」(6.7ポイント減)、「排水口に油を流さないようにしている」(3.6ポイント減)となっている。一方、前回調査と比較して大きく増加した項目はない。【図表 22】

図表 22 省エネや環境に負担をかけないための心掛け（経年比較）



4 健康・福祉について

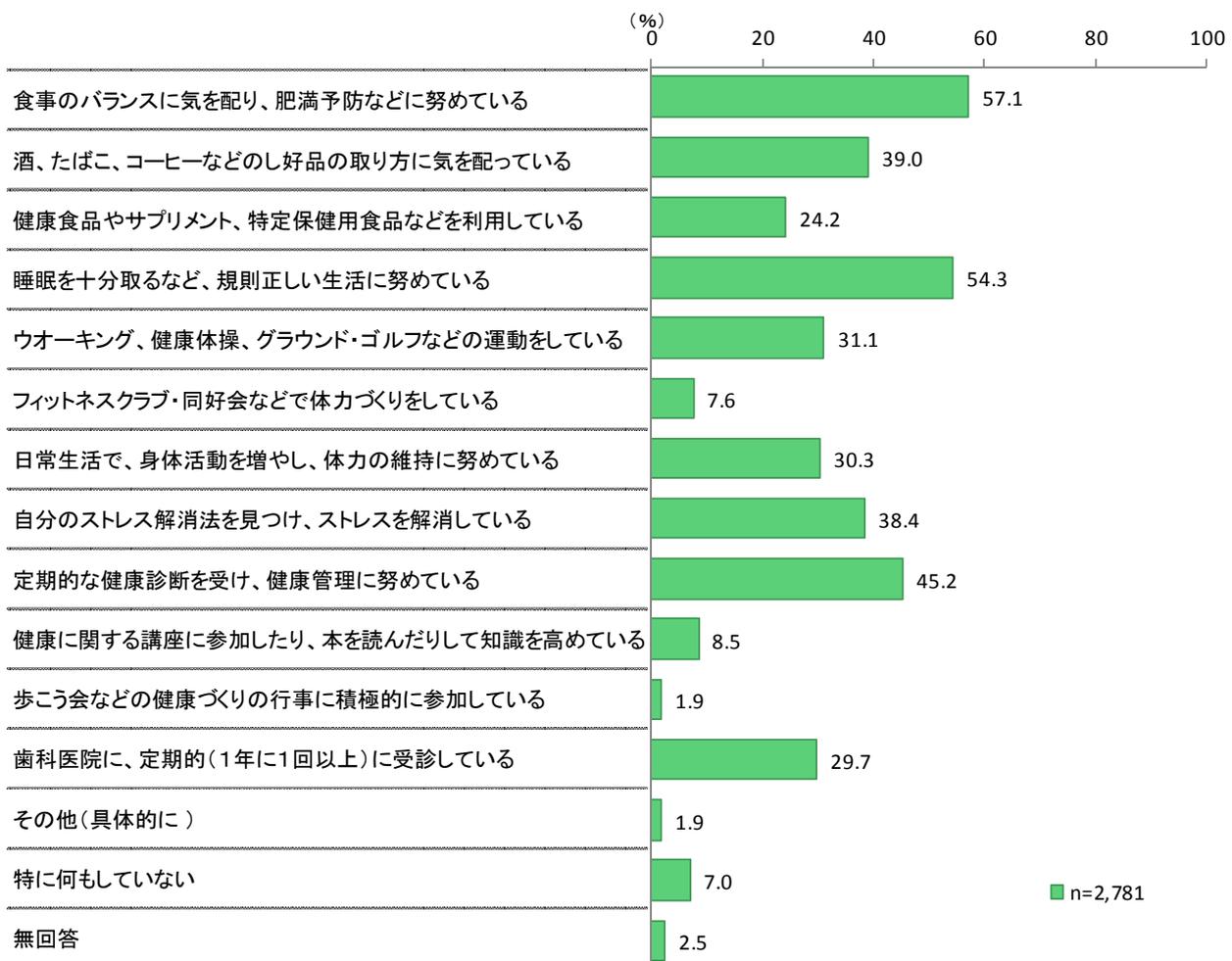
1 健康の維持・増進のための心掛け

問8 あなたは、健康維持や増進のために日ごろからどのようなことを心掛けていますか。次の中から行っていることすべてに○印をつけてください。

◆ 健康維持や増進のために日ごろから心掛けていることは「食事のバランスに気を配り、肥満予防などに努めている」が57.1%

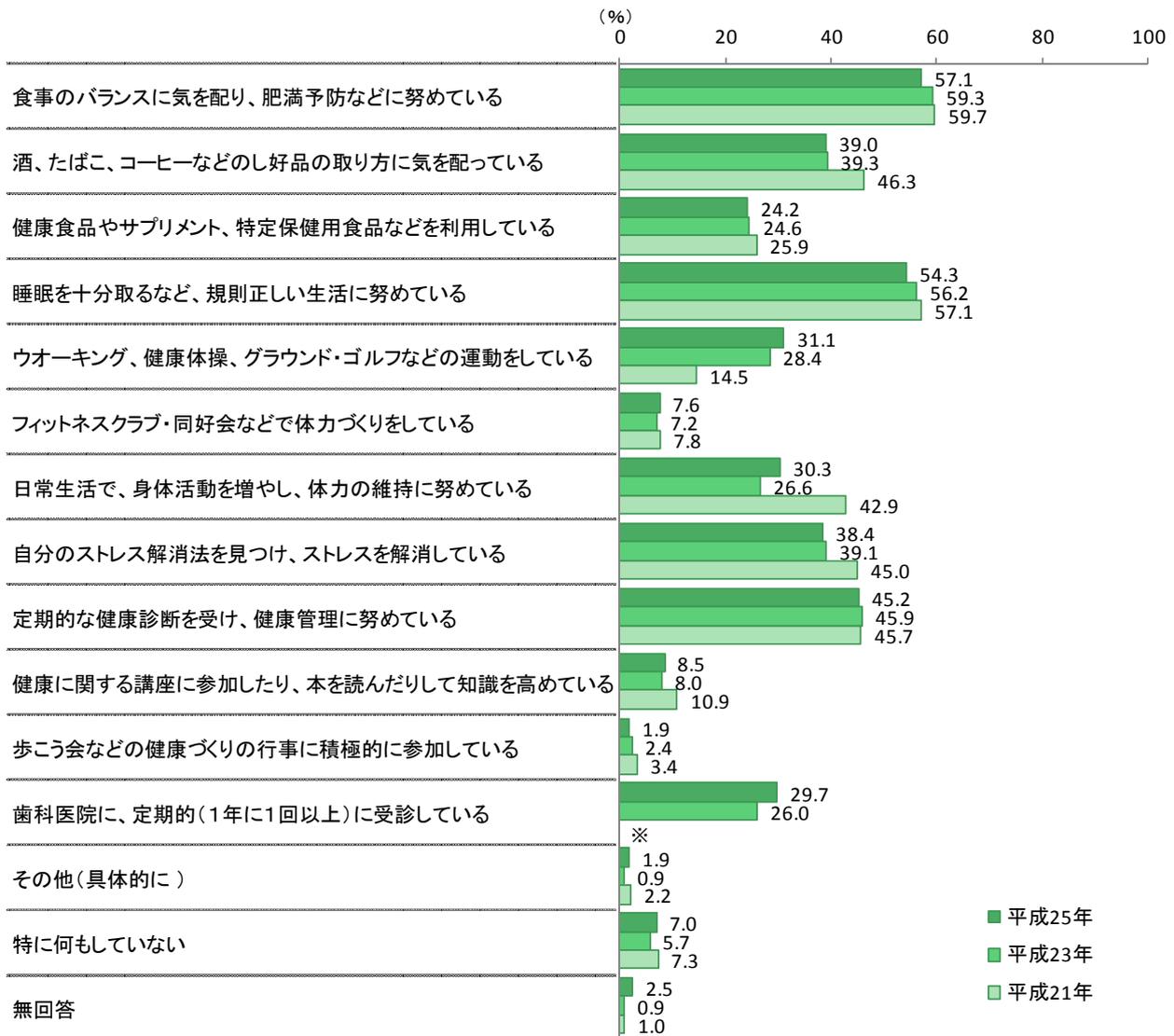
健康維持や増進のために日ごろから心掛けていることは、「食事のバランスに気を配り、肥満予防などに努めている」(57.1%)が最も高く、次いで「睡眠を十分取るなど、規則正しい生活に努めている」(54.3%)、「定期的な健康診断を受け、健康管理に努めている」(45.2%)の順となっている。【図表 23】

図表 23 健康の維持・増進のための心掛け



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「日常生活で、身体活動を増やし、体力の維持に努めている」(3.7ポイント増)、「歯科医院に定期的(1年に1回以上)に受診している」(3.7ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して大きく減少した項目はない。【図表 24】

図表 24 健康の維持・増進のための心掛け(経年比較)



※調査項目に含まれず

2 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと

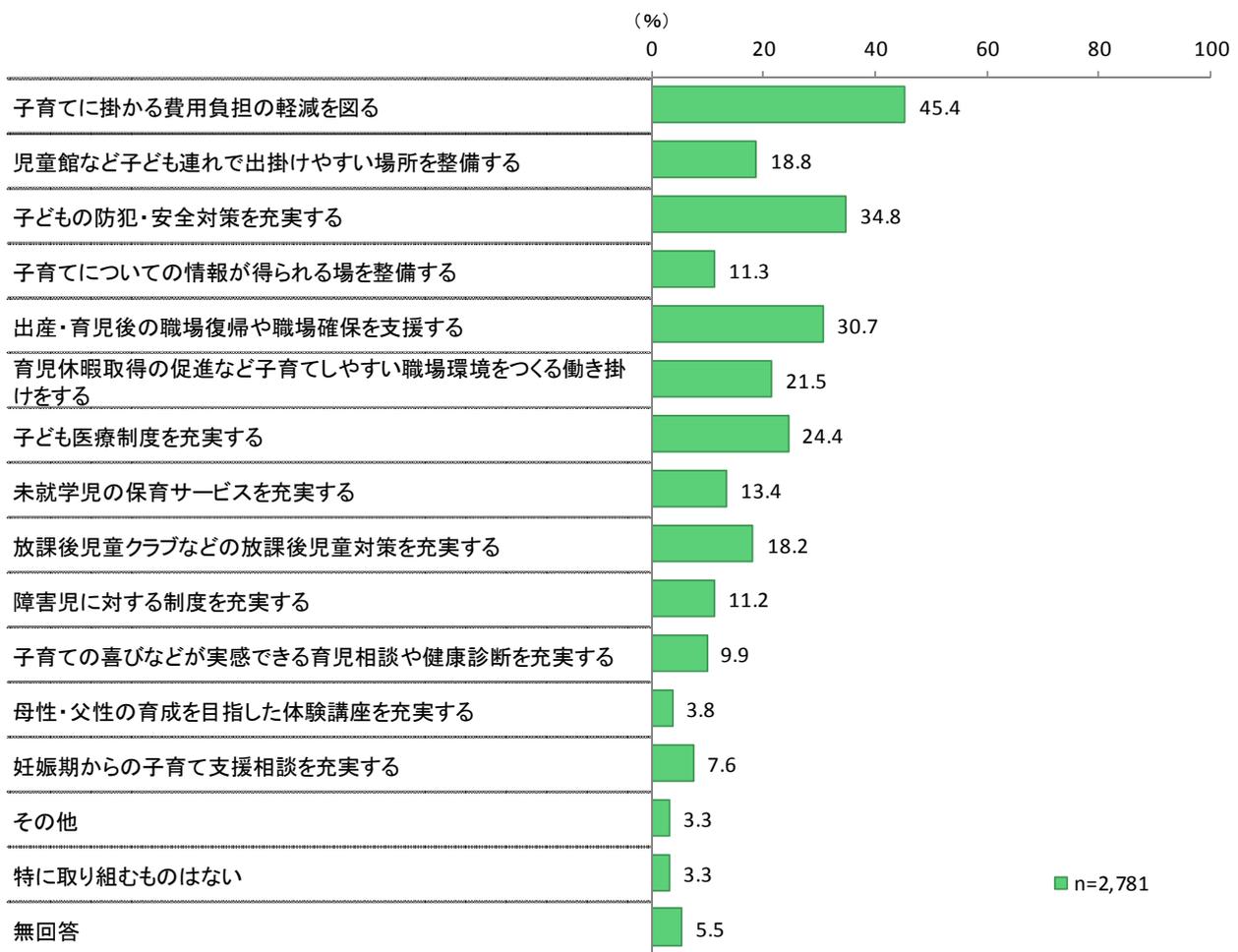
問9 あなたは、子どもを生み、育てる環境を充実させるために、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 子どもを生み、育てる環境を充実させるために行政が取り組むべきことは「子育てに掛かる費用負担の軽減を図る」が45.4%

子どもを生み、育てる環境を充実させるために行政が取り組むべきことは、「子育てに掛かる費用負担の軽減を図る」(45.4%)が最も高く、次いで「子どもの防犯・安全対策を充実する」(34.8%)、「出産・育児後の職場復帰や職場確保を支援する」(30.7%)の順となっている。

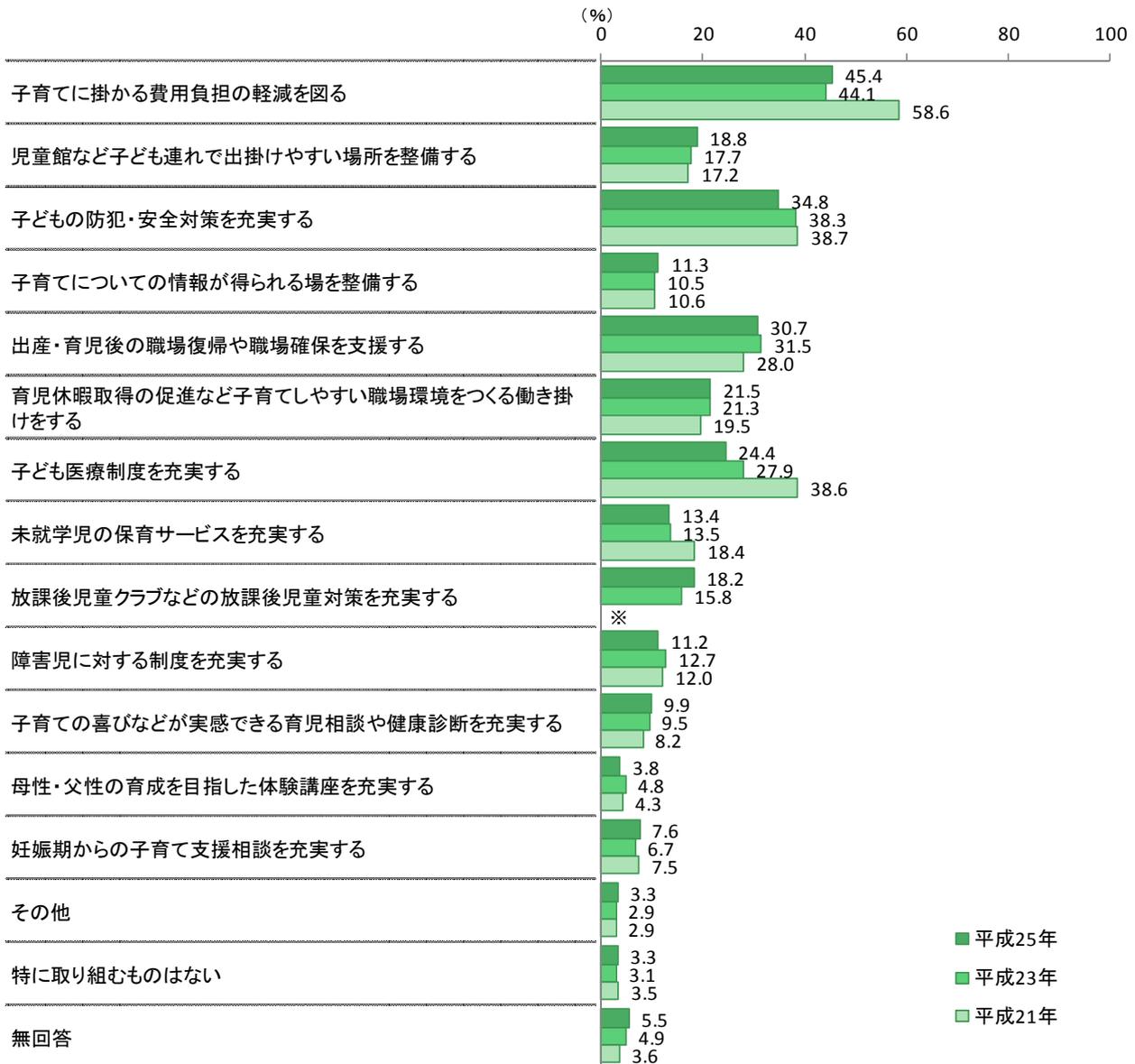
【図表 25】

図表 25 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「子どもの防犯・安全対策を充実する」(3.5ポイント減)、「子ども医療制度を充実する」(3.5ポイント減)となっている。一方、前回調査と比較して大きく増加した項目はない。【図表 26】

図表 26 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



※調査項目に含まれず

5 建設・整備について

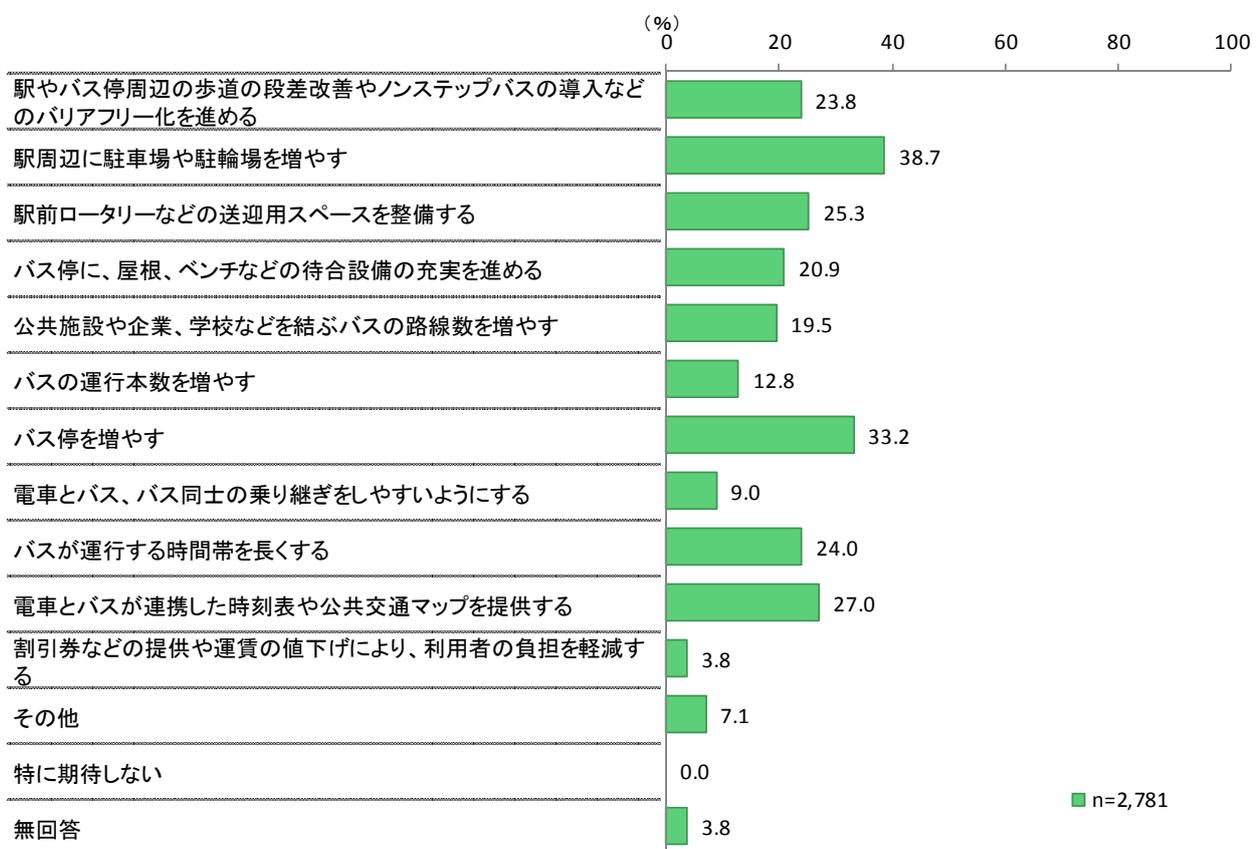
1 公共交通機関の利便性の行政への期待

問 10 あなたは、公共交通機関（電車・バス）の利便性を向上させるために、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 公共交通機関の利便性向上のために行政に期待することは「駅周辺に駐車場や駐輪場を増やす」が38.7%、「バス停を増やす」が33.2%

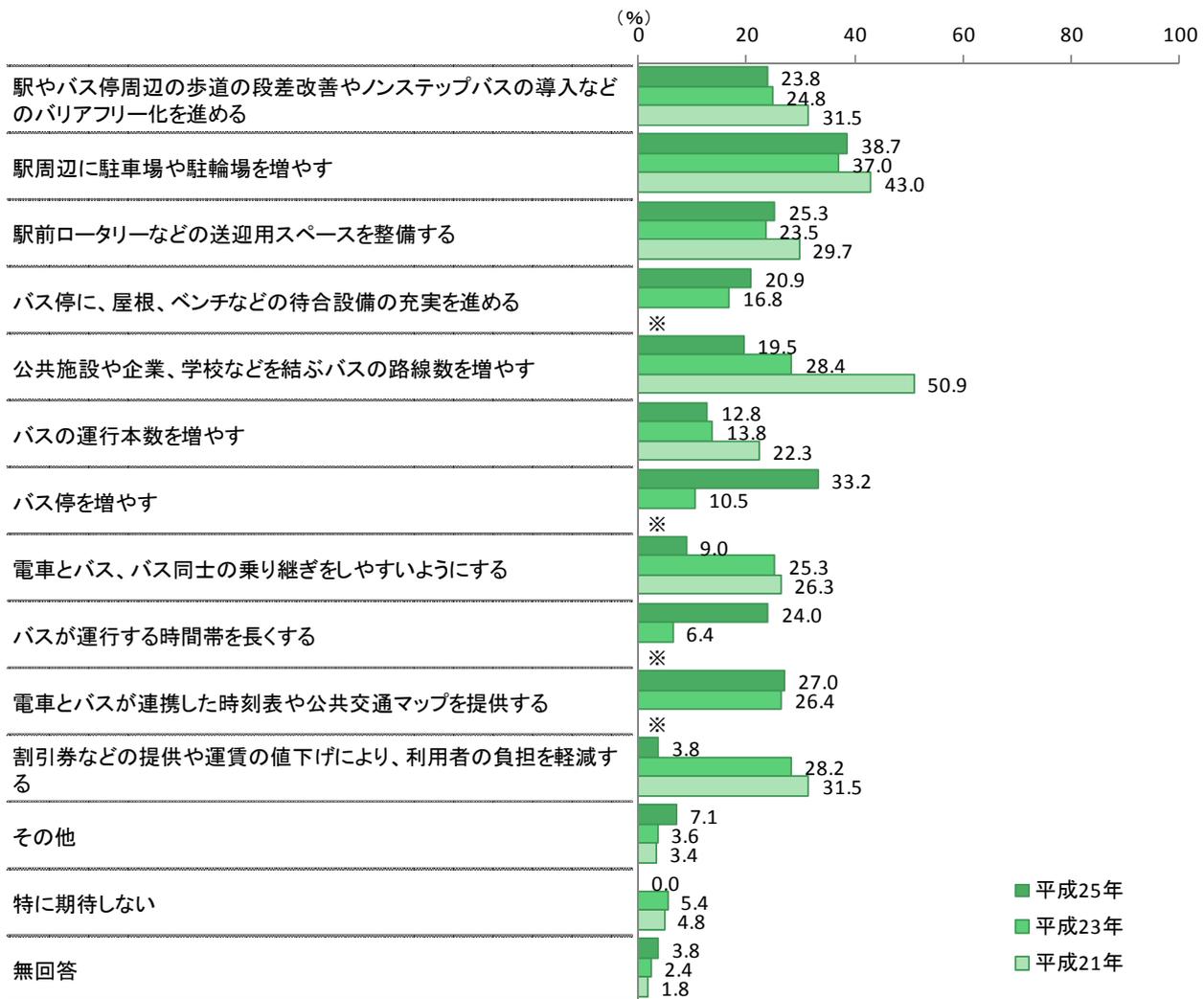
公共交通機関の利便性を向上させるために行政に期待することは、「駅周辺に駐車場や駐輪場を増やす」（38.7%）が最も高く、次いで「バス停を増やす」（33.2%）、「電車とバスが連携した時刻表や公共交通マップを提供する」（27.0%）の順となっている。【図表 27】

図表 27 公共交通機関の利便性の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「バス停を増やす」(22.7ポイント増)、「バスが運行する時間帯を長くする」(17.6ポイント増)、「バス停に、屋根、ベンチなどの待合設備の充実を進める」(4.1ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「割引券などの提供や運賃の値下げにより、利用者の負担を軽減する」(24.4ポイント減)、「電車とバス、バス同士の乗り継ぎをしやすいようにする」(16.3ポイント減)、「公共施設や企業、学校などを結ぶバスの路線数を増やす」(8.9ポイント減)となっている。【図表 28】

図表 28 公共交通機関の利便性の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

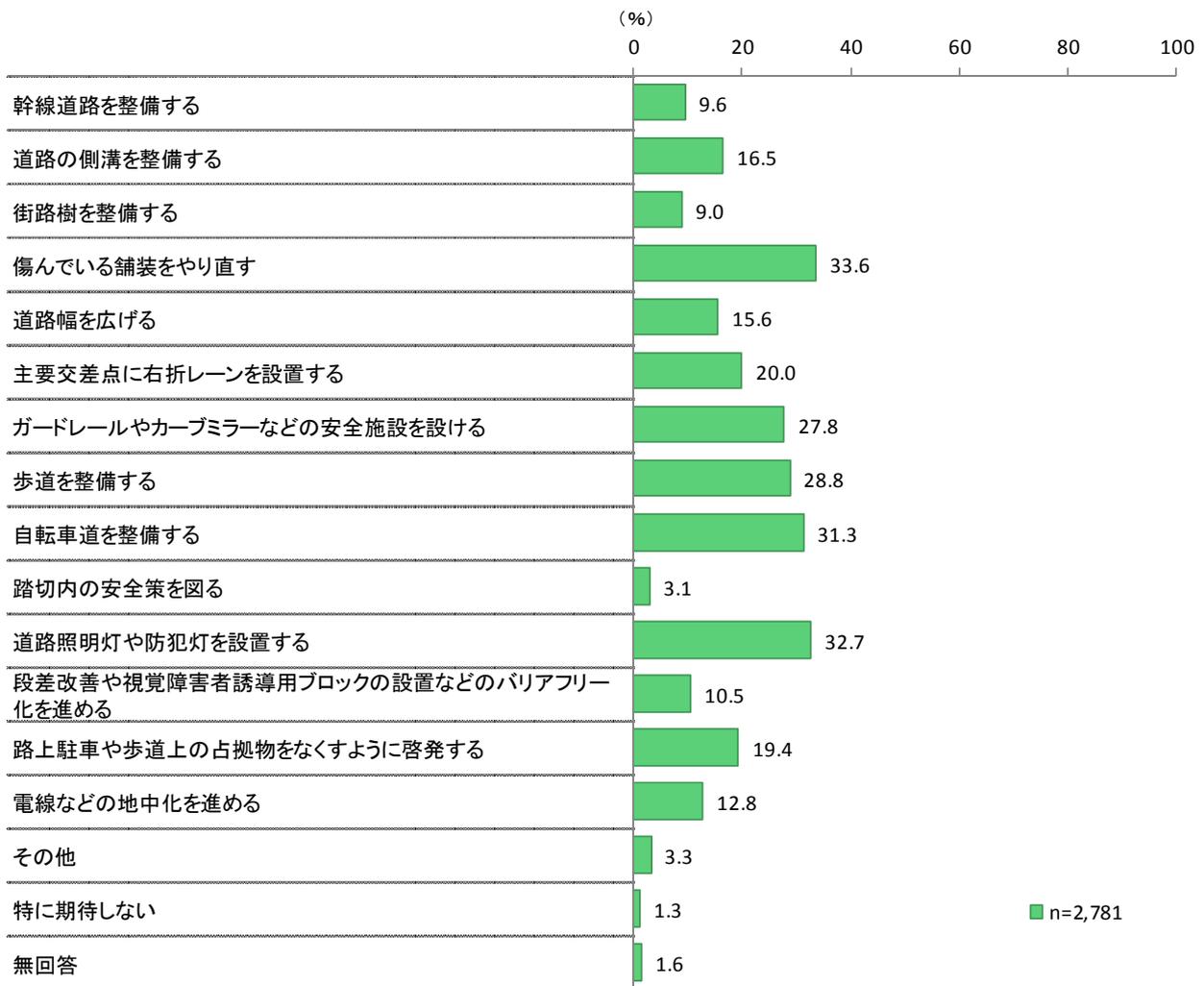
2 道路の整備の行政への期待

問 11 あなたは、道路の整備について、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 道路の整備について行政に期待することは「傷んでいる舗装をやり直す」が33.6%、「道路照明灯や防犯灯を設置する」が32.7%

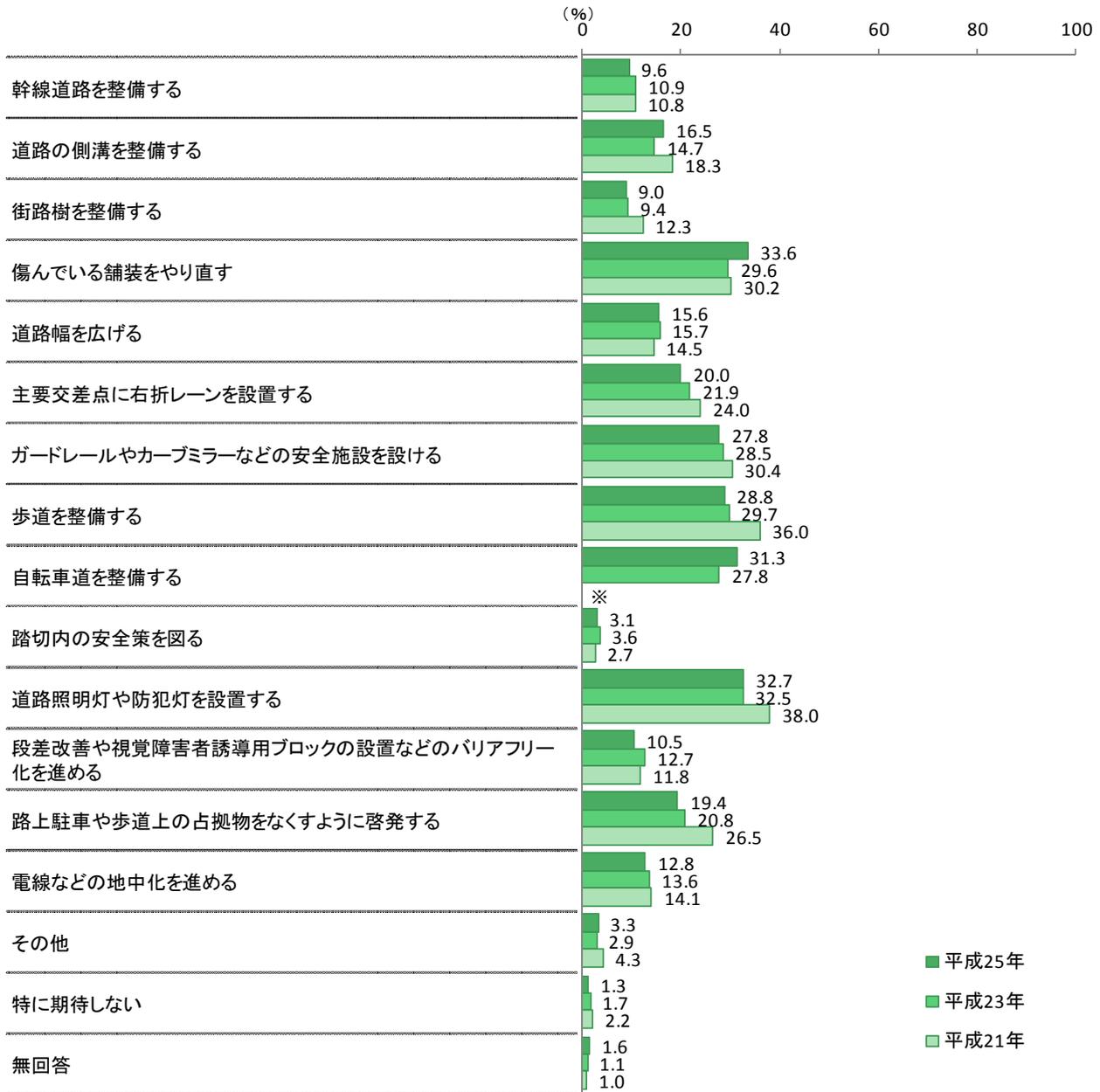
道路の整備について行政に期待することは、「傷んでいる舗装をやり直す」(33.6%)が最も高く、次いで「道路照明灯や防犯灯を設置する」(32.7%)、「自転車道を整備する」(31.3%)となっている。【図表 29】

図表 29 道路の整備の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「傷んでいる舗装をやり直す」(4ポイント増)、「自転車道を整備する」(3.5ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して大きく減少した項目はない。【図表 30】

図表 30 道路の整備の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

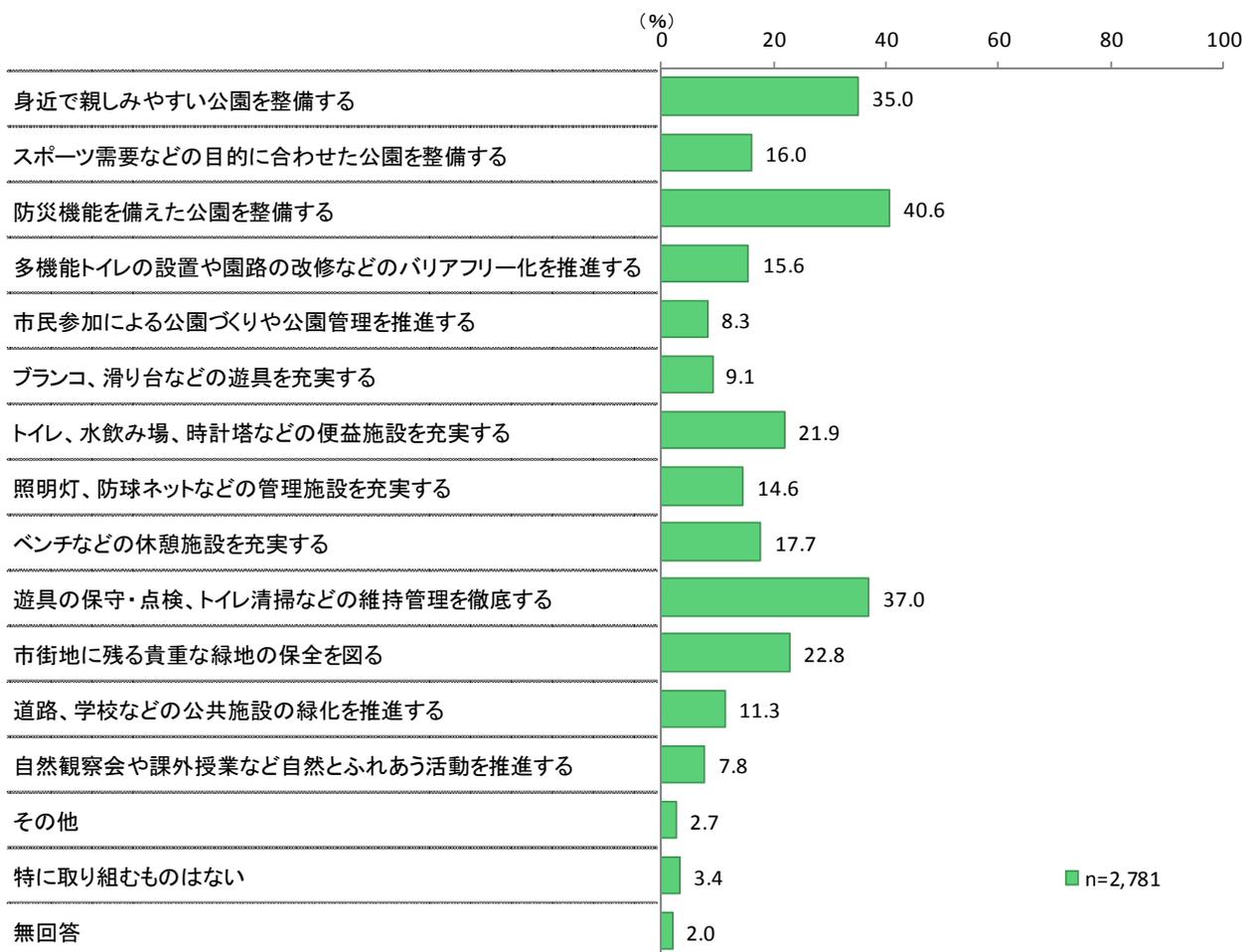
3 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと

問 12 あなたは、公園の整備や緑地の保全について、行政がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 公園の整備や緑地の保全について行政が取り組むべきことは「防災機能を備えた公園を整備する」が40.6%、「遊具の保守・点検、トイレ清掃などの維持管理を徹底する」が37.0%

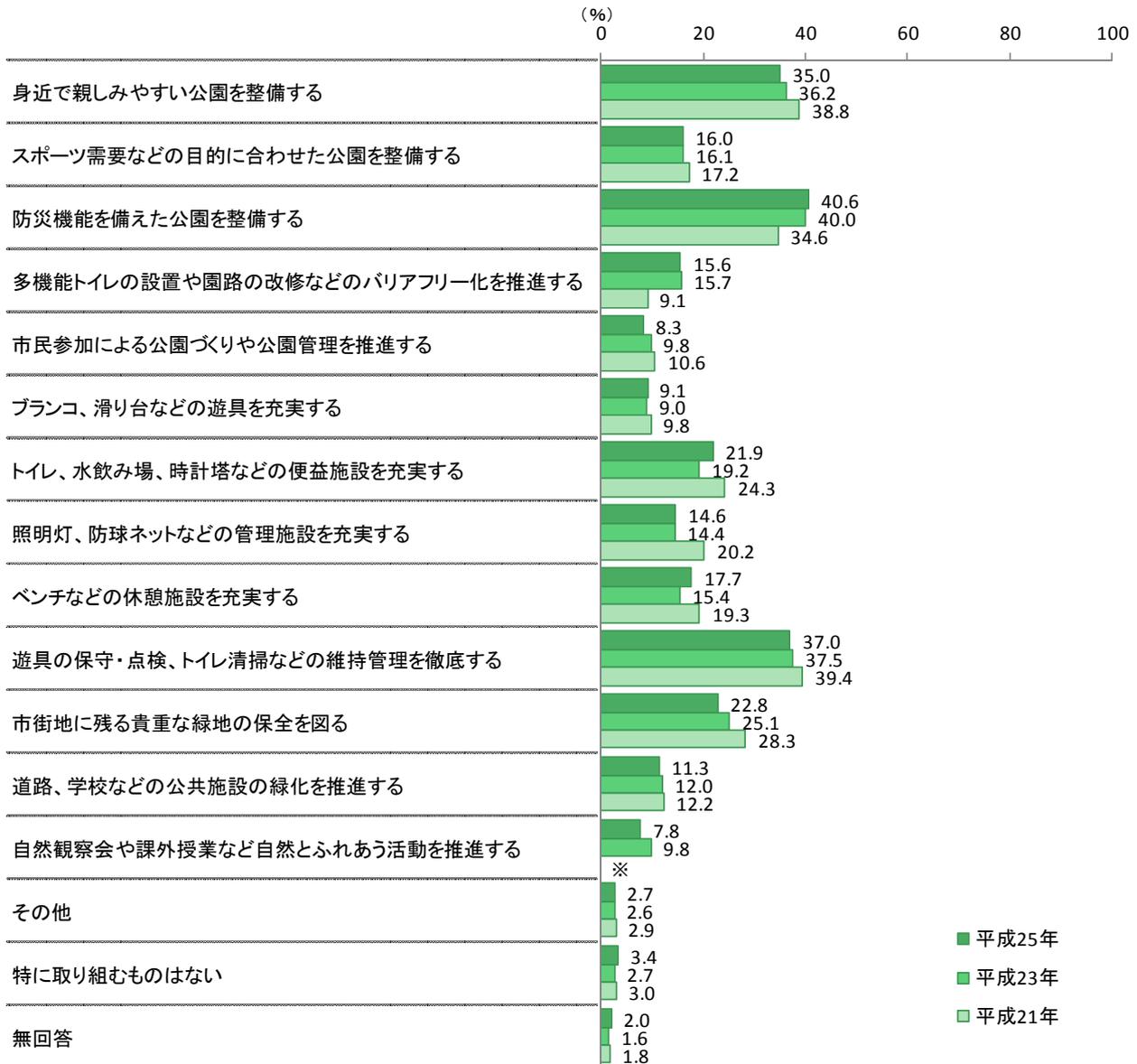
公園の整備や緑地の保全について行政が取り組むべきことは、「防災機能を備えた公園を整備する」(40.6%)が最も高く、次いで「遊具の保守・点検、トイレ清掃などの維持管理を徹底する」(37.0%)、「身近で親しみやすい公園を整備する」(35.0%)の順となっている。【図表 31】

図表 31 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して、いずれも大きな増減はみられない。【図表 32】

図表 32 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



※調査項目に含まれず

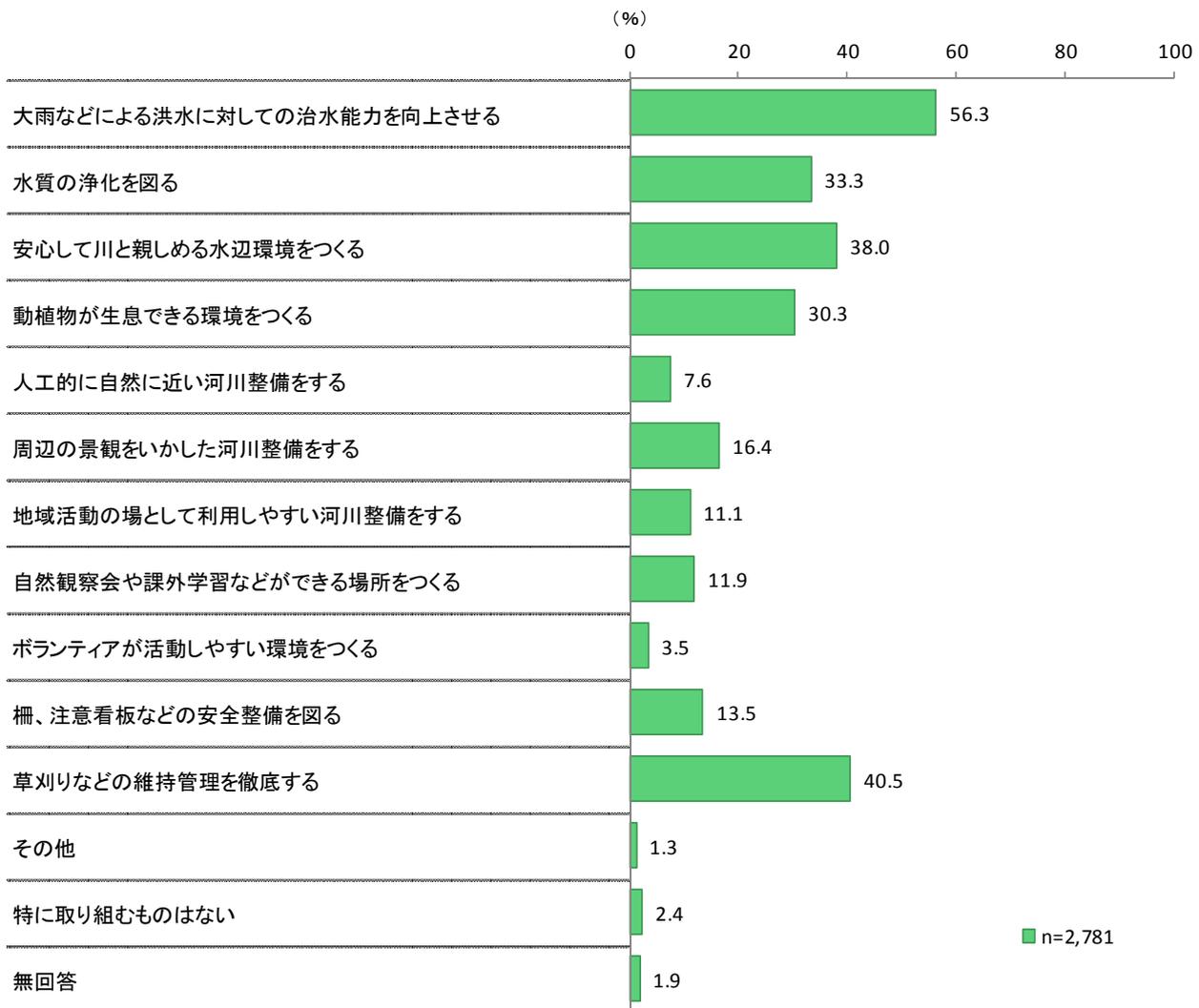
4 河川の整備のために行政が取り組むべきこと

問 13 あなたは、河川の整備について、行政がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。
次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 河川の整備について行政が取り組むべきことは「大雨などによる洪水に対しての治水能力を向上させる」が56.3%、「草刈りなどの維持管理を徹底する」が40.5%

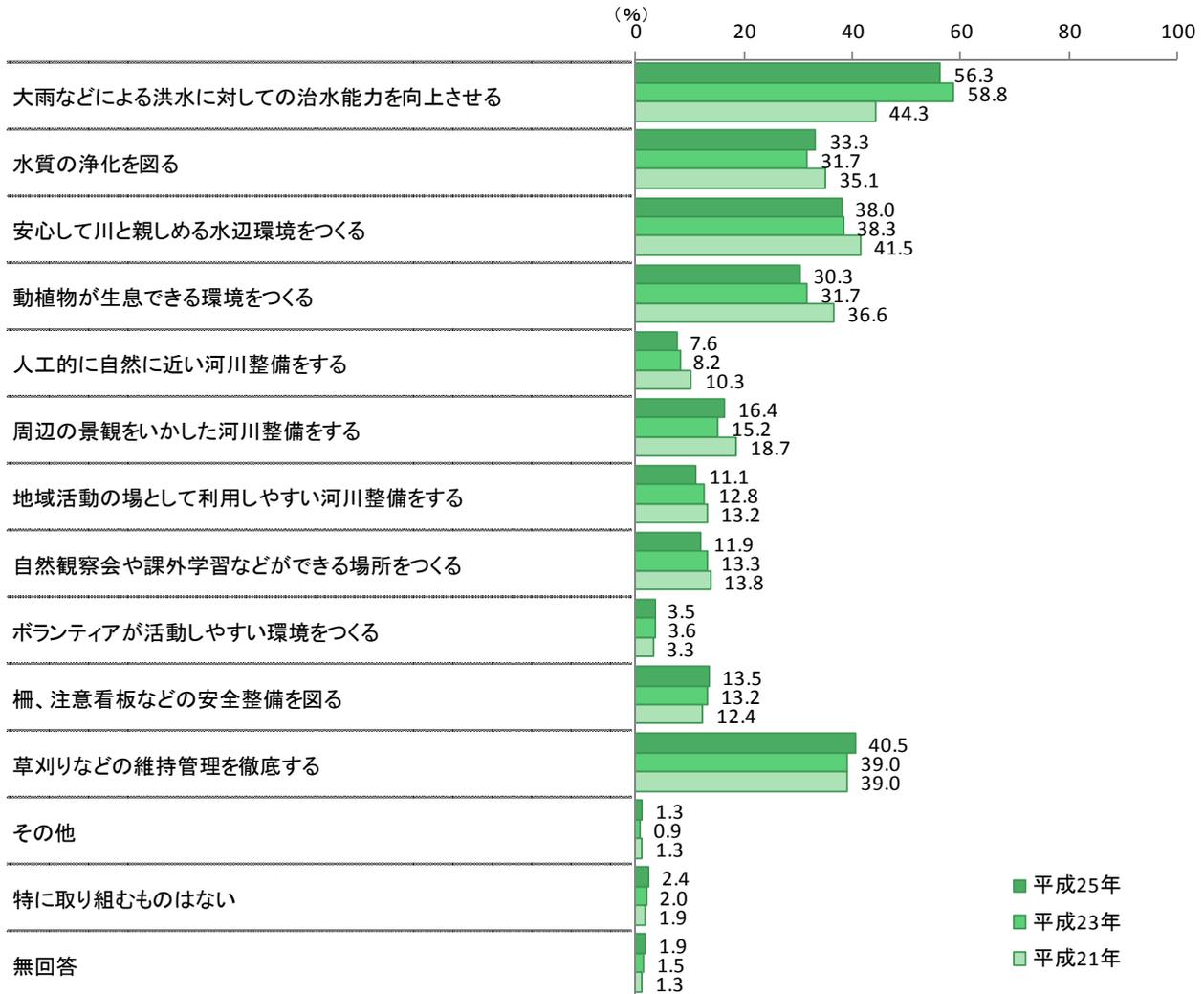
河川の整備について行政が取り組むべきことは、「大雨などによる洪水に対しての治水能力を向上させる」(56.3%)が最も高く、「草刈りなどの維持管理を徹底する」(40.5%)、「安心して川と親しめる水辺環境をつくる」(38.0%)の順となっている。【図表 33】

図表 33 河川の整備のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して、いずれも大きな増減はみられない。【図表 34】

図表 34 河川の整備のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



6 教育・文化について

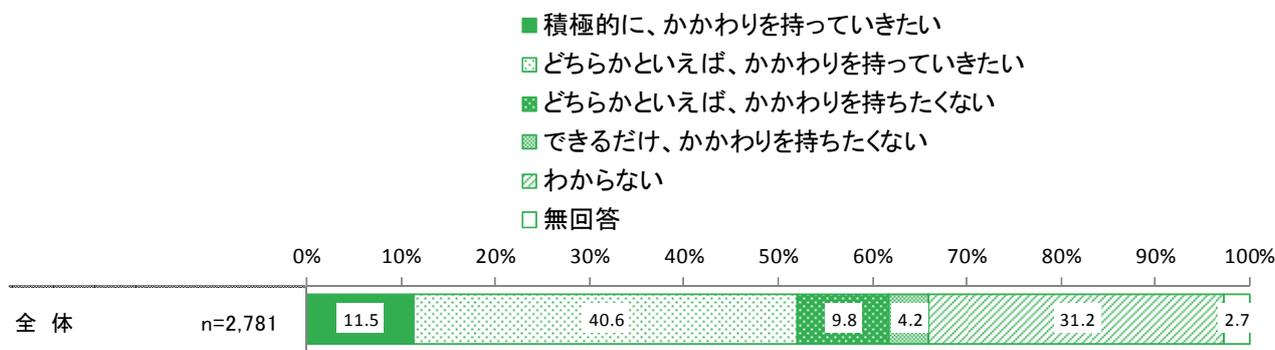
1 地域づくりに向けた学校と地域とのかかわり

問 14 学校と地域が協力して地域づくりをしていくために、「学校の日」などを実施しています。あなたは、協力して地域づくりをするために、学校とかわりを持っていきたくいと思いませんか。次の中からあてはまるものを1つ選んで○印をつけてください。

◆ 地域づくりに向けた学校と地域とのかわりについて“かわりを持っていきたくい”が52.1%、“かわりを持ちたくい”が14.0%

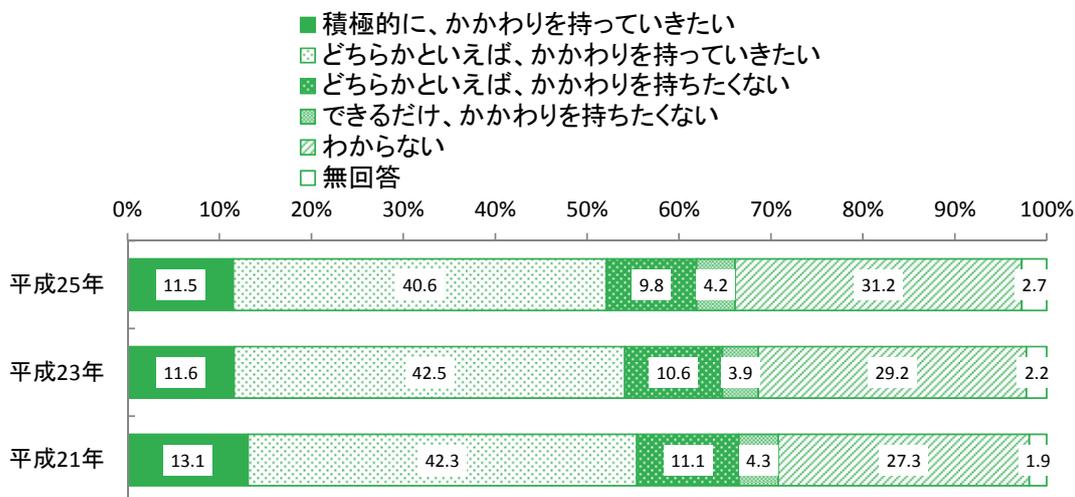
地域づくりに向けた学校と地域とのかわりについて、「積極的に、かわりを持っていきたくい」(11.5%)と「どちらかといえ、かわりを持っていきたくい」(40.6%)をあわせた“かわりを持っていきたくい”が52.1%となっている。一方、「どちらかといえ、かわりを持ちたくい」(9.8%)と「できるだけ、かわりを持ちたくい」(4.2%)をあわせた“かわりを持ちたくい”が14.0%となっている。【図表 35】

図表 35 地域づくりに向けた学校と地域とのかわり



経年比較でみると、“かわりを持っていきたくい”、“かわりを持ちたくい”の割合がともに減少傾向にあり、「わからない」の割合が増加傾向となっている。【図表 36】

図表 36 地域づくりに向けた学校と地域とのかわり（経年比較）



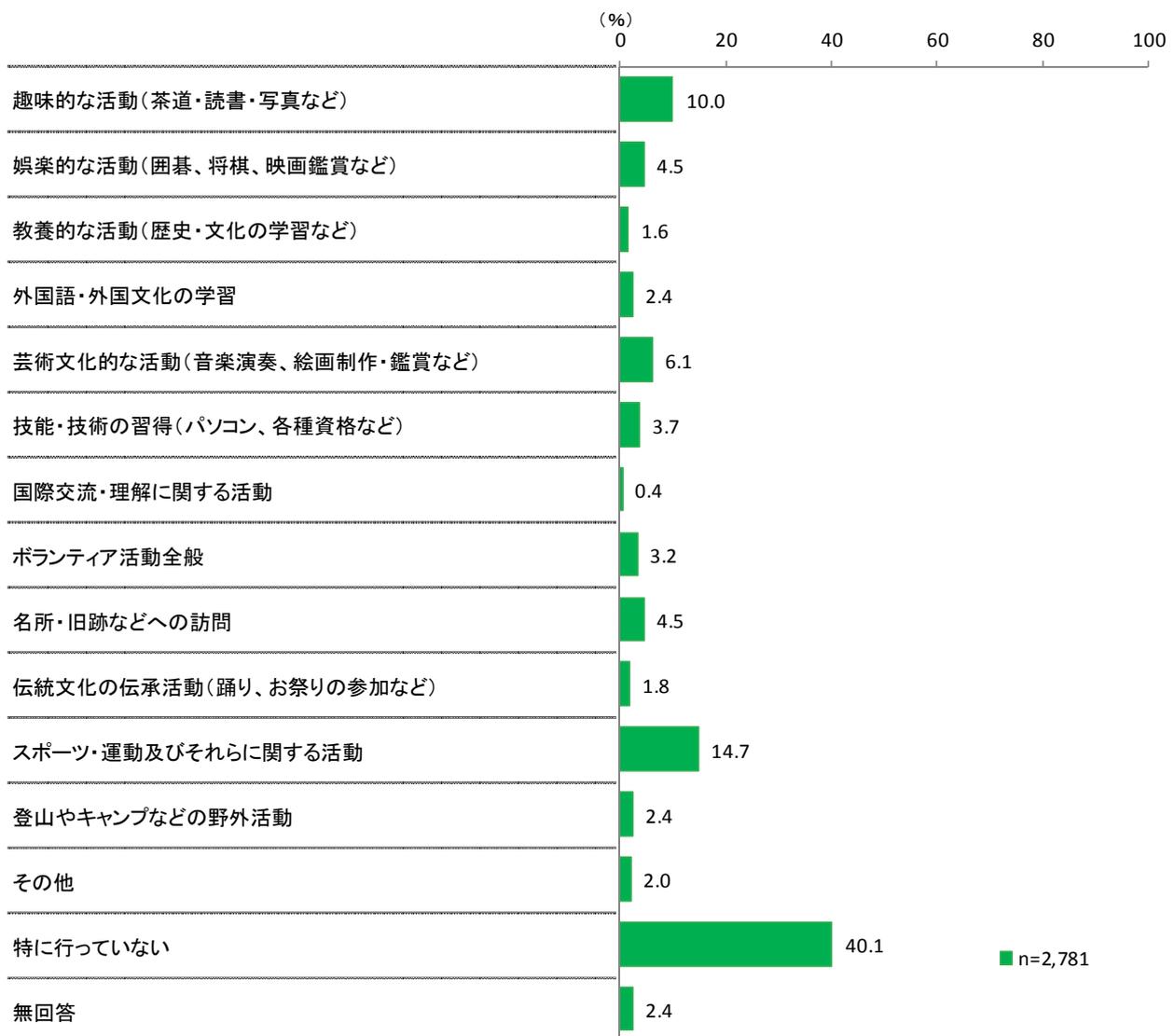
2 生涯学習の活動状況

問 15 あなたは、生涯学習として習い事や趣味の活動をしていますか。次の中から特に力を入れているものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 生涯学習の活動状況は「特に行っていない」が40.1%

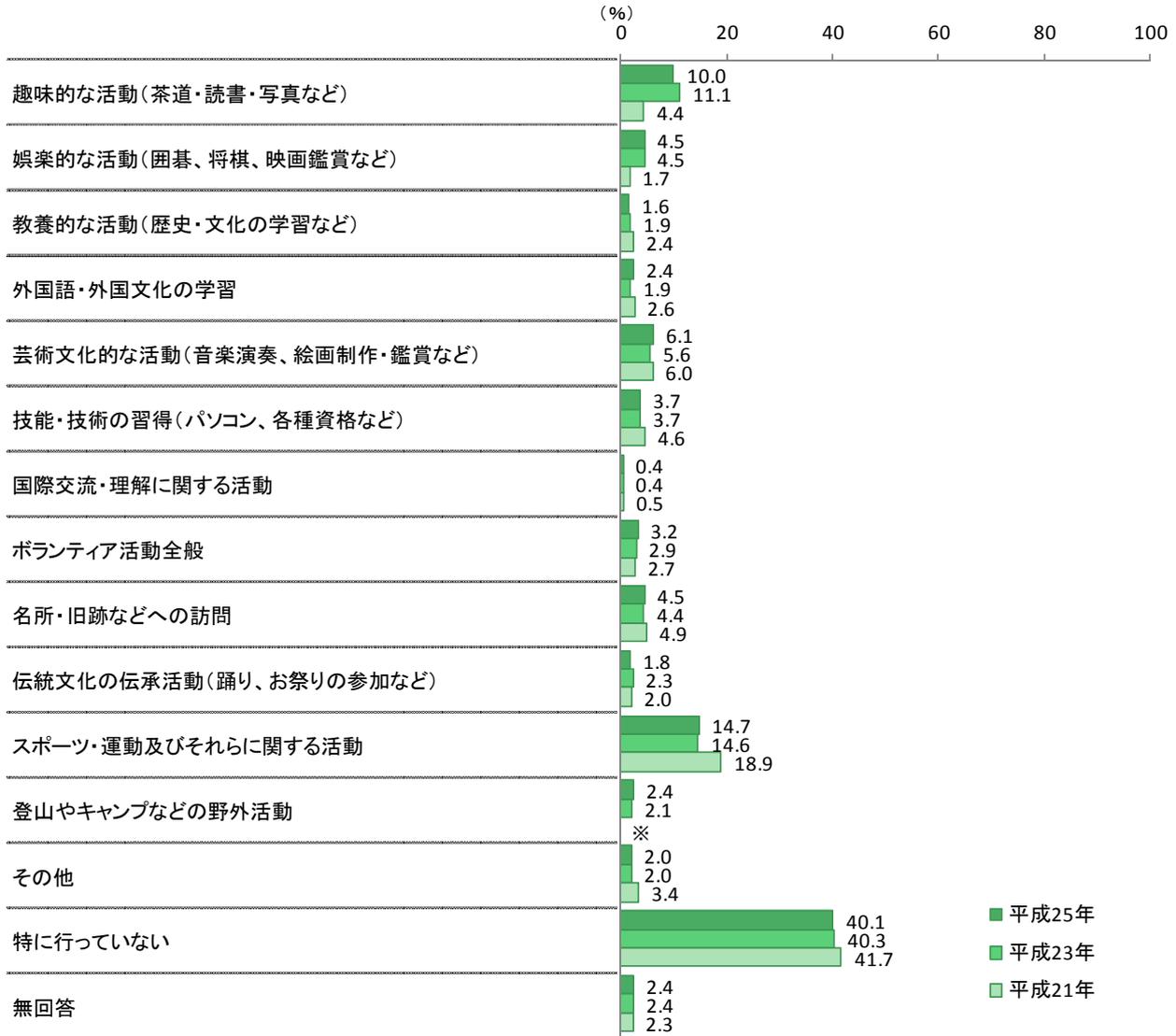
生涯学習の活動状況は、「特に行っていない」(40.1%)が最も高く、次いで「スポーツ・運動及びそれらに関する活動」(14.7%)、「趣味的な活動(茶道・読書・写真など)」(10.0%)の順となっている。【図表 37】

図表 37 生涯学習の活動状況



経年比較でみると、前回調査と比較して、いずれも大きな増減はみられない。【図表 38】

図表 38 生涯学習の活動状況（経年比較）



※調査項目に含まれず

3 スポーツや運動の頻度

問 16 あなたは、どの程度の頻度でスポーツや運動をしていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

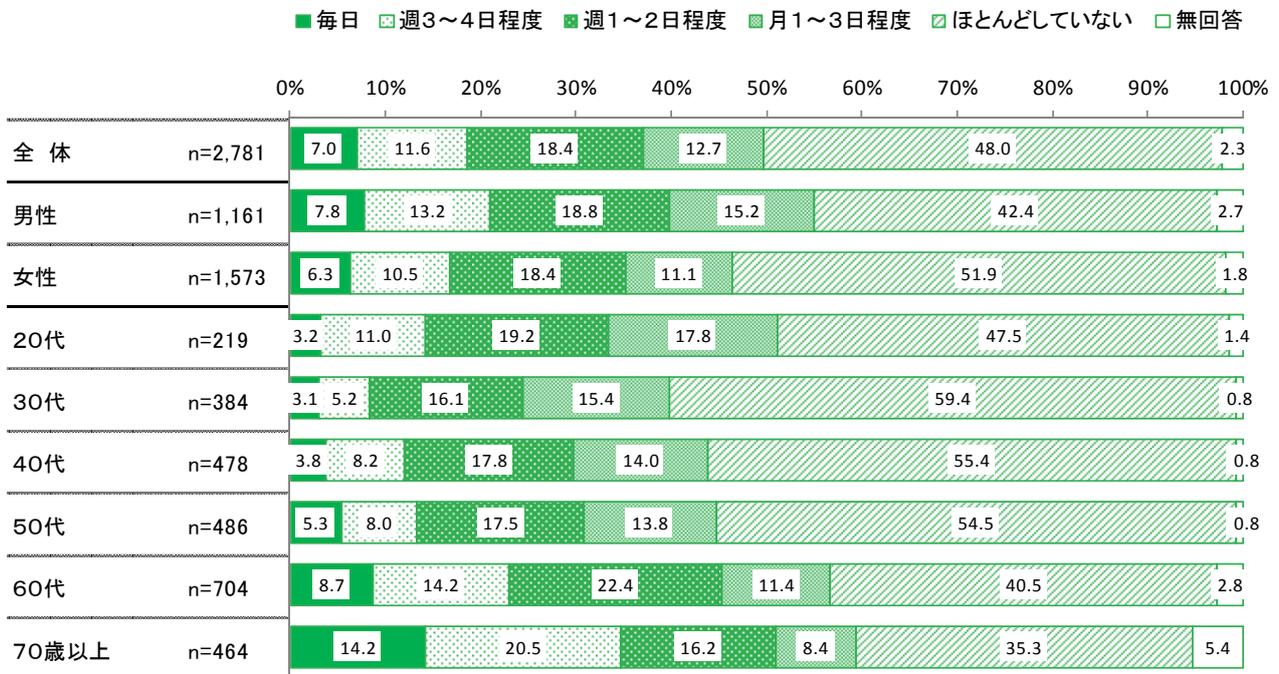
◆ **スポーツや運動の頻度は「ほとんどしていない」が48.0%**

スポーツや運動の頻度は、「ほとんどしていない」(48.0%)が最も高く、次いで「週に1～2日程度」(18.4%)、「月1～3日程度」(12.7%)の順となっている。

性別で見ると、「ほとんどしていない」では、「女性」が51.9%と5割を超えている。

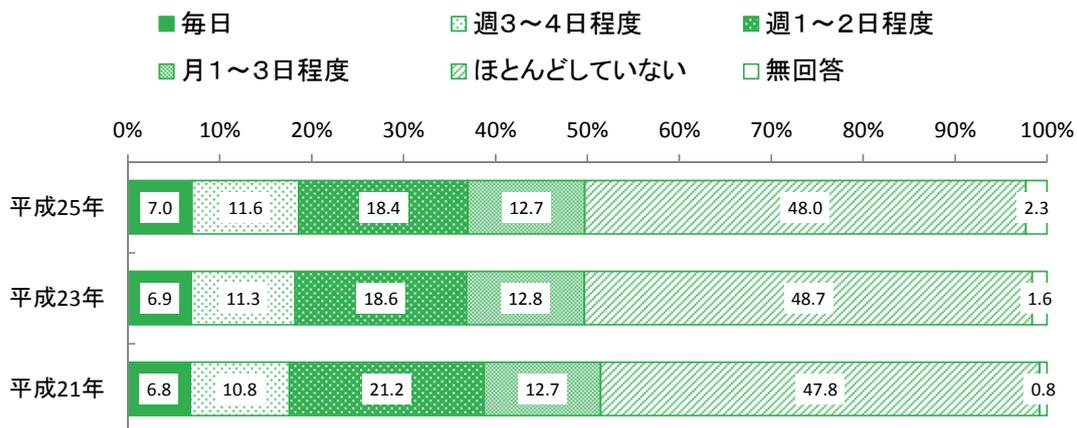
年齢別で見ると、全体平均と比較して、「毎日」は「70歳以上」が14.2%と高く、「20代」、「30代」、「40代」は3%台と低くなっている。一方、「ほとんどしていない」は、「30代」(59.4%)の割合が高く、「70歳以上」(35.3%)の割合が低くなっている。【図表 39】

図表 39 スポーツや運動の頻度



経年比較で見ると、前回調査と比較して、大きく変化した項目はない。【図表 40】

図表 40 スポーツや運動の頻度 (経年比較)



4 スポーツの指導・ボランティアの活動意向

問 17 あなたは、スポーツの指導やスポーツに関するボランティア活動を行っていますか。行っていない場合、今後行ってみたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

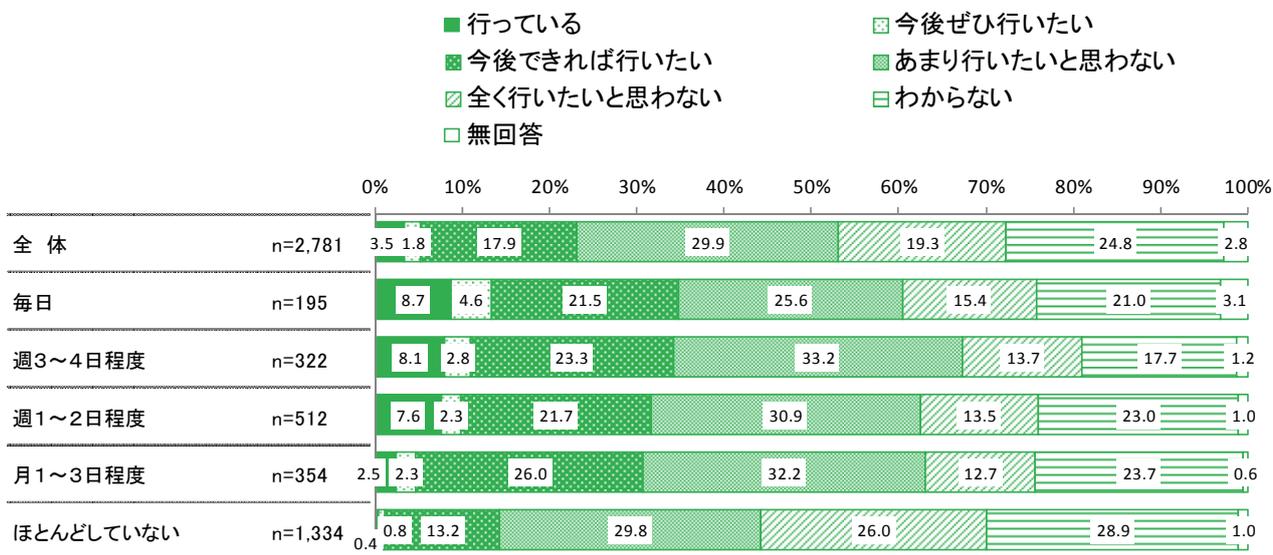
◆ スポーツの指導・ボランティアの活動意向は“行いたい”が19.7%

スポーツの指導・ボランティアの活動意向は、「行っている」が3.5%、「今後ぜひ行いたい」(1.8%)と「今後できれば行いたい」(17.9%)をあわせた“行いたい”が19.7%、「あまり行いたいと思わない」(29.9%)と「全く行いたいと思わない」(19.3%)をあわせた“行いたくない”が49.2%となっている。

運動頻度でみると、頻度が高いほど「行っている」と“行いたい”を合わせた割合は高い。一方、「ほとんどしていない」では“行いたくないと思わない”の割合が55.8%と高くなっている。

【図表 41】

図表 41 スポーツの指導・ボランティアの活動意向



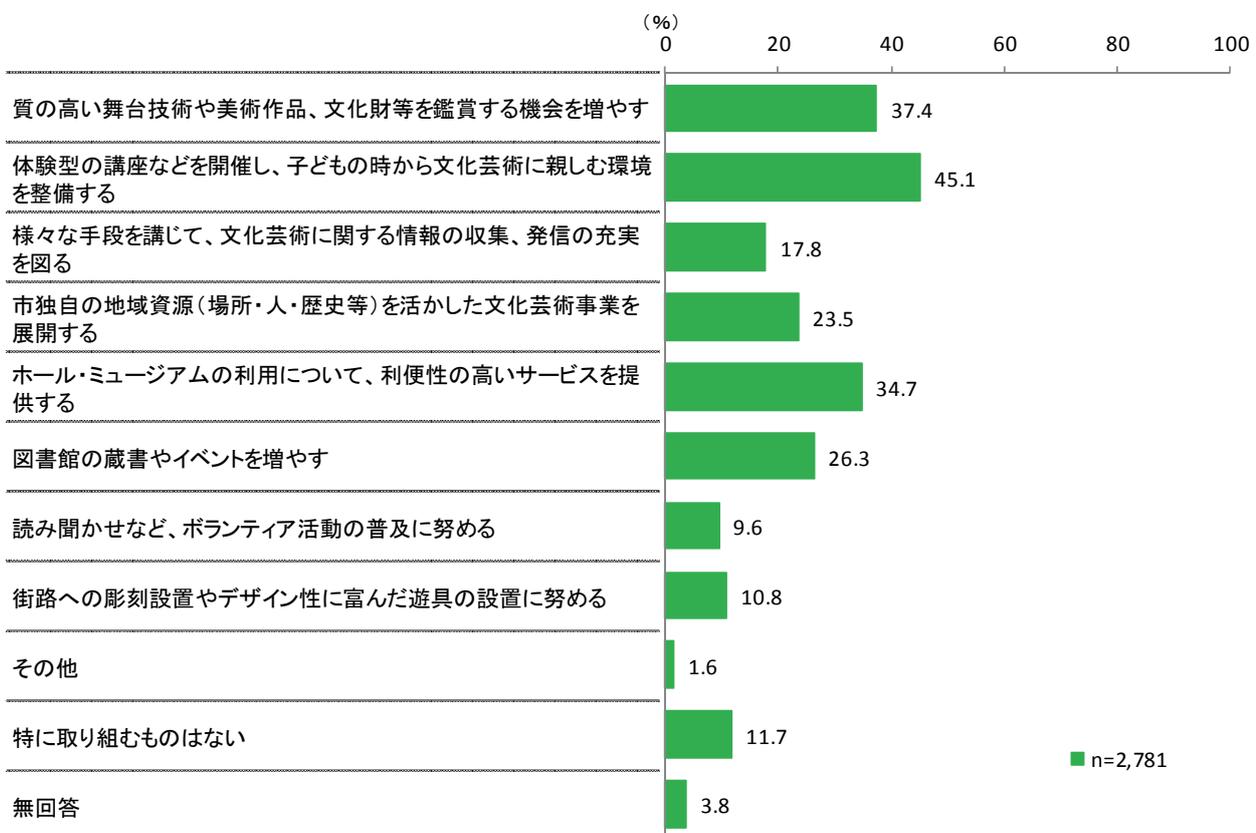
5 地域の文化性を高めるために行政が取り組むべきこと

問 18 あなたは、地域の文化性を高めるために、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 地域の文化性を高めるために行政が取り組むべきことは「体験型の講座などを開催し、子どもの時から文化芸術に親しむ環境を整備する」が45.1%

地域の文化性を高めるために行政が取り組むべきことは、「体験型の講座などを開催し、子どもの時から文化芸術に親しむ環境を整備する」(45.1%)が最も高く、次いで「質の高い舞台技術や美術作品、文化財等を鑑賞する機会を増やす」(37.4%)、「ホール・ミュージアムの利用について、利便性の高いサービスを提供する」(34.7%)の順となっている。【図表 42】

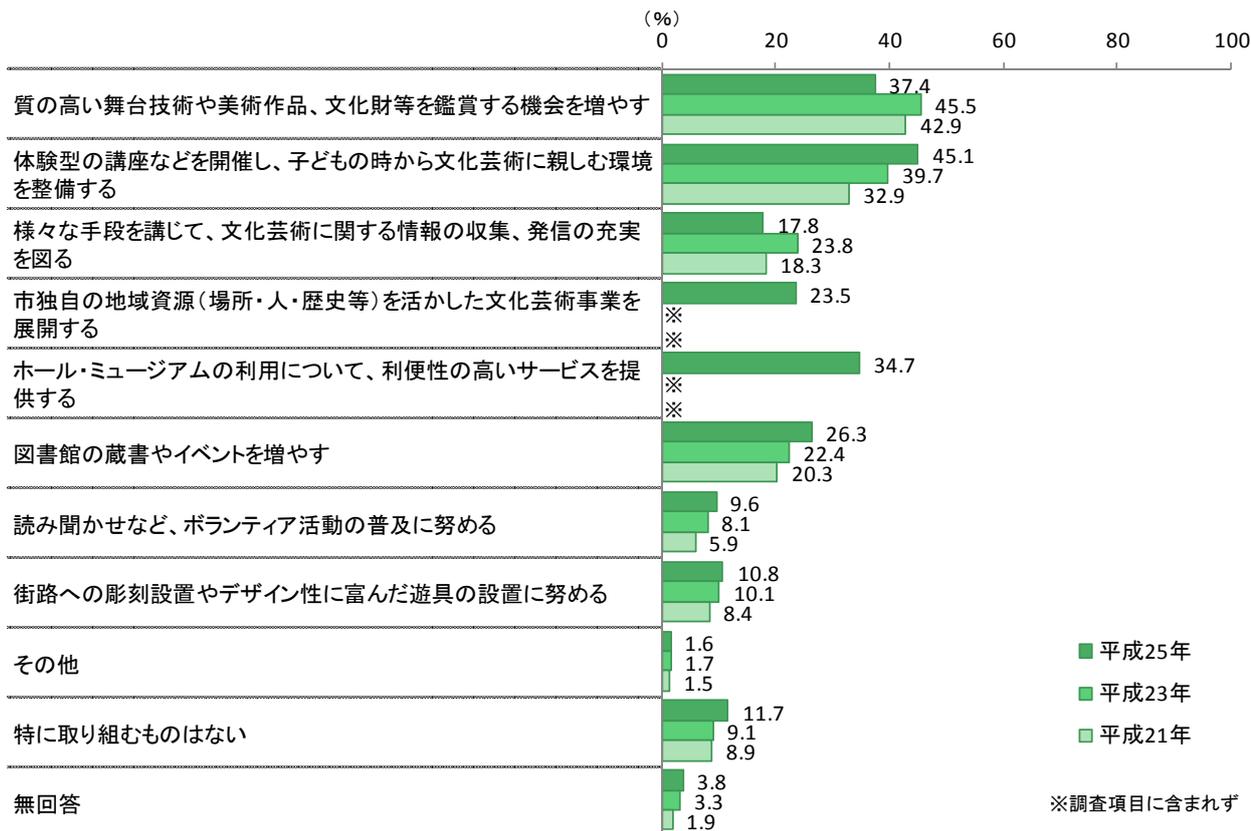
図表 42 地域の文化性を高めるために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「体験型の講座などを開催し、子どもの時から文化芸術に親しむ環境を整備する」(5.4ポイント増)、「図書館の蔵書やイベントを増やす」(3.9ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「質の高い舞台技術や美術作品、文化財等を鑑賞する機会を増やす」(8.1ポイント減)、「様々な手段を講じて、文化芸術に関する情報の収集、発信の充実を図る」(6ポイント減)となっている。

【図表 43】

図表 43 地域の文化性を高めるために行政が取り組むべきこと（経年比較）



※「質の高い舞台技術や美術作品、文化財等を鑑賞する機会を増やす」は、前回「演劇やコンサートなどを鑑賞できる機会を増やす」と表記。
 「体験型の講座などを開催し、子どもの時から文化芸術に親しむ環境を整備する」は、前回「体験講座や読み聞かせなど、子どもたちが文化に触れる機会を増やす」と表記。
 「様々な手段を講じて、文化芸術に関する情報の収集、発信の充実を図る」は、前回「文化情報の入手や発信が簡単にできるようにする」と表記。

7 産業・交流について

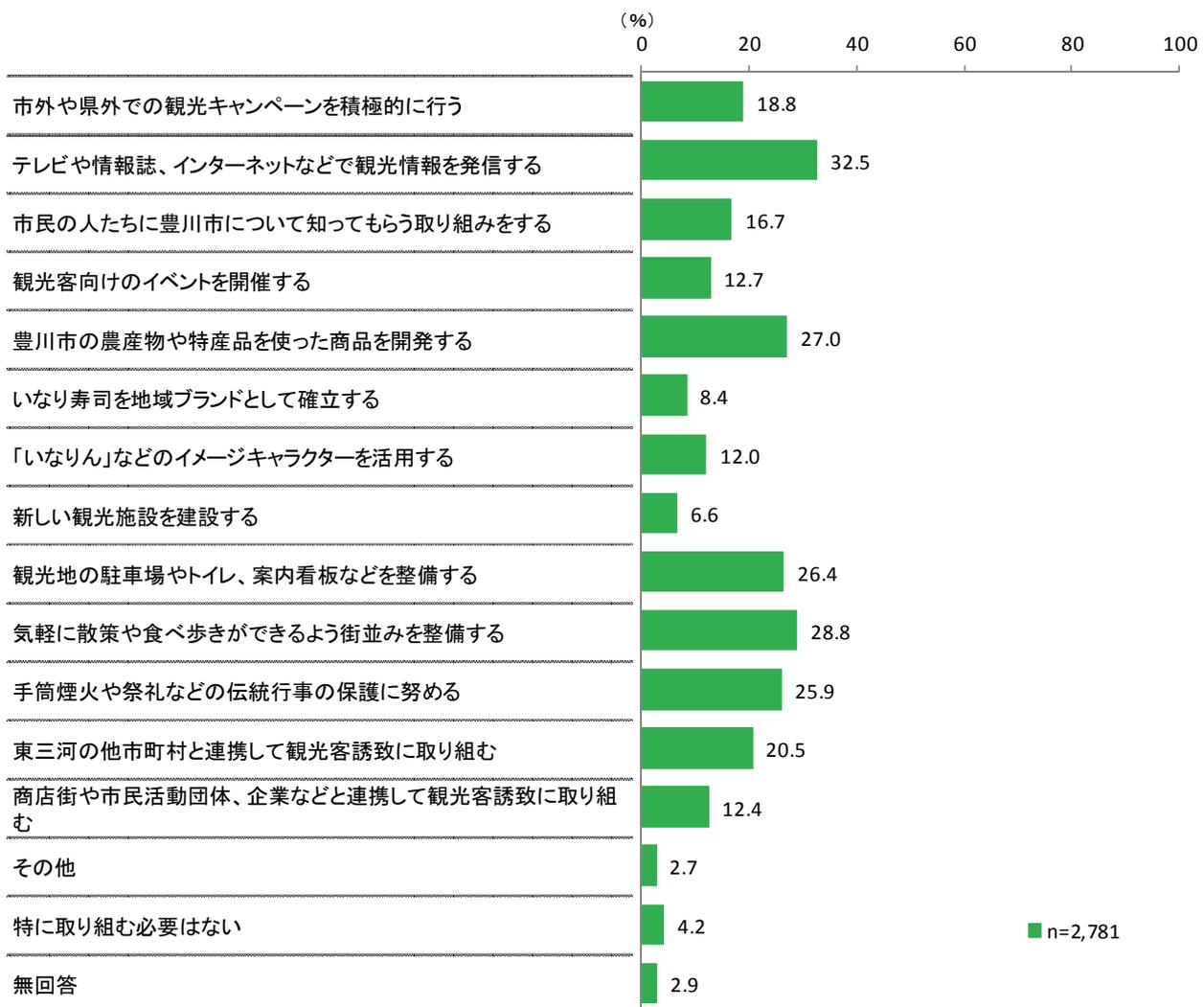
1 観光客増加のために取り組むべきこと

問 19 あなたは、多くの観光客の方に豊川市に来ていただくために、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ **観光客増加のために取り組むべきことは「情報発信」、「街の整備」、「商品開発」、「駐車場等整備」、「伝統行事の保護」など**

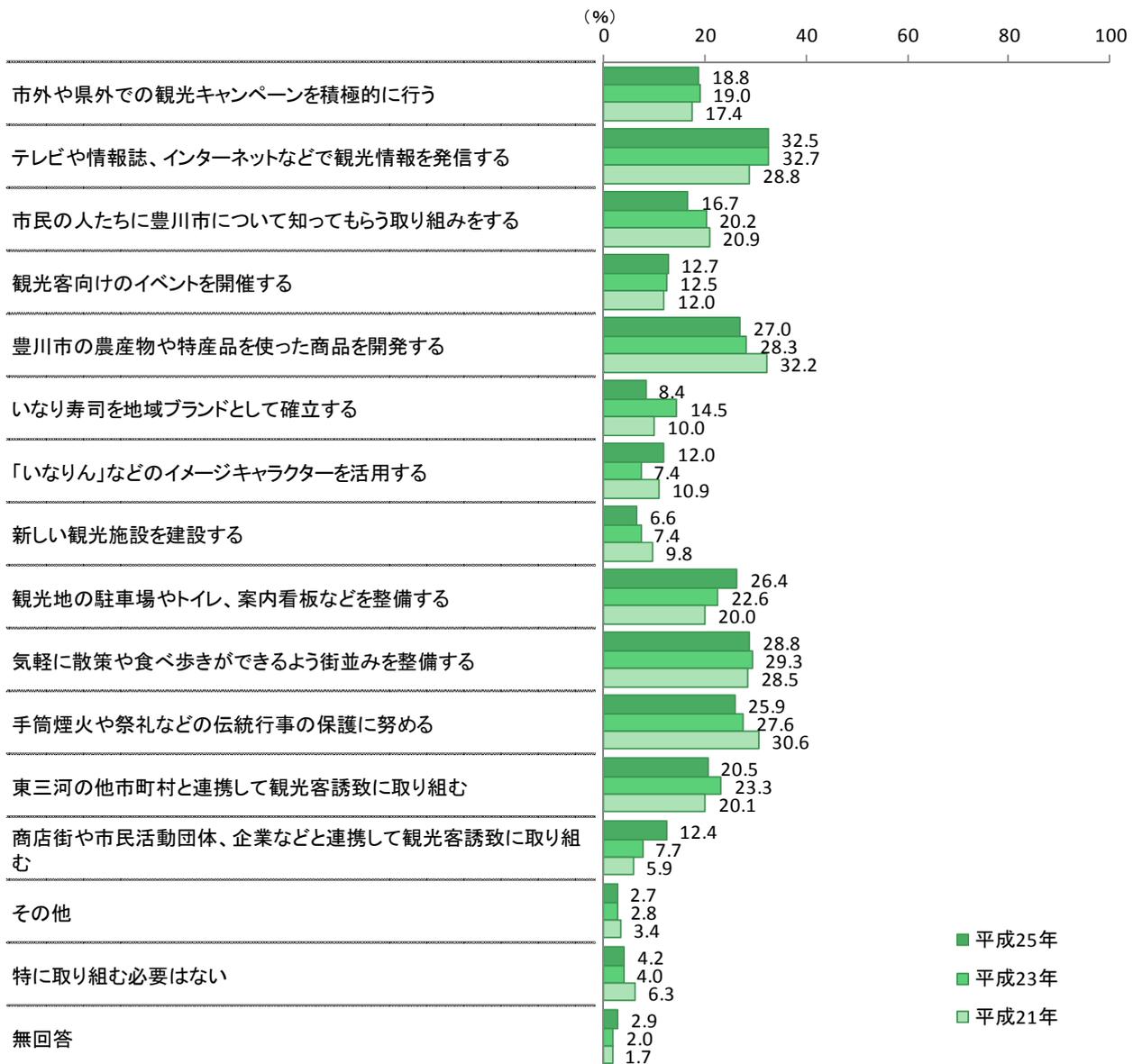
観光客増加のために取り組むべきことは、「テレビや情報誌、インターネットなどで観光情報を発信する」(32.5%)が最も高く、次いで「気軽に散策や食べ歩きができるよう街並みを整備する」(28.8%)、「豊川市の農産物や特産品を使った商品を開発する」(27.0%)、「観光地や駐車場やトイレ、案内看板などを整備する」(26.4%)の順となっている。【図表 44】

図表 44 観光客増加のために取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「商店街や市民活動団体、企業と連携して観光客誘致に取り組む」(4.7ポイント増)、「「いなりん」などのイメージキャラクターを活用する」(4.6ポイント増)、「観光地の駐車場やトイレ、案内看板などを整備する」(3.8ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「いなり寿司を地域ブランドとして確立する」(6.1ポイント減)、「市民の人たちに豊川市について知ってもらう取り組みをする」(3.5ポイント減)となっている。【図表 45】

図表 45 観光客増加のために取り組むべきこと（経年比較）



※ 「「いなりん」などのイメージキャラクターを活用する」は、前回「豊川市のイメージキャラクターをつくる」と表記。
 「商店街や市民活動団体、企業と連携して観光客誘致に取り組む」は、前回「商店街やNPOと連携して観光客誘致に取り組む」と表記。

2 消費生活センターの認知・利用状況

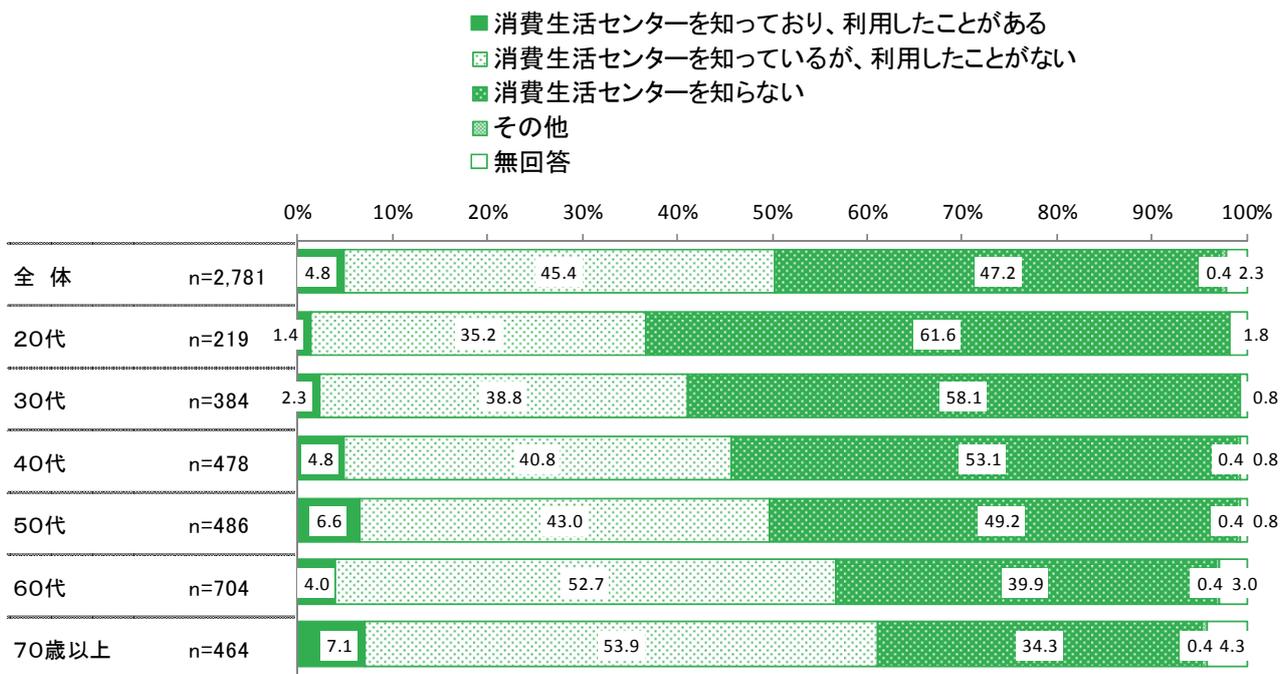
問 20 豊川市では消費生活センターを設置し、事業者に対する消費者の苦情相談や、多重債務相談などを無料で行っています。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 消費生活センターの認知・利用状況は“消費生活センターを知っている”が50.2%

消費生活センターの認知・利用状況は、「消費生活センターを知っており、利用したことがある」が4.8%、「消費生活センターを知っているが、利用したことがない」が45.4%、「消費生活センターを知らない」が47.2%となっている。また、「消費生活センターを知っており、利用したことがある」と「消費生活センターを知っているが、利用したことがない」をあわせた“消費生活センターを知っている”は50.2%となっている。

年齢別でみると、年齢が低くなるほど、「消費生活センターを知らない」の割合が高くなっており、「70歳以上」(34.3%)と「20代」(61.6%)の差は27.3ポイントと大きくなっている。【図表 46】

図表 46 消費生活センターの認知・利用状況



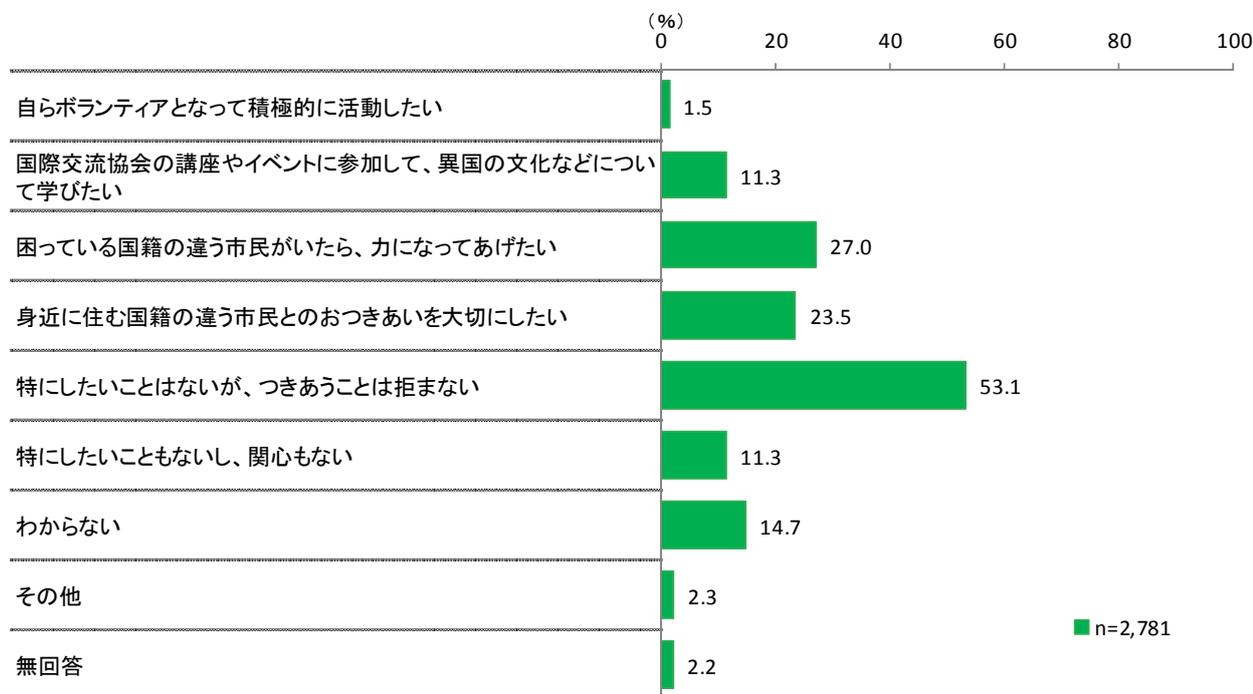
3 外国人とのつきあい方

問 21 現在、豊川市には、多くの外国籍住民が暮らしています。日本人と外国人が、同じ豊川市民として、快適に暮らしていけるようにするために、あなたは、どのようなことができると思いますか。次の中からあてはまるものを2つまで選んで○印をつけてください。

◆ 外国人とのつきあい方は「特にしたいことはないが、つきあうことは拒まない」が 53.1%

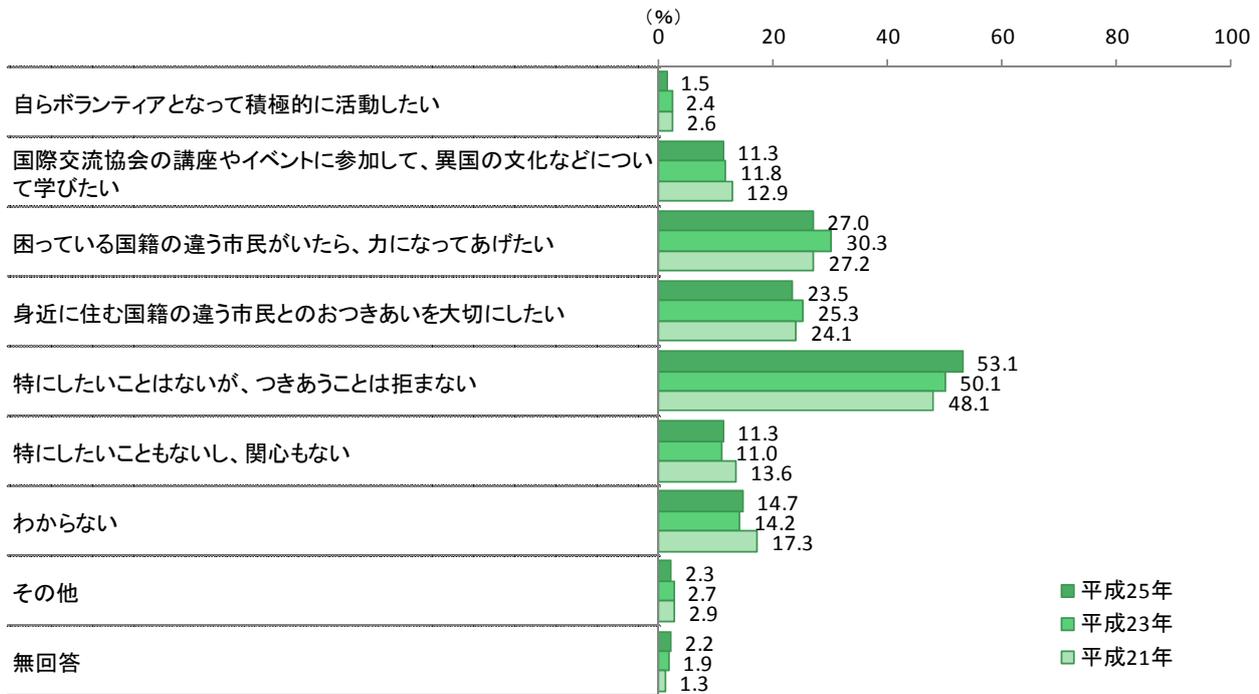
外国人とのつきあい方は「特にしたいことはないが、つきあうことは拒まない」(53.1%)が最も高くなっており、次いで「困っている国籍の違う市民がいたら、力になってあげたい」(27.0%)、「身近に住む国籍の違う市民とのおつきあいを大切にしたい」(23.5%)の順となっている。【図表 47】

図表 47 外国人とのつきあい方



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「特にしたいことはないが、つきあうことは拒まない」(3ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「困っている国籍の違う市民がいたら、力になってあげたい」(3.3ポイント減)となっている。
【図表 48】

図表 48 外国人とのつきあい方（経年比較）



8 行政・協働について

1 地域コミュニティのために行政が取り組むべきこと

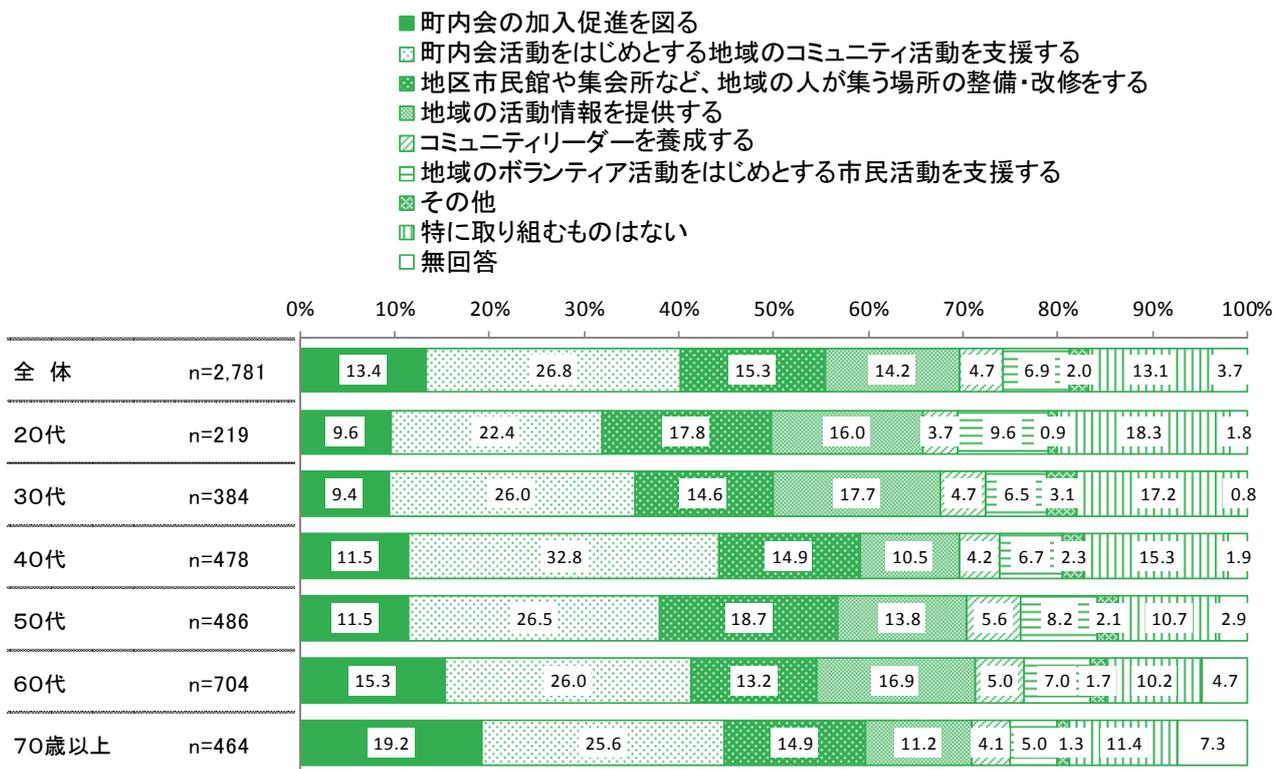
問 22 あなたは、地域のつきあいや人間関係を良好にするために、行政がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 地域コミュニティのために行政が取り組むべきことは「町内会活動をはじめとする地域のコミュニティ活動を支援する」が26.8%

地域コミュニティのために行政が取り組むべきことは「町内会活動をはじめとする地域のコミュニティ活動を支援する」(26.8%)が最も高く、次いで「地区市民館や集会所など、地域の人が集う場所の整備・改修をする」(15.3%)、「地域の活動情報を提供する」(14.2%)の順となっている。

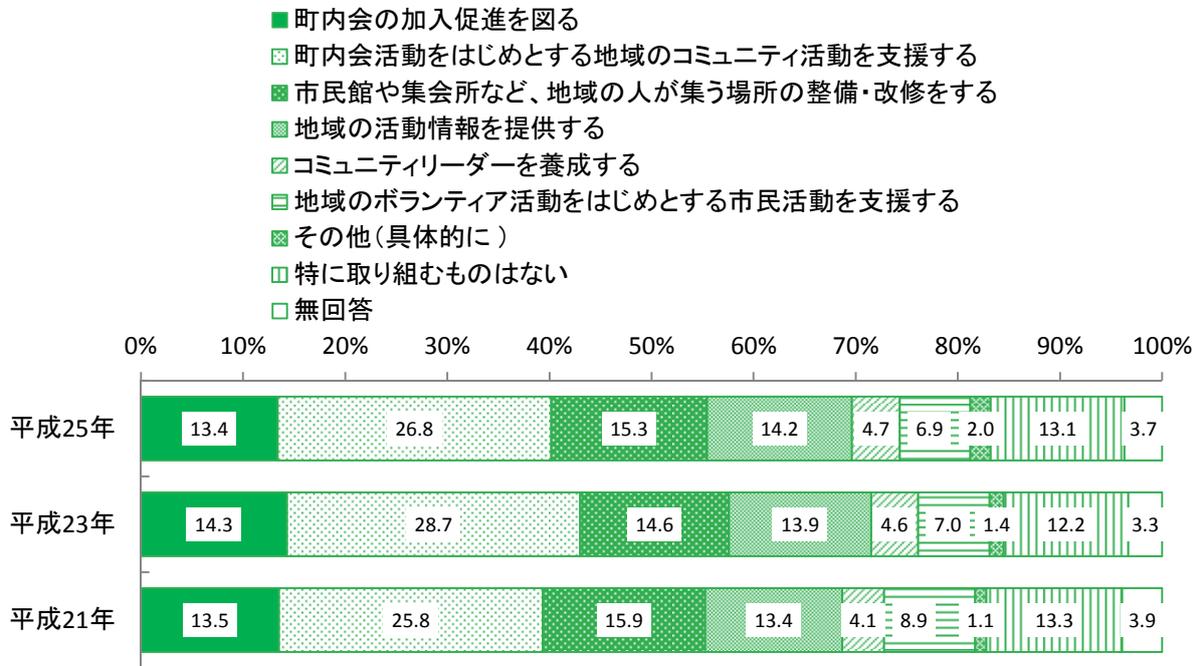
年齢別でみると、全体平均と比較して「町内会活動をはじめとする地域のコミュニティ活動を支援する」では「40代」(32.8%)の期待が高くなっている。一方、「特に取り組むものはない」では「20代」(18.3%)の割合がやや高くなっている。【図表 49】

図表 49 地域コミュニティのために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して、大きく変化した項目はない。【図表 50】

図表 50 地域コミュニティのために行政が取り組むべきこと（経年比較）



2 男女共同参画

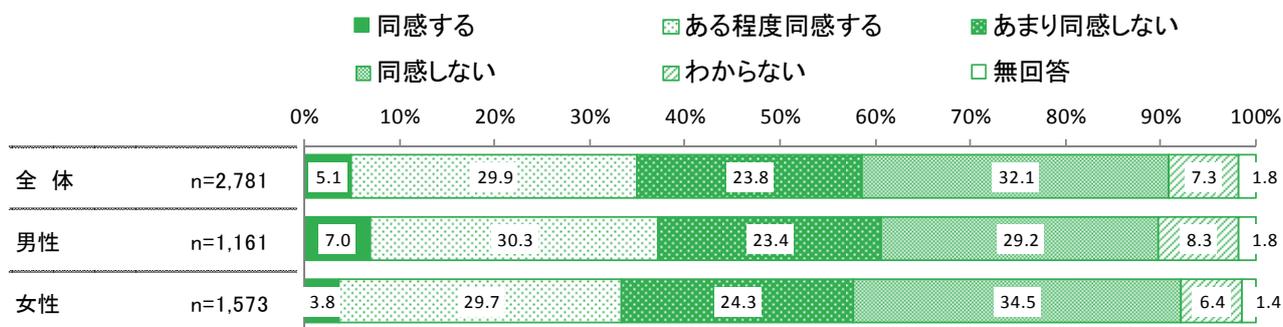
問 23 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について“考え方に同感する”が35.0%、“考え方に同感しない”が55.9%

「男は仕事、女は家庭」という考え方について「同感する」(5.1%)と「ある程度同感する」(29.9%)をあわせた“考え方に同感する”が35.0%、「あまり同感しない」(23.8%)と「同感しない」(32.1%)をあわせた“考え方に同感しない”が55.9%となっている。

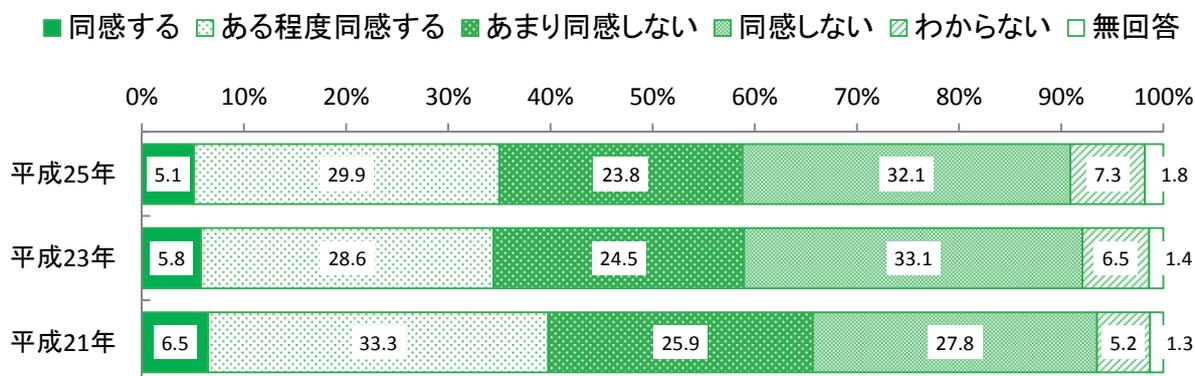
性別でみると、「同感する」では「男性」(7.0%)が「女性」(3.8%)よりも3.2ポイント上回っている。一方、「同感しない」では「女性」(34.5%)が「男性」(29.2%)よりも5.3ポイント上回っている。【図表 51】

図表 51 男女共同参画



経年比較でも、前回調査との差はみられない。【図表 52】

図表 52 男女共同参画（経年比較）



3 広報紙の閲読率

問 24 あなたは、市が配布している広報紙や議会だよりをどの程度読んでいますか。次の中からそれぞれにあてはまるものを1つずつ選んで○印をつけてください。

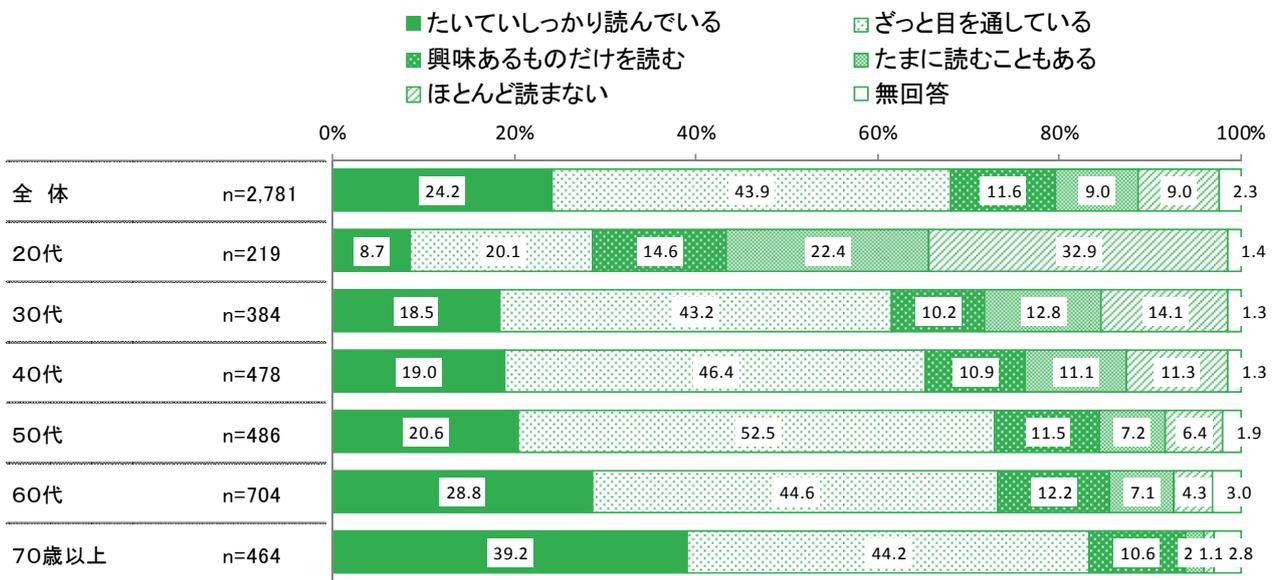
①広報とよかわ

◆ 広報とよかわの閲読率は「たいていしっかり読んでいる」が24.2%、「ほとんど読まない」が9.0%

広報とよかわの閲読率は「ざっと目を通してている」(43.9%)が最も高く、次いで「だいたいしっかり読んでいる」(24.2%)、「興味のあるものだけを読む」(11.6%)、「たまに読むこともある」(9.0%)、「ほとんど読まない」(9.0%)となっている。

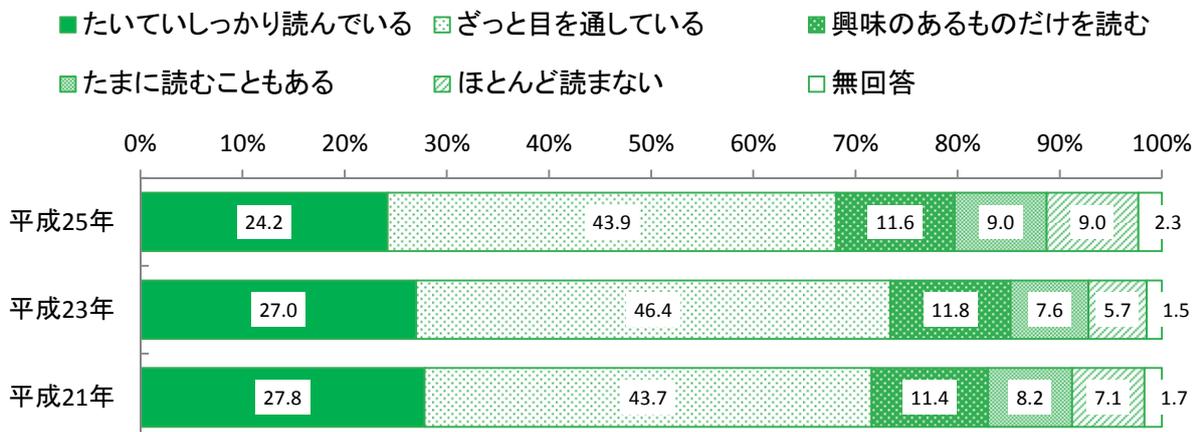
年齢別でみると、年齢が高くなるほど、「たいていしっかり読んでいる」の割合が高くなっている。【図表 53】

図表 53 広報紙の閲読率「広報とよかわ」



経年比較でみると、わずかではあるが「たいていしっかり読んでいる」が減少傾向となっており、前回調査と比較して「ほとんど読まない」が3.3ポイント増加している。【図表 54】

図表 54 広報紙の閲読率「広報とよかわ」(経年比較)



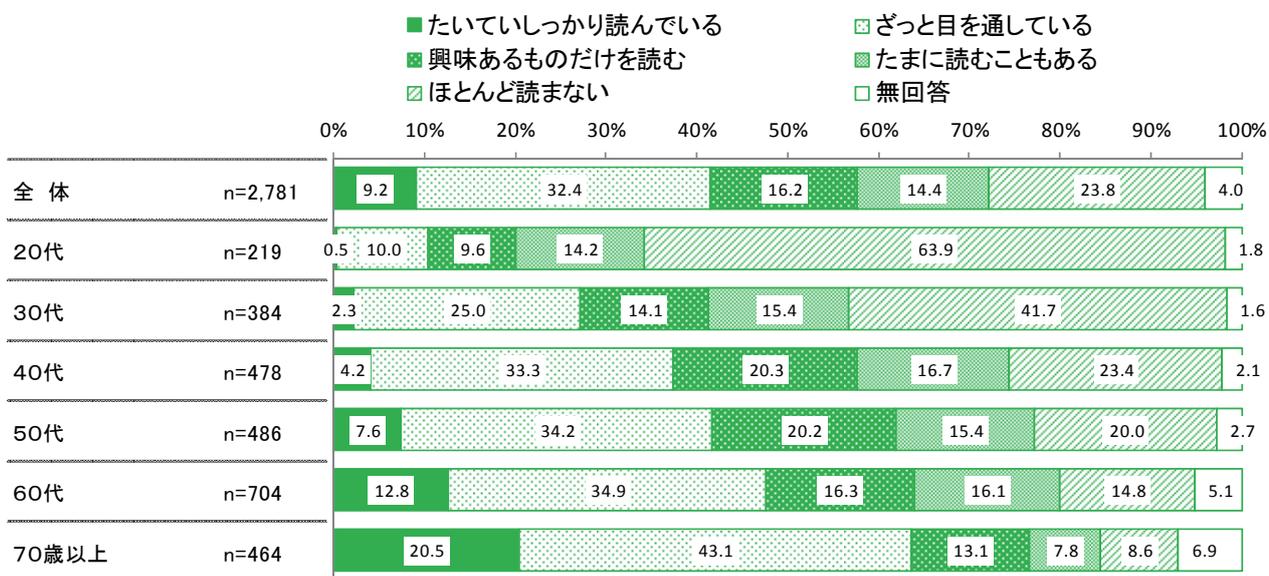
②議会だより

◆ 議会だよりの閲読率は「たいていしっかり読んでいる」が9.2%、「ほとんど読まない」が23.8%

議会だよりの閲読率は「ざっと目を通している」(32.4%)が最も高く、次いで「ほとんど読まない」(23.8%)、「興味のあるものだけを読む」(16.2%)、「たまに読むこともある」(14.4%)、「たいていしっかり読んでいる」(9.2%)となっている。

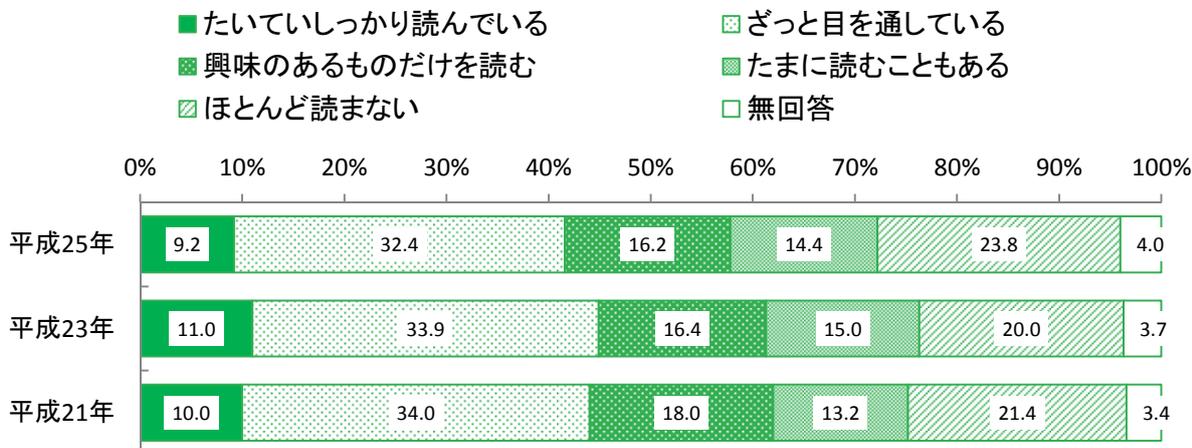
年齢別で見ると、年齢が高くなるほど、「たいていしっかり読んでいる」の割合が高くなっている。一方、「ほとんど読まない」では「70歳以上」(8.6%)と「20代」(63.9%)の差が55.3ポイントと大きくなっている。【図表 55】

図表 55 広報紙の閲読率「議会だより」



経年比較で見ると、前回調査と比較して「ほとんど読まない」が3.8ポイント増加している。【図表 56】

図表 56 広報紙の閲読率「議会だより」(経年比較)



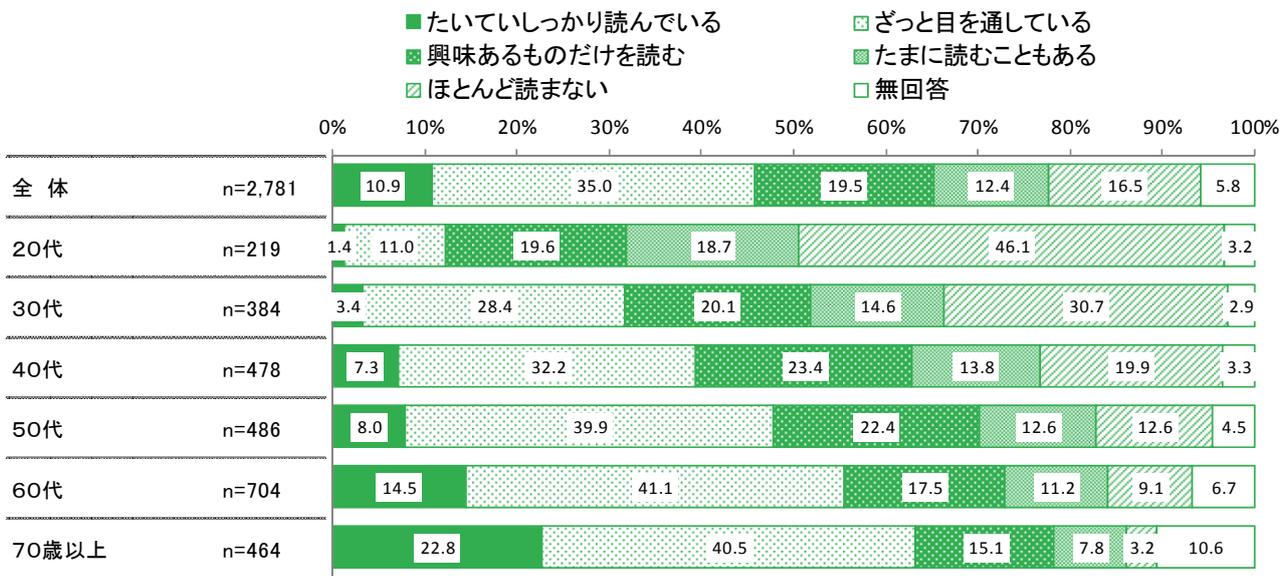
③その他のお知らせ

◆ その他のお知らせの閲読率は「たいていしっかり読んでいる」が10.9%、「ほとんど読まない」が16.5%

その他のお知らせの閲読率は「ざっと目を通している」(35.0%)が最も高く、次いで「興味のあるものだけを読む」(19.5%)、「ほとんど読まない」(16.5%)、「たまに読むこともある」(12.4%)、「たいていしっかり読んでいる」(10.9%)となっている。

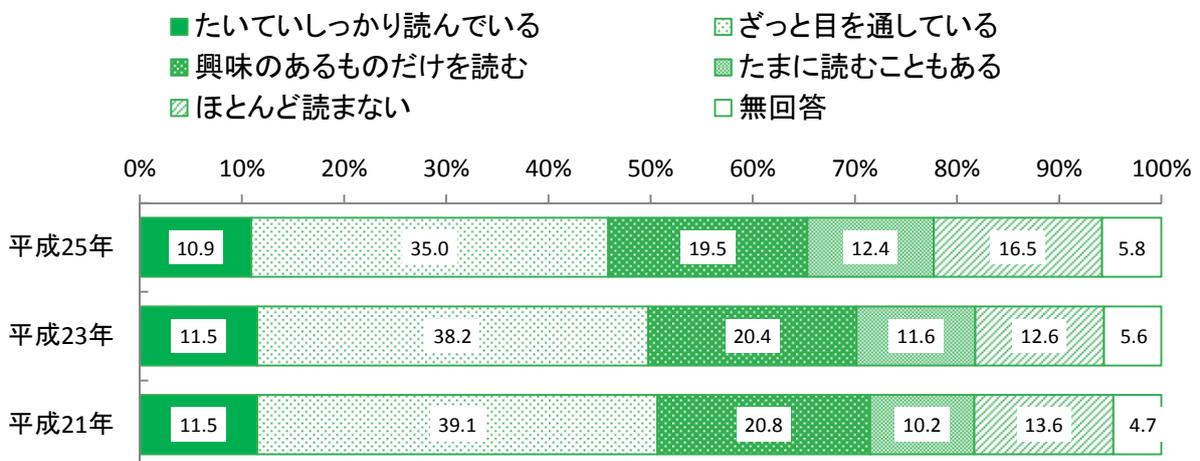
年齢別でみると、年齢が高くなるほど、「たいていしっかり読んでいる」の割合が高くなっている。一方、「ほとんど読まない」では「70歳以上」(3.2%)と「20代」(46.1%)の差が42.9ポイントと大きくなっている。【図表 57】

図表 57 広報紙の閲読率「その他お知らせ」



経年比較でみると、前回調査と比較して「ざっと目を通している」は3.2ポイント減少しており、「ほとんど読まない」が3.9ポイント増加している。【図表 58】

図表 58 広報紙の閲読率「その他お知らせ」(経年比較)



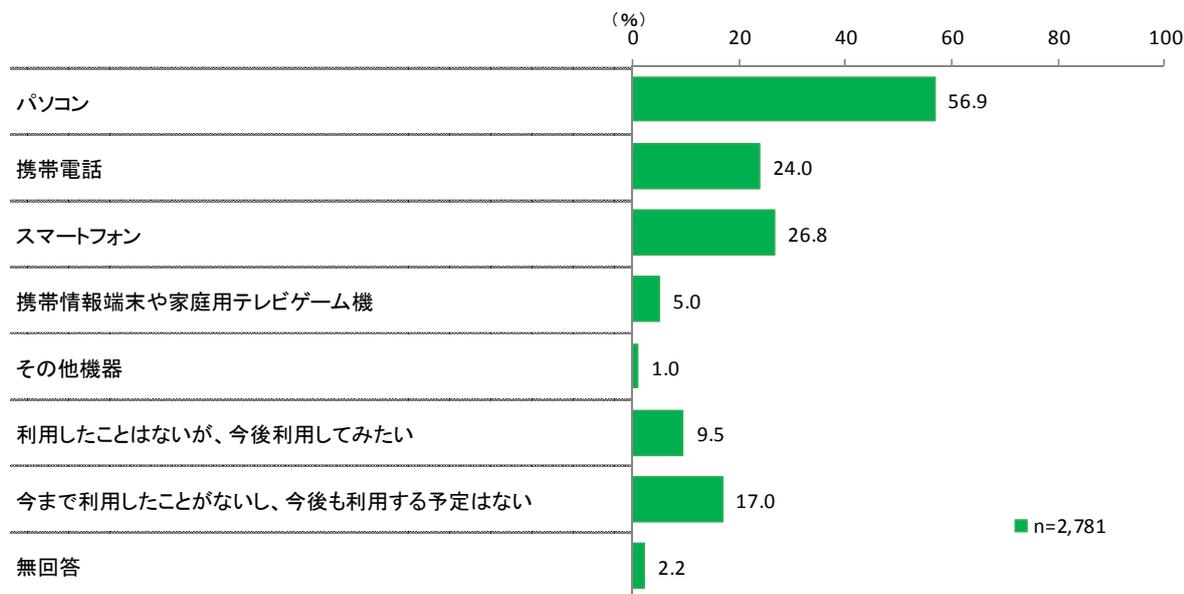
4 インターネットの利用端末

問 25 あなたは、インターネットをどのような端末で利用していますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ インターネットの利用端末は「パソコン」が56.9%、「スマートフォン」が26.8%

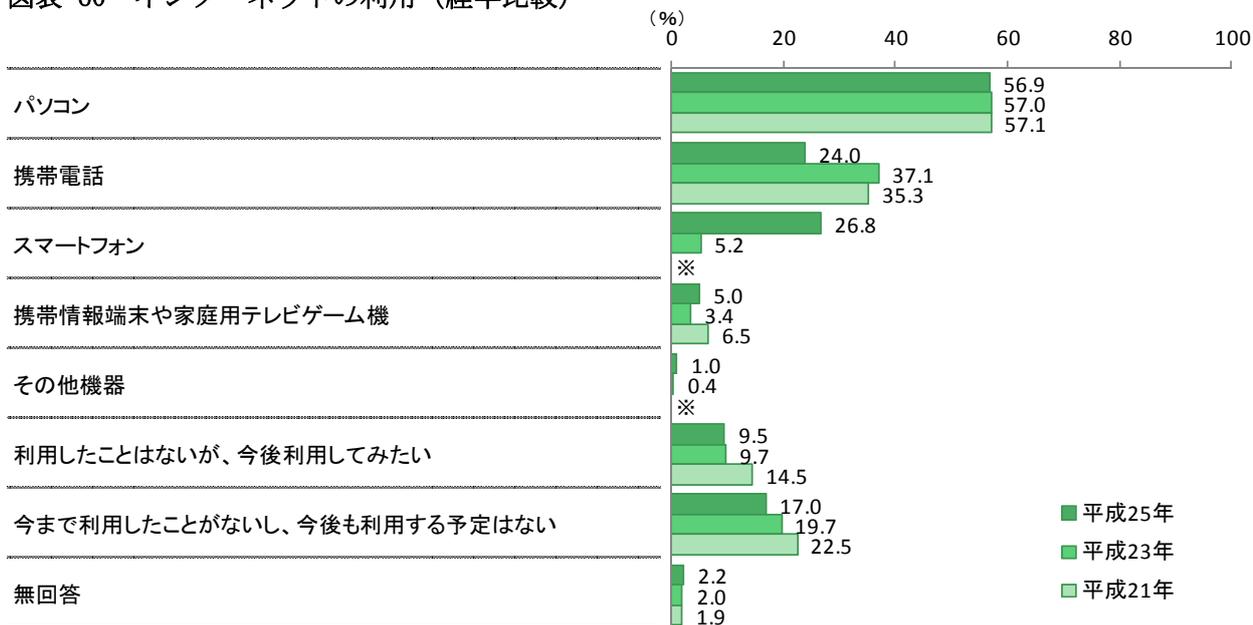
インターネットの利用端末は「パソコン」(56.9%)が最も高く、次いで「スマートフォン」(26.8%)、「携帯電話」(24.0%)、「今まで利用したことがないし、今後も利用する予定はない」(17.0%)の順となっている。【図表 59】

図表 59 インターネットの利用



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「スマートフォン」(21.6ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「携帯電話」(13.1ポイント減)となっている。【図表 60】

図表 60 インターネットの利用 (経年比較)



※調査項目に含まれず

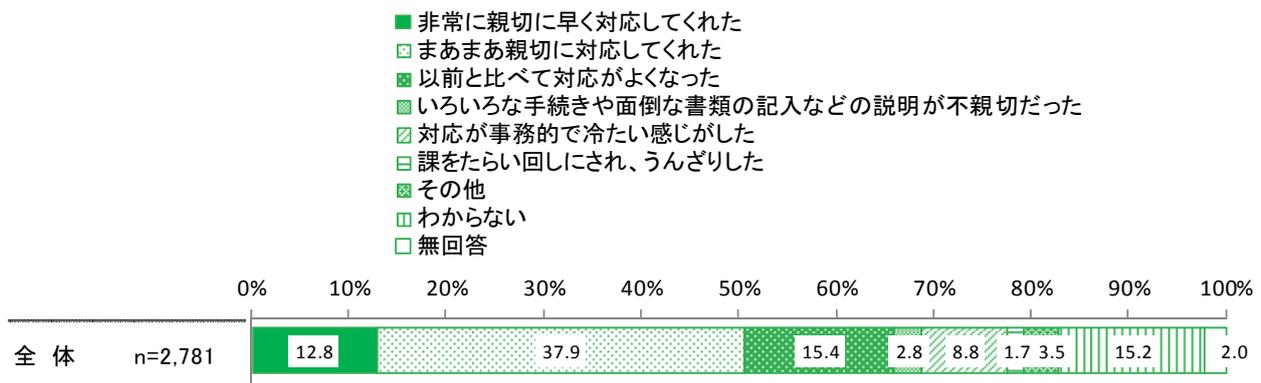
5 市の職員の対応への評価

問 26 あなたは最近、市の職員の対応についてどのように感じましたか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 市の職員の対応への評価は「まあまあ親切に対応してくれた」が37.9%

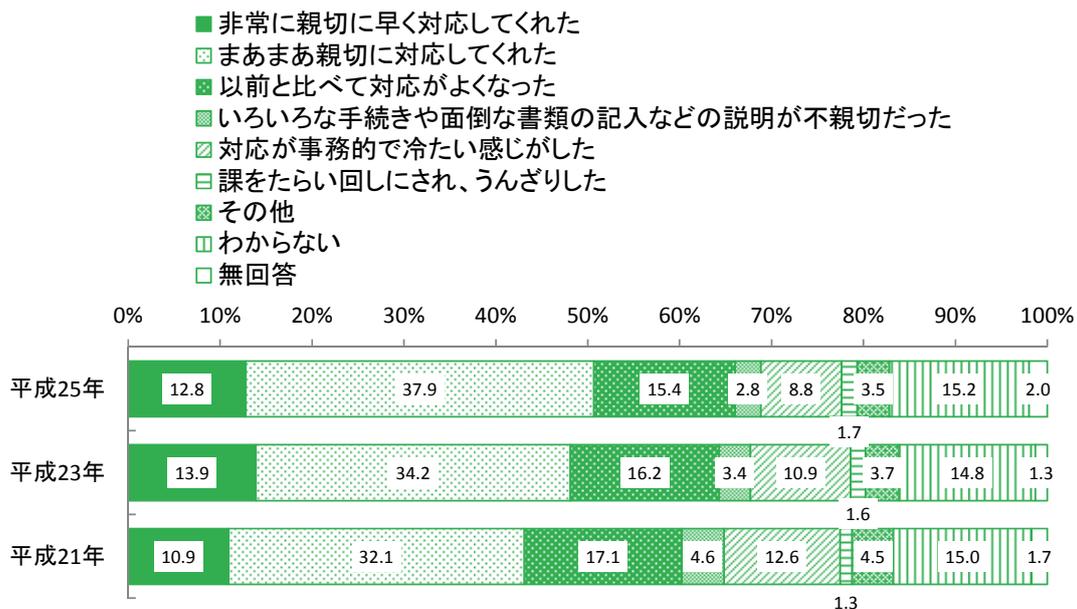
市の職員の対応への評価は「まあまあ親切に対応してくれた」(37.9%)が最も高く、次いで「以前と比べて対応がよくなった」(15.4%)、「わからない」(15.2%)、「非常に親切に早く対応してくれた」(12.8%)の順となっている。【図表 61】

図表 61 市の職員の対応への評価



経年比較でみると、「まあまあ親切に対応してくれた」で増加傾向にあり、「対応が事務的で冷たい感じがした」で減少傾向となっている。【図表 62】

図表 62 市の職員の対応への評価（経年比較）



6 合併の満足度

問 27 豊川市はこれまでに一宮町、音羽町及び御津町、小坂井町と三度の合併を行いました。合併後の施策について、合併前と比べて、あなたは今どのような感想をお持ちですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 合併の満足度は“満足している”が25.9%、“不満である”が15.4%

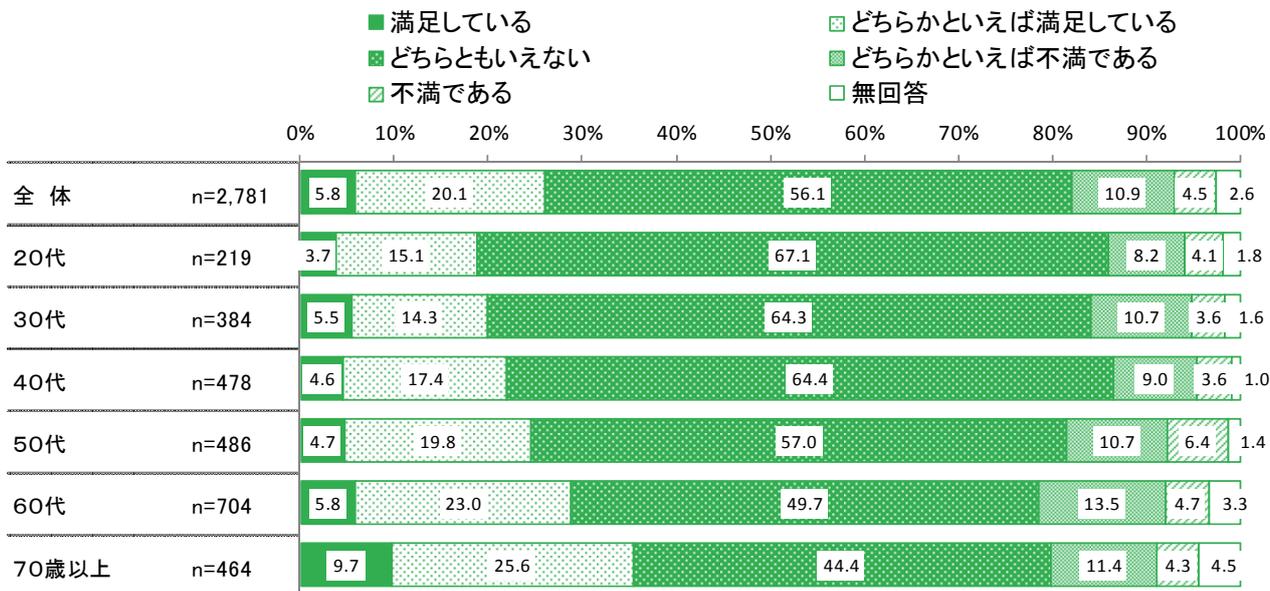
合併の満足度は「どちらともいえない」(56.1%)が最も高くなっており、「どちらかといえば満足している」(20.1%)と「満足している」(5.8%)をあわせた“満足している”が25.9%、「どちらかといえば不満である」(10.9%)と「不満である」(4.5%)をあわせた“不満である”が15.4%となっている。

年齢別で見ると、“満足している”は、年齢が高くなるほど、割合が高くなっている。【図表 63】

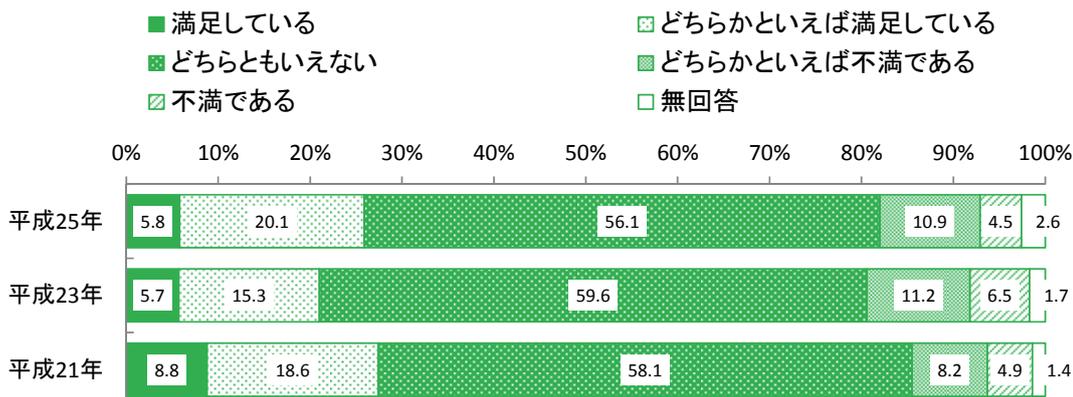
経年比較で見ると、“満足している”の割合が前回調査より4.9ポイント増加となっている。【図表 64】

小学校区別で見ると、“不満である”では「御津北部小学校区」で49.2%、「御津南部小学校区」で38.1%となっており、旧御津町で割合が高くなっている。また、“不満である”の割合が、旧豊川市では平均8.3%と1割以下であるのに対し、旧郡部（旧一宮町、旧音羽町、旧御津町、旧小坂井町）では平均31.0%と約3割が“不満である”となっている。【図表 65】

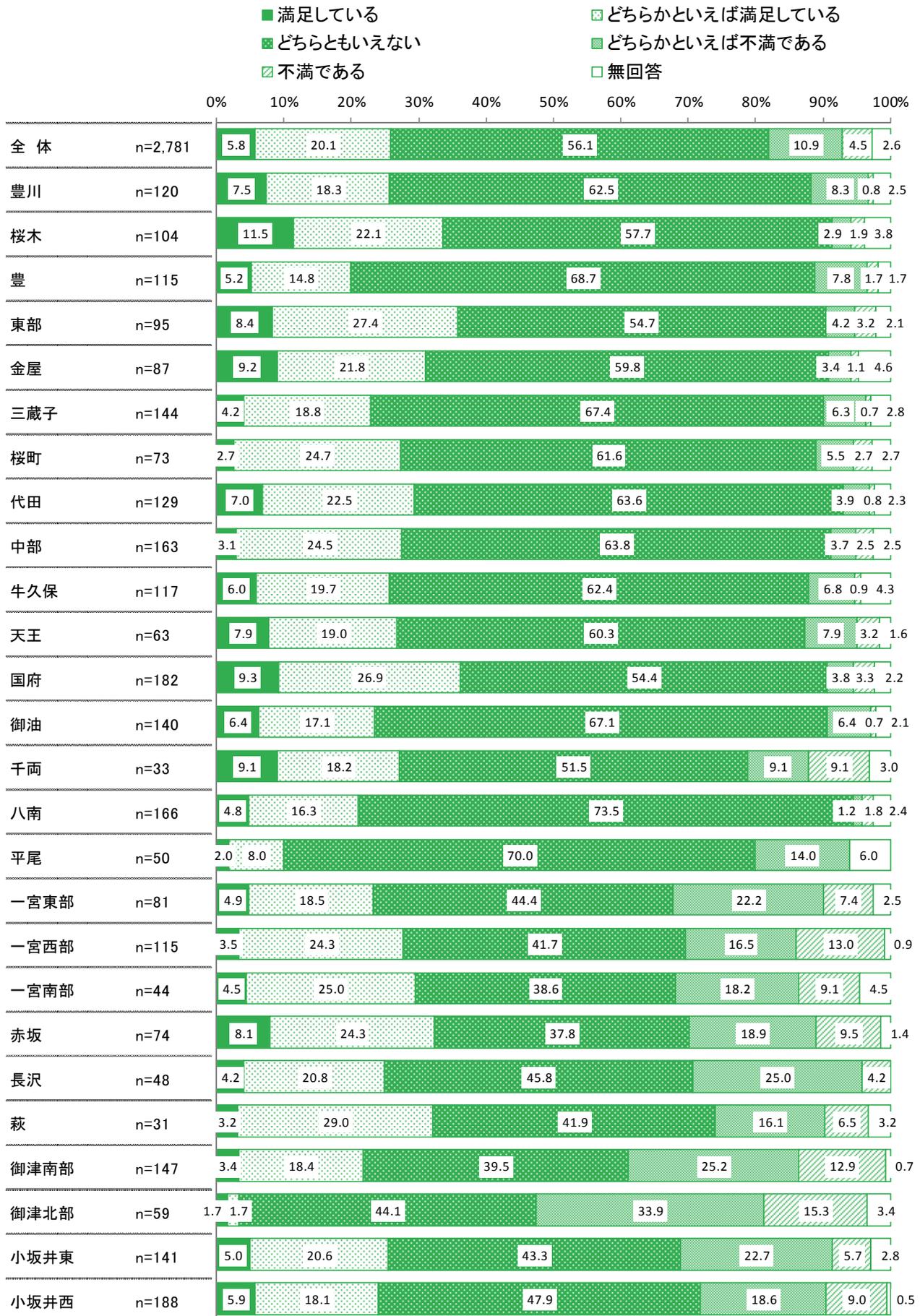
図表 63 合併の満足度



図表 64 合併の満足度（経年比較）



図表 65 合併の満足度（小学校区別）



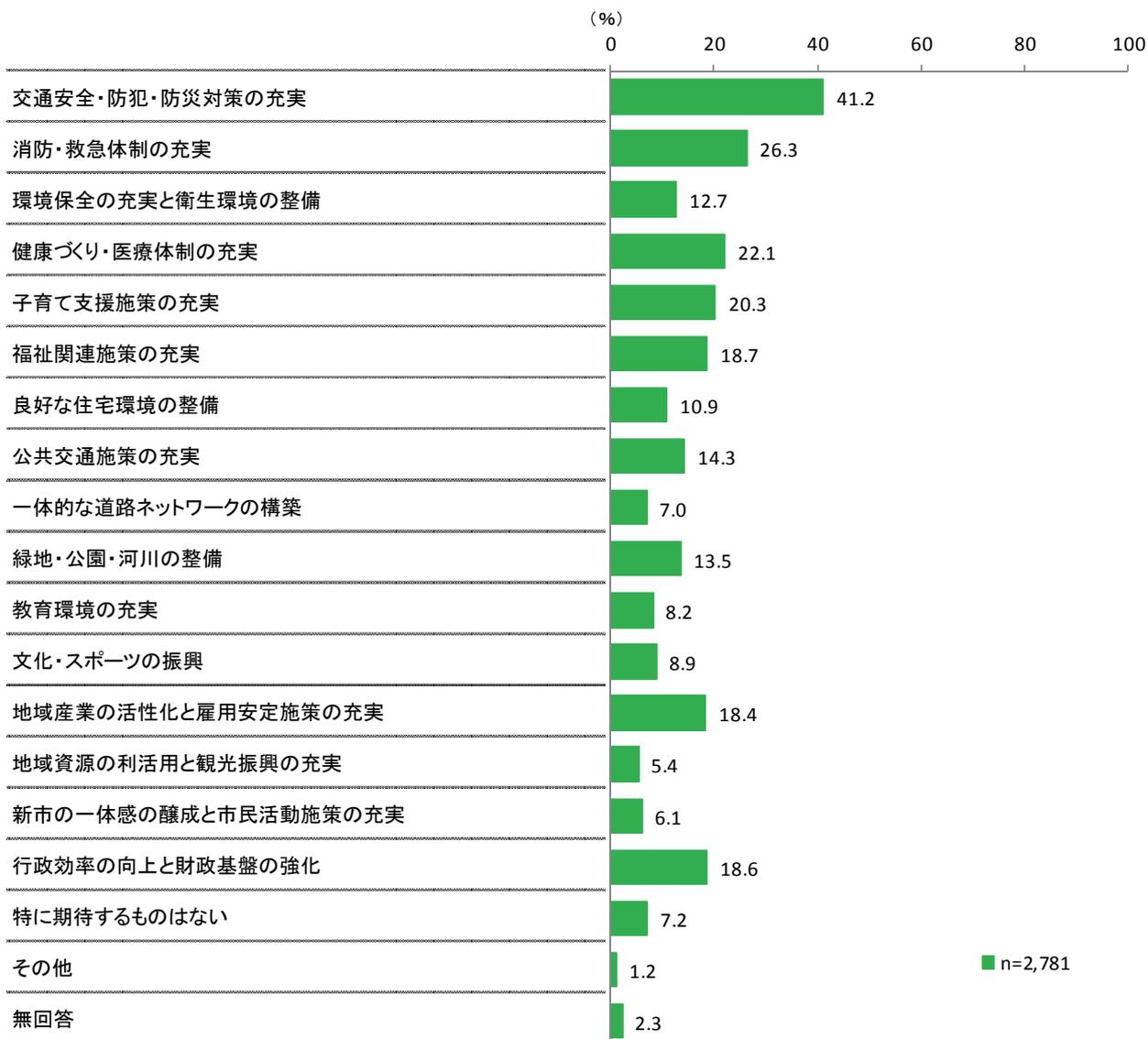
7 合併後の豊川市への期待

問 28 あなたは、合併により市域が広がった豊川市に何を期待していますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 合併後の豊川市への期待は「交通安全・防犯・防災対策の充実」が41.2%

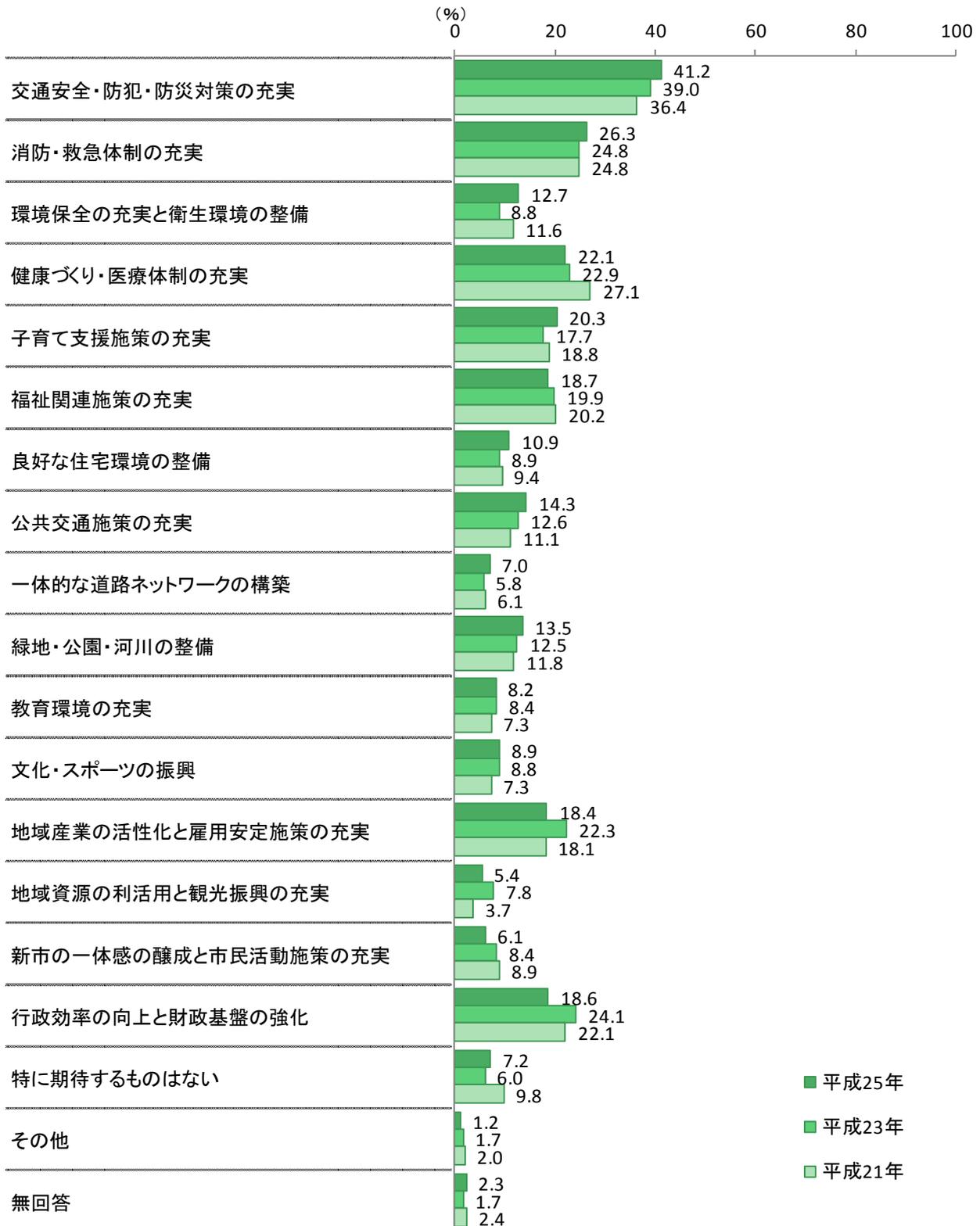
合併後の豊川市への期待は「交通安全・防犯・防災対策の充実」(41.2%)が最も高く、次いで「消防・救急体制の充実」(26.3%)、「健康づくり・医療体制の充実」(22.1%)、「子育て支援施策の充実」(20.3%)の順となっている。【図表 66】

図表 66 合併後の豊川市への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「環境保全の充実と衛生環境の整備」(3.9ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「行政効率の向上と財政基盤の強化」(5.5ポイント減)、「地域産業の活性化と雇用安定施策の充実」(3.9ポイント減)となっている。【図表 67】

図表 67 合併後の豊川市への期待（経年比較）



第 10 回豊川市市民意識調査報告書 【概要版】

発行年月：平成 25 年 8 月

発 行：豊川市 企画部 秘書課 広報広聴係

豊川市諏訪 1-1

TEL：0533-89-2121

FAX：0533-89-2124

